秋田県文化財調査報告書第388集

薬　師　遺　跡

－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００５・３

秋田県教育委員会

薬師遺跡

－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書－

２００５・３

秋田県教育委員会

1　ＳＯ290カマド状遺構燃焼部

2　ＳＯ552カマド状遺構燃焼部

1　ＳＭ322･323道路跡（南から）

2　ＳＭ322･323道路跡（北から）

序

本県には、これまでに発見された約4,600か所の遺跡のほか、先人の遺産である埋蔵文化財が豊富に残されています。これらの埋蔵文化財は、地域の歴史や伝統を理解し、未来を展望した彩り豊かな文化を創造していくうえで、欠くことのできないものであります。

一方、日本海沿岸東北自動車道をはじめとする高速交通体系の整備や国道バイパスの建設は、ゆとりと活力に満ちた新しいふるさと秋田の創造をめざす開発事業の根幹をなすものであります。当教育委員会ではこれら地域開発との調和を図りながら、埋蔵文化財を保存し、活用することに鋭意取り組んでおります。

本報告書は、一般国道13号神宮寺バイパス建設に先立って、平成15年度に神岡町において実施した薬師遺跡の発掘調査成果をまとめたものであります。調査では中世の掘立柱建物跡や道路跡などが検出され、13世紀から15世紀にわたって集落が営まれていたことが分かりました。

本書が、ふるさとの歴史資料として広く活用され、埋蔵文化財保護の一助となることを心から願うものであります。

最後になりましたが、発掘調査ならびに本報告書の刊行にあたり、御協力いただきました国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所、神岡町教育委員会など関係各位に対し、厚くお礼申し上げます。

平成17年3月

秋田県教育委員会

教育長　小野寺　清

例　　言

1　本報告書は、一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に伴い平成15（2003）年度に調査した神岡町に所在する薬師遺跡の発掘調査報告書である。

2　調査の内容については、すでにその一部が埋蔵文化財センター年報などによって公表されているが、本報告書を正式なものとする。

3　本報告書に使用した地形図は、国土地理院発行の５万分の１『大曲』、『刈和野』、２万５千分の１『大曲』、『刈和野東』である。

4　遺跡基本層序と遺構土層中の土色は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修、財団法人日本色彩研究所色票監修『新版　標準土色帖』2000年度版によった。

5　掘立柱建物跡については、八戸工業大学高島成侑教授に御検討いただいた。第５章はその玉稿である。

6　第６章「自然科学的分析」はパリノ・サーヴェイ株式会社に分析を委託した成果報告である。

7　本報告書の執筆と編集は赤上秀人と児玉　準が行った。

8　本報告書を作成するにあたり、以下の方々から御教示いただいた。記して感謝申し上げる次第である。（順不同、敬称略）

高島成侑、八重樫忠郎、斉藤浩志

凡　　例

1　遺構番号は、その種類ごとに下記の略記号を付し、検出順に通し番号を付したが、後に検討の結果、遺構ではないと判断したものは欠番とした。

ＳＢ・・・掘立柱建物跡	ＳＯ・・・カマド状遺構	ＳＭ・・・道路跡
ＳＤ・・・溝跡	ＳＫ・・・土坑	ＳＥ・・・井戸
ＳＸ・・・性格不明遺構	ＳＫＰ・・・柱穴様ピット	

2　遺跡基本層位にはローマ数字を、遺構土層には算用数字を使用した。

3　遺構内出土遺物には挿図ごとに番号を付し、遺構外出土遺物には一連番号を付した。

4　遺物写真図版中に付した９－１などの番号は、第９図１の遺物に対応する。

5　基本的に遺構実測図は1/40及び1/20、遺物実測図は1/2及び1/3の縮尺で掲載した。各頁に付したスケールを参照されたい。

6　挿図に使用したスクリーントーンは、下記のとおりである。

焼土　　灰　　柱痕

遺物（敲打痕）

目　　次

第１章　はじめに ……1
第１節　調査に至る経過 ……1
第２節　調査要項 ……1
第２章　遺跡の環境 ……3
第１節　遺跡の位置と立地 ……3
第２節　歴史的環境 ……5
第３章　発掘調査の概要 ……8
第１節　遺跡の概観 ……8
第２節　調査と整理の方法 ……8
第３節　調査の経過 ……8
第４節　整理作業の方法と経過 ……13
第４章　調査の記録 ……14
第１節　基本層位 ……14
第２節　検出遺構とその出土遺物 ……14
1　掘立柱建物跡 ……14
2　カマド状遺構 ……32
3　道路跡 ……45
4　溝跡 ……46
5　土坑 ……53
6　井戸跡 ……70
7　性格不明遺構 ……70
8　柱穴様ピット ……75
第３節　遺構外出土遺物 ……75
1　縄文時代の遺物 ……75
2　古代の遺物 ……81
3　中世の遺物 ……81
第５章　薬師遺跡の掘立柱建物跡 ……89
第６章　自然科学的分析 ……94
第１節　放射性炭素年代測定 ……94
第２節　薬師遺跡出土炭化材の樹種同定 ……96
第７章　まとめ ……98
図版
報告書抄録

挿図目次

第１図　遺跡の位置……3
第２図　遺跡の位置……4
第３図　周辺の遺跡……6
第４図　薬師遺跡調査範囲図……9
第５図　グリッド配置図……10
第６図　土層模式図……14
第７図　遺構配置図……15･16
第８図　ＳＢ01掘立柱建物跡……17
第９図　ＳＢ01･03出土遺物……18
第10図　ＳＢ02･03･15掘立柱建物跡……20
第11図　ＳＢ04掘立柱建物跡……21
第12図　ＳＢ05･07掘立柱建物跡……23
第13図　ＳＢ06掘立柱建物跡……25･26
第14図　ＳＢ06掘立柱建物跡出土遺物……27
第15図　ＳＢ07･ＳＭ322･ＳＫ252･ＳＸ249出土遺物……28
第16図　ＳＢ08･09掘立柱建物跡……29
第17図　ＳＢ10･14掘立柱建物跡……30
第18図　ＳＢ11掘立柱建物跡……31
第19図　ＳＤ706･716溝、カマド状遺構
　　分布図……33
第20図　ＳＯ290Ａ･Ｂカマド状遺構……34
第21図　ＳＯ293･476カマド状遺構……36
第22図　ＳＯ519･530カマド状遺構……37
第23図　ＳＯ552･565カマド状遺構……39
第24図　ＳＯ582カマド状遺構……41
第25図　ＳＯ600カマド状遺構……43
第26図　ＳＯ807カマド状遺構……44
第27図　ＳＤ109･189･243･663溝跡……47
第28図　ＳＤ798･866･970溝跡……51
第29図　ＳＫ21･33･53･57･66･71･75･86･88
　　･89･107土坑……54
第30図　ＳＫ112･120･152･179･237･238
　　･243土坑……57
第31図　ＳＫ252･273･278･307･333･339
　　･344･353･354･362･384･411土坑……59
第32図　ＳＫ412･432･435･445･452･457
　　･473･474･515･531･541･548土坑……63
第33図　ＳＫ603･613･635･647･649･650
　　･655･661･760･785･786･792土坑……66
第34図　ＳＫ793～795･808･820･863･907
　　･1127土坑……69
第35図　ＳＥ649井戸跡、ＳＸ249･431
　　性格不明遺構……71
第36図　ＳＸ668性格不明遺構……72
第37図　柱穴様ピット分布図……73･74
第38図　遺構外出土遺物（１）……82
第39図　遺構外出土遺物（２）……83
第40図　遺構外出土遺物（３）……84
第41図　遺構外出土遺物（４）……85
第42図　遺構外出土遺物（５）……86
第43図　遺構外出土遺物（６）……87
第44図　遺構外出土遺物（７）……88
第45図　掘立柱建物跡変遷図……99

表　目　次

第１表　柱穴様ピット観察表（１）……76
第２表　柱穴様ピット観察表（２）……77
第３表　柱穴様ピット観察表（３）……78
第４表　柱穴様ピット観察表（４）……79
第５表　柱穴様ピット観察表（５）……80
第６表　放射性炭素年代測定および
　　暦年代較正の結果……95
第７表　薬師遺跡出土炭化材の樹種
　　同定結果一覧……97

図　版　目　次

巻頭図版１	1	ＳＯ290カマド状遺構燃焼部	2	ＳＯ552カマド状遺構燃焼部
巻頭図版２	1	ＳＭ322・323道路跡	2	ＳＭ322・323道路跡
図版１	1	ＳＢ01掘立柱建物跡	2	ＳＢ01･02掘立柱建物跡
図版２	1	ＳＢ05･07掘立柱建物跡	2	ＳＢ05掘立柱建物跡
図版３	1	ＳＯ290Ａ･Ｂカマド状遺構	2	ＳＯ293カマド状遺構
図版４	1	ＳＯ552カマド状遺構	2	ＳＯ552カマド状遺構
図版５	1	ＳＯ565カマド状遺構	2	ＳＯ565カマド状遺構
図版６	1	ＳＯ582カマド状遺構	2	ＳＯ600カマド状遺構
図版７	1	ＳＯ600カマド状遺構	2	ＳＯ600カマド状遺構
図版８	1	ＳＯ807カマド状遺構	2	ＳＯ807カマド状遺構
図版９	1	ＳＭ322・323道路跡	2	ＳＭ322・323道路跡
図版10	1	ＳＭ323道路跡	2	ＳＤ529溝跡
図版11	1	ＳＫ89土坑	2	ＳＫ107土坑
図版12	1	ＳＫ152土坑	2	ＳＫ661土坑
図版13	1	ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器	2	ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器
図版14	1	ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器	2	ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器
図版15	1	ＳＢ03掘立柱建物跡出土中世陶器	2	ＳＢ06掘立柱建物跡出土中世陶器
図版16	遺構外出土縄文土器			
図版17	1	遺構外出土縄文土器	2	遺構外出土石器
図版18	1	遺構外出土石器	2	遺構外出土石器
図版19	1	遺構外出土石器	2	遺構外出土石器
図版20	炭化材の走査電子顕微鏡写真			

第１章　はじめに

第１節　調査に至る経過

一般国道13号は、福島県福島市を基点として山形県山形市・新庄市、秋田県湯沢市・横手市・大曲市等の主要都市を経て秋田市に至る総延長314.6㎞の主要幹線道路である。かつては羽州街道と呼ばれ、主要街道の東海道、中山道、甲州街道、日光街道、奥州街道のいわゆる五街道に準ずる脇街道、往環道の一つであり、太平洋側から日本海側に縦貫する輸送及び交通連絡上の主要幹線として重視されていた。

大曲市・神岡町地域では、沿道地域の開発、地域間交流の増大等によって交通量が増加し、市街地では走行速度の低下、渋滞の発生、冬季の積雪による幅員狭小等、広域幹線道路としての機能が低下している。神宮寺バイパスは、これらの問題を解消するとともに、平成13年度に完成した刈和野バイパス及び大曲バイパスと一体的に機能し、大曲都市圏の産業・経済・文化のいっそうの発展と人口の定着による生活改善を図るために計画された路線で、大曲市花館を起点とし、神岡町北楢岡字下船戸を終点とする延長9.6㎞、幅員28.0ｍの自動車専用道路である。

計画路線内には埋蔵文化財が包蔵されている可能性があることから、道路工事に先立って国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所より文化財保護法に基づいて、埋蔵文化財包蔵地の確認と今後の対応について、秋田県教育委員会に調査の依頼があった。これを受けて秋田県教育委員会では、計画路線内の分布調査を実施し、路線内に係る埋蔵文化財包蔵地および包蔵地と推測される地区については、今後確認調査が必要であることと、確認調査の結果記録保存の必要な埋蔵文化財包蔵地については、発掘調査を実施すべきことを回答した。平成14（2001）年度に薬師遺跡の確認調査を行い、遺跡の一部が計画路線内に及んでいることを確認し、国土交通省と協議の結果、事業計画との関連から平成15（2002）年度に発掘調査を実施するに至った。

第２節　調査要項

遺　跡　名	薬師遺跡（遺跡番号　７ＹＳ）
遺跡所在地	秋田県仙北郡神岡町神宮寺字薬師26外
調 査 期 間	平成15年5月20日～9月22日
調 査 面 積	7,500㎡
調査主体者	秋田県教育委員会
調査担当者	秋田県埋蔵文化財センター
	赤上　秀人（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　学芸主事）
	本間　與和（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　調査・研究員）
	深沢恵里子（秋田県埋蔵文化財センター南調査課　調査・研究員）
総務担当者	金　　義晃（秋田県埋蔵文化財センター総務課　課長）

高橋　　修（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主任）
田口　　旭（秋田県埋蔵文化財センター総務課　主事）
（担当者・職名は調査時のものである）

調査協力機関　国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所
神岡町教育委員会

第２章　遺跡の環境

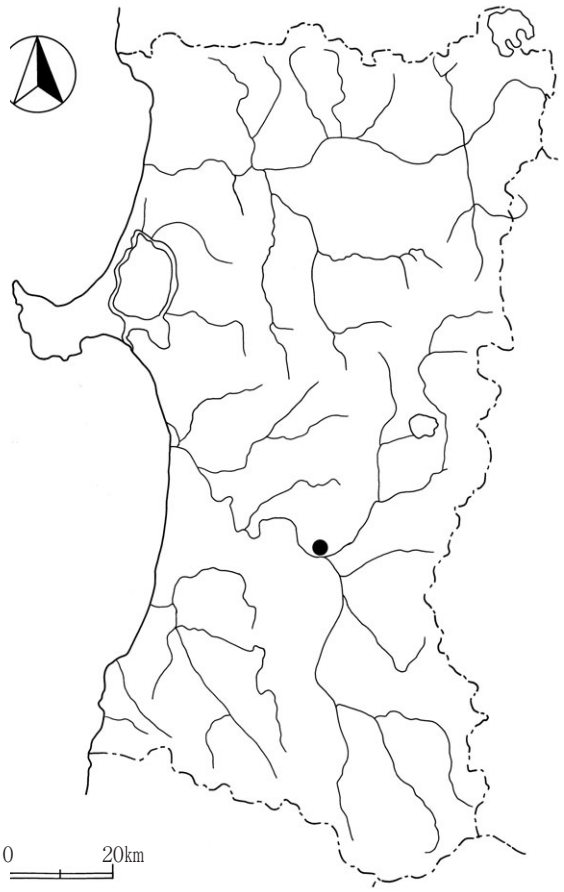
第１節　遺跡の位置と立地　（第１・２図）

薬師遺跡のある神岡町は、秋田県の南部、仙北郡の中央よりやや西、雄物川の上・中流域に広がる横手盆地の北西部に位置する。東は大曲市、西と北は西仙北町、南は南外村に接している。

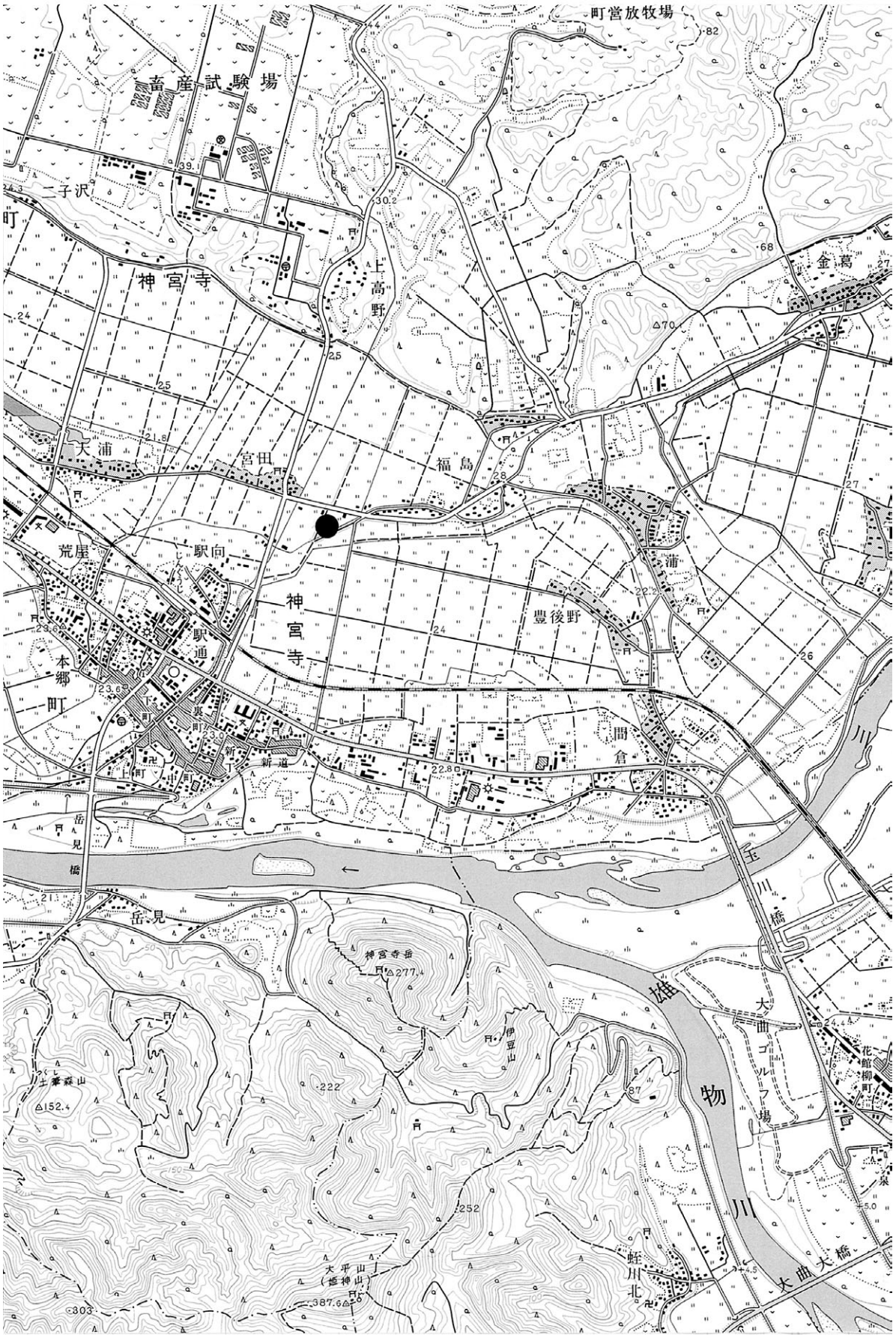
奥羽盆地列（東北日本内側盆地列）のなかで最大の盆地である横手盆地南端の山地を源流とする雄物川は、町域の東部で玉川と合流し、南部で姫神山山地の神宮寺嶽北麓を西に流れ、西部に至って大きく蛇行しながら北に向かって流れている。そして、途中で出羽山地を先行的に横断すると、秋田平野、最終的には日本海にその豊かな水量を注いでいる。神岡町は、その雄物川によって形成された先行谷の南の入り口にひらけた町である。また、町内を南東―北西に奥羽本線が縦貫し、これと並行して一般国道13号（旧羽州街道）が走る交通の要所となっている。町域は東西方向約10.0㎞、南北方向約7.6㎞で、総面積は約35.16㎢にのぼる。

薬師遺跡は、神岡町の中心部からやや北東、ＪＲ奥羽本線神宮寺駅の北東約0.7㎞の地点にあり、地理的には、北緯39°29′44″、東経140°26′11″に位置し、西流する雄物川右岸に形成された標高25～30ｍの河岸段丘上に立地している。遺跡周辺の地形は、大きく山地、段丘、低地によって構成される。遺跡北側は標高100ｍに満たない低い山地であるが、雄物川を挟んで南側の姫神山山地は出羽山地の東側の縁部にあたり、主峰姫神山（387.6ｍ）や神宮寺岳（277.4ｍ）が遺跡の南方にそびえる。遺跡の東西及び南側の低地は雄物川によって形成された先行谷であるが、独特の幅狭い狭窄部低地といった峡谷の景観ではなく、広々とした氾濫平野の感じが強く印象付けられる。

現在、遺跡地から雄物川までは直線で1.4㎞である。先行谷の広がりは町の北部一帯に広がる中央低台地に含まれる高野の台地と、南部に東から西に流れる雄物川の間に広がる地域で、直線距離にして南北２～３㎞余りである。高野の台地の南の東西に広がる砂礫段丘の地域は水田地帯として整備されているが、先行谷の最下位の低地には河原、氾濫平野、砂堆地、旧河道などが散在する。



第１図　遺跡の位置


町営放牧場
畜産試験場
二子沢
神宮寺
上高野
金高
大浦
宮田
福島
荒屋
駅向
駅通
本郷
町
神宮寺
豊後野
蒲
間倉
裏町
新丁
新道
上町
岳見
岳見橋
神宮寺岳
伊豆山
土筆森山
大平山
(姫神山)
蛭川北
大曲ゴルフ場
花館柳町
大曲大橋
雄物川
玉川橋
0
2km

第２図　遺跡の位置

第２節　歴史的環境

薬師遺跡は、中世を主体とする遺跡である。このほか、縄文時代後期・晩期や平安時代、近世以降の遺物も確認した。薬師遺跡の立地する雄物川流域では、雄物川の流路の変化に伴い、縄文時代から近世にいたる様々な遺跡を確認している。これらの遺跡について各時代ごとに概観する（第３図）。

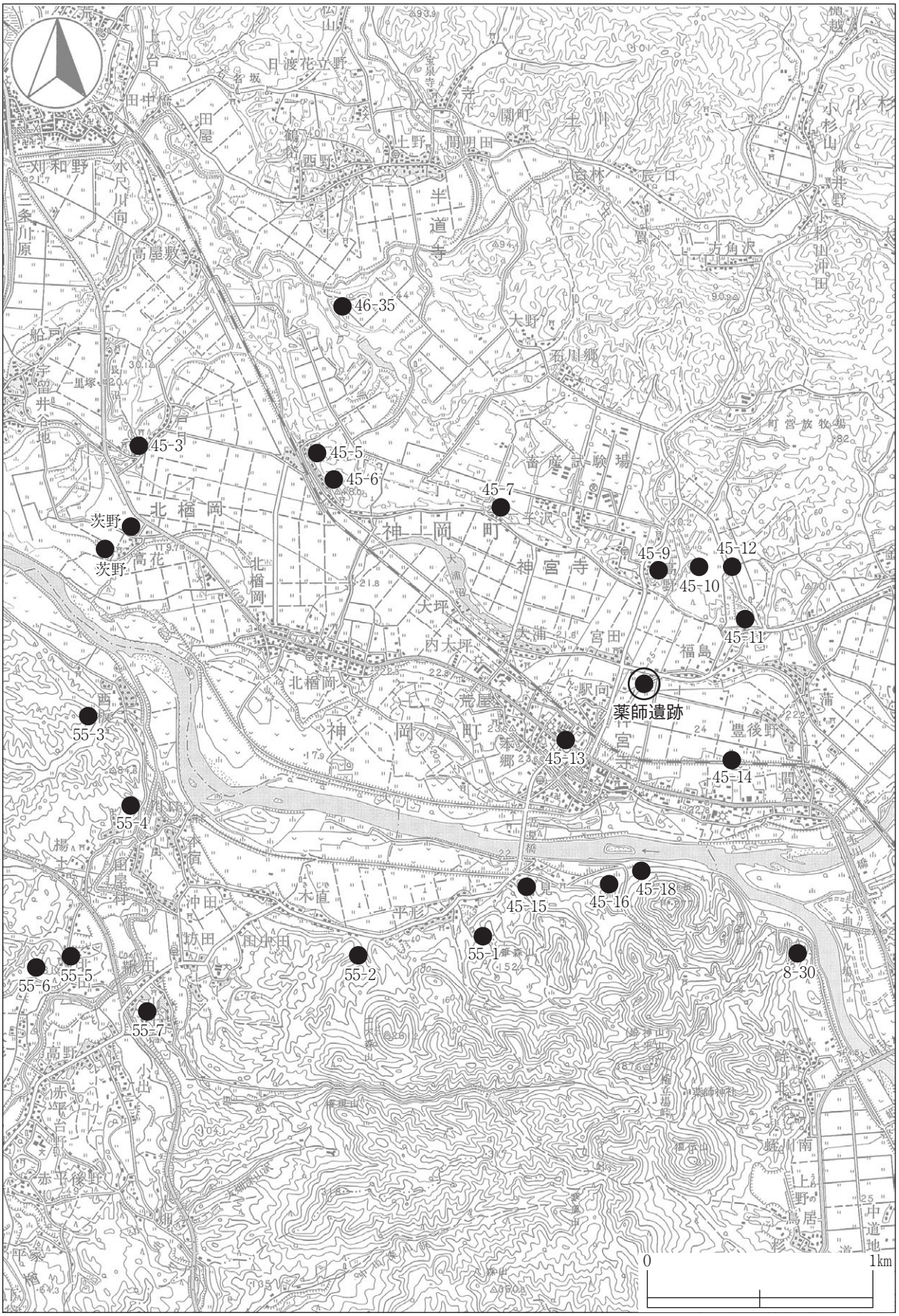
なお、遺跡名は『秋田県遺跡地図（県南版）』掲載の遺跡名とし、文中の（　）内の数字はその遺跡登録番号である。

縄文時代の遺跡では、中期から晩期までの計11遺跡が確認されており、晩期の遺跡が多い。中期の高野Ⅰ遺跡（45－９）・笹倉遺跡（45－12）、中期～後期の愛宕下遺跡（45－15）、晩期の萩の台遺跡（45－５）・上高野遺跡（45－７）・小沢遺跡（45－16）・落貝遺跡（45－18）・茨野遺跡、時期不詳の八石遺跡（45－６）・北田遺跡（55－５）・山王台遺跡（55－７）がある。高野Ⅰ遺跡、笹倉遺跡は昭和28・29（1953・1954）年に武藤鉄城氏によって発掘調査が行われ、前者から中期の大木式土器が出土し、後者から７基の組石遺構が検出され、中期末葉と後期の土器片が出土した。小沢遺跡は昭和60（1985）年に範囲確認調査、平成元（1988）年に本発掘調査が行われ、晩期の大洞Ｂ～Ａ式の土器が出土し、時期不明のカマド跡が検出されている。落貝遺跡は昭和40（1965）年に豊島昴氏によって発掘調査が行われ、２基の組石棺が検出され、晩期の粗製土器が出土した。茨野遺跡は平成14・15（2002・2003）年に神岡町教育委員会によって発掘調査が行われ、縄文時代後期と中世の集落跡が発見された。愛宕下遺跡からは青龍刀形石器、石鏃、石棒が出土している。

弥生時代の遺跡は、遺跡周辺では現在のところ確認されていない

古代の遺跡では、高野Ⅱ遺跡（45－10）・坊ヶ沢遺跡（45－11）の計２遺跡が確認されている。坊ヶ沢遺跡では須恵器の大甕が出土した。また、図幅外であるが薬師遺跡から東南東に約12㎞の位置に、国指定史跡払田柵跡がある。

中世の遺跡では、昭和50年代に行われた分布調査などにより、丘陵上、または平地に立地する多数の中世城館が確認されており、松山城（８－30）・龍蔵寺館（45－３）・富樫館（45－13）・神宮寺掃部館（45－14）・朝夷奈古柵（46－35）・平形館（55－１）・木直沢館（55－２）・猿倉沢館（55－３）・楢岡城（55－４）・壇ノ平館（55－６）が知られている。出羽山地の北東に突出した丘陵端に位置する松山城跡は、北東方向に並列する２つの嶺上にあり、大体２つの郭からなる城跡で、前九年の役の頃、安部貞任・宗任が居城していたと言われている。馬場跡や湧水の存在も指摘されており、須恵器が出土している。龍蔵寺館は、比高およそ５ｍの単郭の館で、郭はほぼ台形である。北東隅に大山祇神社が祭られ、その近くに井戸跡がある。郭の北縁に、土塁が築かれており、土塁の下には空掘がある。郭の西麓には長沼があって内濠の役目を果たしたものと推定される。この館には、長禄の頃（1457～60）、雄勝松岡城主柴田平九郎の老臣龍蔵寺伯耆守が移り住み、永禄８（1565）年落城という。昭和50（1975）年、付近で直径30～40㎝、長さ３ｍの、下部が削られ、上部が朽ちた杉丸太がほぼ５ｍ間隔で出土した。富樫館は、かつて四方を川や沼沢で囲まれた天然の要塞であったと伝えられる。館を築いたのは富樫佐衛門佐誠白で、文和３（1254）年には氏神白山権現を勧請し、永徳２（1382）年に宝蔵寺を建立している。館跡の東側には蓮沼、北から西へ栗谷田の字名があり、栗谷田は厨田の宛字ともいわれる。栗谷田との境には濠跡といわれる用水路があり、また、駅前を東西に横切る水濠があった


46-35
45-3
45-5
45-6
45-7
茨野
茨野
45-9
45-10
45-11
45-12
薬師遺跡
55-3
45-13
45-14
55-4
45-15
45-16
45-18
55-1
55-2
8-30
55-5
55-6
55-7
0
1km

第３図　周辺の遺跡

といわれ、台地の両側にはその跡と思われる幅約30ｍのくびれがみられる。神宮寺掃部館は長方形の単郭で、周囲の水田より３ｍほど高くなっている。北西の隅に土塁らしき土盛り、東側に犬走り状の低地がある。四周水濠によって囲まれていたと伝えられるが、水田となって痕跡不明である。館は正慶の頃（1332～34）築かれたという。

近世の遺跡では、三本杉経塚・三本塚一里塚・龍蔵台経塚・小豆沢一里塚がある。三本塚一里塚は県指定史跡になっている。

引用・参考文献

神宮寺公民館　『笹倉・東高野遺跡発掘調査報告書』　1955（昭和30）年
秋田県　『土地分類基本調査　刈和野』　1979（昭和54）年
秋田県文化財保護協会　『秋田県の中世城館』　1981（昭和56）年
秋田県教育委員会　『秋田県遺跡地図（県南版）』　1987（昭和62）年
秋田県神岡町教育委員会　『小沢遺跡発掘調査報告書』　神岡町文化財調査報告書　1990（平成２）年
神岡町　『神岡町史』　2002（平成14）年
神岡町教育委員会　『茨野遺跡』　神岡町文化財調査報告書　2004（平成16）年

第３章　発掘調査の概要

第１節　遺跡の概観

薬師遺跡は既述のように、神岡町の中心部からやや北東、西流する雄物川右岸に形成された標高約25～30ｍの河岸段丘上に位置している。雄物川は古来幾度となく氾濫を繰り返し、遺跡周辺に旧河道や砂堆地、河原、氾濫平野などが散在する。遺跡の北側は、遺跡の位置する段丘面より一段高い段丘面を経て丘陵地帯に突きあたり、北西には、雄物川の残存湖である大浦沼、南側は、東西に広がる氾濫平野、雄物川を経て姫神山や神宮寺嶽の連なる姫神山山地を望む。

遺跡の現況はすべて水田であり、ほぼ平坦な地形を見せる。調査区域は計画路線内の7,500㎡であるが、遺跡は調査区西側と南側に広がると予想される（第４図）。

第２節　調査と整理の方法

調査はグリッド法で行った（第５図）。調査対象地全体にグリッドを設定するため、計画路線の基準杭№155中心杭を原点（ＭＡ50）とし、この原点から真北方向に基準点を選定し、この基準点に直交する４ｍ×４ｍのグリッドを設定した。また17か所の杭をレベル原点とした。グリッド杭には東から西に向かって東西方向を示す…ＬＳ・ＬＴ・ＭＡ・ＭＢ…というアルファベットと、南から北に向かって南北方向を示す…48・49・50・51…の２桁の数字を組み合わせた記号を記入し、各グリッドの呼称はグリッド杭南東隅の記号（ＭＡ50など）を用いた。

調査は確認調査の結果に基づき、重機を用いて表土除去を行い、その後にグリッド杭を打設した。遺構確認面で精査を行い、遺構の確認および遺物の取り上げ等を行った。

遺構には基本的に種類別の略号を付し、検出順に連番で遺構番号を付したが、掘立柱建物跡（ＳＢ）に関しては別に遺構番号を付した（ＳＢ01など）。原則として半載または十字に土層断面観察用のベルトを残して、２または４分割法による精査を行った。遺物は、グリッド単位に取り上げ、出土した層位、グリッド名または遺構名、年月日を記入した耐水荷札を添付した。

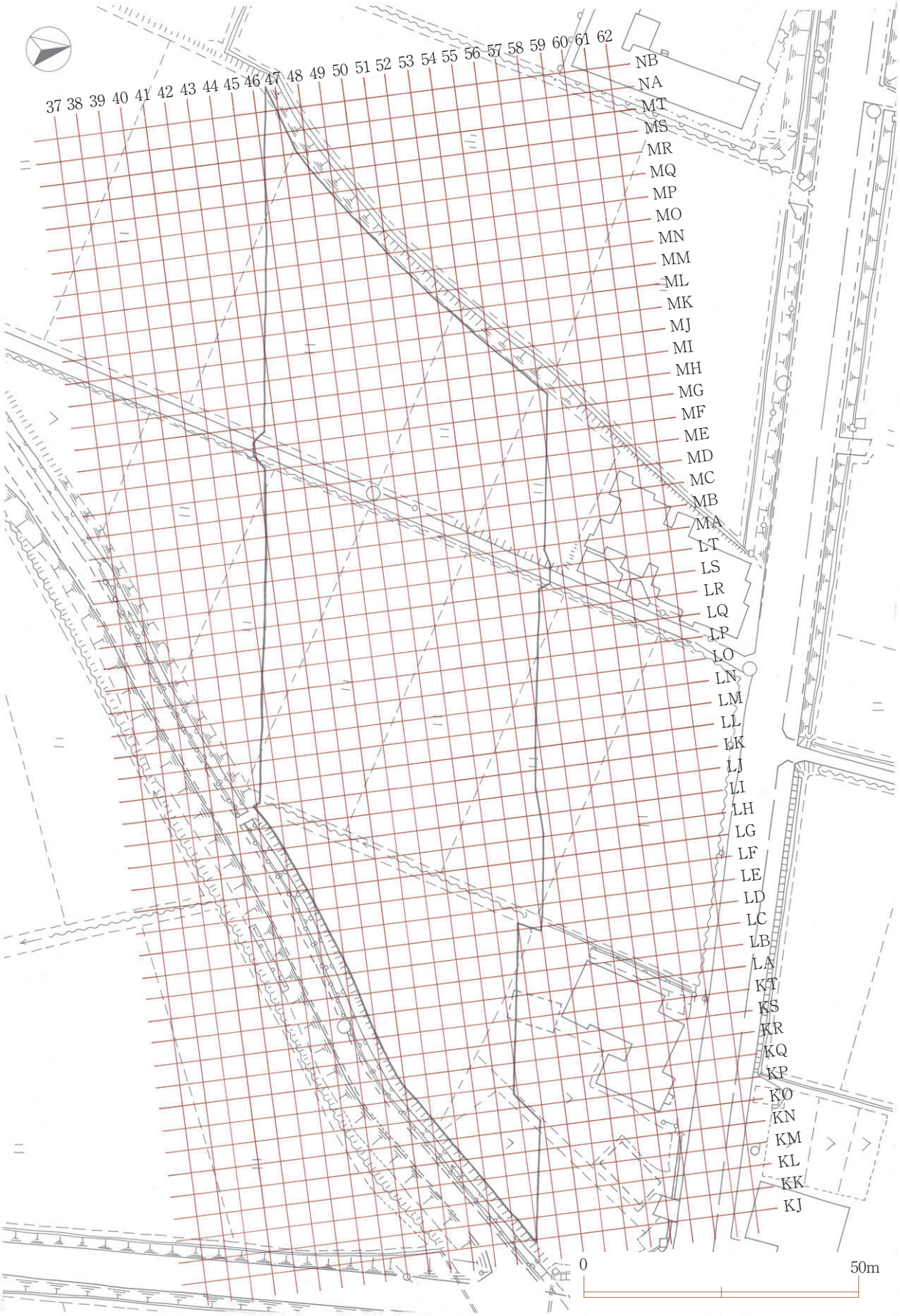
実測図の作成は、グリッド杭と間尺を組み合わせた遣り方測量で遺構の平面図を作成した。断面図には土色・堅さ・しまり・土性・混入物を注記し、必要に応じてエレベーション図も作成した。遺構の平面・断面図は、基本的に１／20とした。

発掘調査における写真撮影は、遺跡や遺構・遺物を対象とする地上撮影を行い、広範囲を写すためにはローリングタワーを使用した。写真は、35㎜のモノクロフィルム、ネガカラーフィルム、カラーリバーサルフィルムを使用した。

第３節　調査の経過

薬師遺跡の発掘調査は、平成15年５月20日から同年９月22日まで実施した。調査前に業務委託によ

第４図　薬師遺跡調査範囲図


37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57 58 59 60 61 62
NB
NA
MT
MS
MR
MQ
MP
MO
MN
MM
ML
MK
MJ
MI
MH
MG
MF
ME
MD
MC
MB
MA
LT
LS
LR
LQ
LP
LO
LN
LM
LL
LK
LJ
LI
LH
LG
LF
LE
LD
LC
LB
LA
KT
KS
KR
KQ
KP
KO
KN
KM
KL
KK
KJ
0
50m

第５図　グリッド配置図

る重機での表土除去、測量用杭打設などを行った。以下、調査日誌を基に調査の経過を記す。

【第１週】５月20日～５月23日

20日、発掘調査開始。発掘機材の搬入と、事務所ならびに調査区周辺の環境整備を行う。21日、調査区東部（以下Ａ区）の粗掘りを開始する。ベルトコンベアーの搬入・設置作業も行った。

【第２週】５月26日～５月30日

Ａ区の層位確認のため一部重機による深掘りを行う。その結果、耕作土の堆積が思いのほか深く、51ライン北側にトレンチを設定し、その内部の地山までの掘削を行う。掘削途中、縄文土器等が一ヶ所に固まった状態で出土した。また、その作業と平行して調査区東部の排水溝掘削も開始する。

【第３週】６月２日～６月６日

Ａ区の精査を進めたところ、土器片が集中する箇所は確認したが、遺構は確認できなかった。調査区中央部（以下Ｂ区）層位確認のため確認調査トレンチ内の再掘削を行う。北側を表土除去面から深さ約30㎝まで掘り下げたが、約15㎝の深さで縄文土器片(晩期)、石器、クルミ等が出土した。４日、文化財保護室武藤祐浩学芸主事が来跡。

【第４週】６月９日～６月13日

Ｂ区南側の掘り下げ、精査をし、遺構の確認作業を行った。遺構内から遺物が出土したものもあった。Ｂ区北側の壁に確認調査時に確認されていたＳＤ01溝跡（後、道路跡に変更）の断面が確認できたため、写真撮影・実測を行った。13日、調査区内排土を事務所西側斜面に盛り、工事用仮設進入路の増設・延長工事を行った（宮原組による)。

【第５週】６月16日～６月20日

Ｂ区西側を中心に精査、遺構確認作業を行った。Ⅱ層面で土坑、柱穴様ピット等の遺構が確認された。また、同一面で縄文土器片や須恵器系中世陶器片、古銭が数点出土した。

【第６週】６月23日～６月27日

Ｂ区全体の精査を行ったところ、Ｂ区中央部から東側のⅡ層～Ⅲ層面で、東西南北方向に走る複数の溝跡（後に道路跡とする）を検出した。調査区西部（以下Ｃ区）の粗掘りを開始し、土坑を数基確認した。

【第７週】６月30日～７月４日

Ｂ区の溝状遺構を掘り進めたところ、深さは一定で浅く、須恵器・瓷器系中世陶器・須恵器系中世陶器の破片が何点か出土した。並行してＣ区の精査、確認調査トレンチ内の再掘削を行う。

【第８週】７月７日～７月11日

Ｂ区北側を精査した結果、排水溝の壁に確認されていた掘り込みは、いずれも溝跡のものであることを確認した。Ｂ区から東西に延びる溝跡を確認するためにＡ区を精査した。表土除去時に出土していた完形土器（縄文晩期）の周辺から、多数の土器片が出土した。

【第９週】７月14日～７月18日

Ｂ区西側の遺構集中域の精査、実測を進め、柱穴の並びや配置方向、規模、深さ等を検討した結果、掘立柱建物跡（ＳＢ01）と判断した。また、その南側にＳＢ02掘立柱建物跡を検出した。

【第10週】７月21日～７月25日

Ｂ区の溝状遺構および西側の遺構集中域の精査を進める。須恵器系中世陶器片が出土していた遺構（ＳＫＰ332）を掘り進めたところ、同一と思われる中世陶器片がまとまって出土した。Ｃ区北側を精査したが、縄文土器と陶磁器を中心に出土したものの、遺構の確認は少数であった。22日、神岡町老人クラブ60名が見学のため来跡。

【第11週】７月28日～８月１日

Ｂ区のＳＢ01掘立柱建物跡の柱穴の中から中世陶器片が出土した。ＳＸ249からは土錘をはじめ、多くの遺物が出土した。Ｃ区南側では焼土遺構が検出された。

【第12週】８月４日～８月８日

焼土遺構として検出していた遺構は確認の結果、焚口部とそれに接続する燃焼部のある瓢箪形をしたカマド状遺構であると判断した。また、Ｃ区西側では溝跡（ＳＤ529）を検出した。

【第13週】８月18日～８月22日

カマド状遺構の周辺を精査した結果、数基の柱穴様ピットが確認された。Ｃ区南西側で２条の溝跡（ＳＤ706、ＳＤ716）を検出した。また、Ｂ区では北東部に以前から縄文土器片が出土する地域があり、トレンチを設定して内部の掘り下げを行ったところ、基本層位Ⅳ～Ⅴ層内に縄文土器が集中して出土した。19日、山形県立米沢女子短期大学吉田歓助教授、青森県史編纂室古川淳一氏が来跡。

【第14週】８月25日～８月29日

28日からＢ、Ｃ区の間の用水路部分の表土除去（宮原組による）を行い、早急に粗掘り、精査をし、遺構確認作業をした。結果、Ｂ区で確認されていたＳＢ01掘立柱建物跡を構成すると思われる柱穴プランを新たに確認した。

【第15週】９月１日～９月４日

先週表土除去した用水路部分の精査、遺構確認を進めたところ、ＳＢ01、ＳＢ03掘立柱建物跡を構成する柱穴が多数検出された。また、中世陶器片も多数出土した。１日～２日にかけて、Ｃ区南側の工事用仮設進入路部分の表土除去が行われた（宮原組による）。新たにカマド状遺構、溝跡（ＳＤ670）が確認された。

【第16週】９月８日～９月12日

10日、Ｂ区南側工事用仮設進入路部分の表土除去を行った（宮原組による）。Ｃ区からの区画溝（ＳＤ531）と思われる逆コの字状の遺構がみつかり、その内側で柱穴が多数確認された。柱穴の規模、並び、深さなどから建物跡（ＳＢ06）を構成するものであることがわかった。11日、八戸工業大学高島成侑教授が来跡。

【第17週】９月16日～９月19日

Ｂ、Ｃ区の精査、カマド状遺構の精査を行った。Ｃ区からは新たに建物跡が検出された。並行して、撤収のための準備作業を開始。16日、神岡町教育委員会斉藤浩志氏が来跡。19日、千畑町教育委員会山形博康氏が来跡。

【第18週】９月22日

撤収作業を行った。国土交通省東北地方整備局湯沢河川国道事務所に現場引渡しを行い、調査を終了した。

第４節　整理作業の方法と経過

整理作業は秋田県埋蔵文化財センター南調査課で行った。各遺構は、現場で作成した実測図を元に検討を加えながら第２原図を作成し、トレースして挿図を作成した。遺物は、洗浄・注記の後、報告書に記載する遺物の選別を行い、その後原寸大の実測図を作成し、報告書に掲載するにあたっては適宜縮尺を変えトレースした。これらの作業後、写真撮影を行い報告書を編集した。

この間、平成16年２月21・22日、能代市文化会館・能代市中央公民館を会場に開催された「平成15年度秋田県埋蔵文化財発掘調査報告会」において、調査担当者の赤上秀人学芸主事が発掘調査成果を公表した。なお、赤上は平成15年度定期人事異動に伴い、大曲市立花館小学校に転出したので、その後の作業は児玉が引き継いだ。

第４章 調査の記録

第１節　基本層位

遺跡の基本層位は、おおよそ以下のようになっている（第６図）。

Ⅰ層　　黒褐色土（10YR3/2）：水田耕作土。厚さ20㎝。

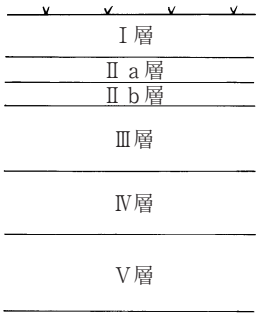
Ⅱａ層　にぶい黄褐色土（10YR4/3）：遺構確認面。
　　厚さ５～10㎝。

Ⅱｂ層　にぶい黄褐色土（10YR6/4）：遺構確認面。
　　厚さ５～15㎝。

Ⅲ層　　黒褐色土（10YR3/2）：厚さ20～40cm。
　　縄文土器出土。

Ⅳ層　　黄褐色土（10YR5/6）：厚さ20～40㎝。
　　自然堆積層。

Ⅴ層　　黒褐色土（10YR3/2）：厚さ30～40㎝。
　　自然堆積層。



第６図　土層模式図

第２節　検出遺構とその出土遺物

検出遺構は、掘立柱建物跡13棟、カマド状遺構11基、道路跡３条、溝跡19条、土坑61基、井戸跡１基、性格不明遺構３基、柱穴様ピット466基で、調査区中央から西側部分に遺構が集中する（第７図）。

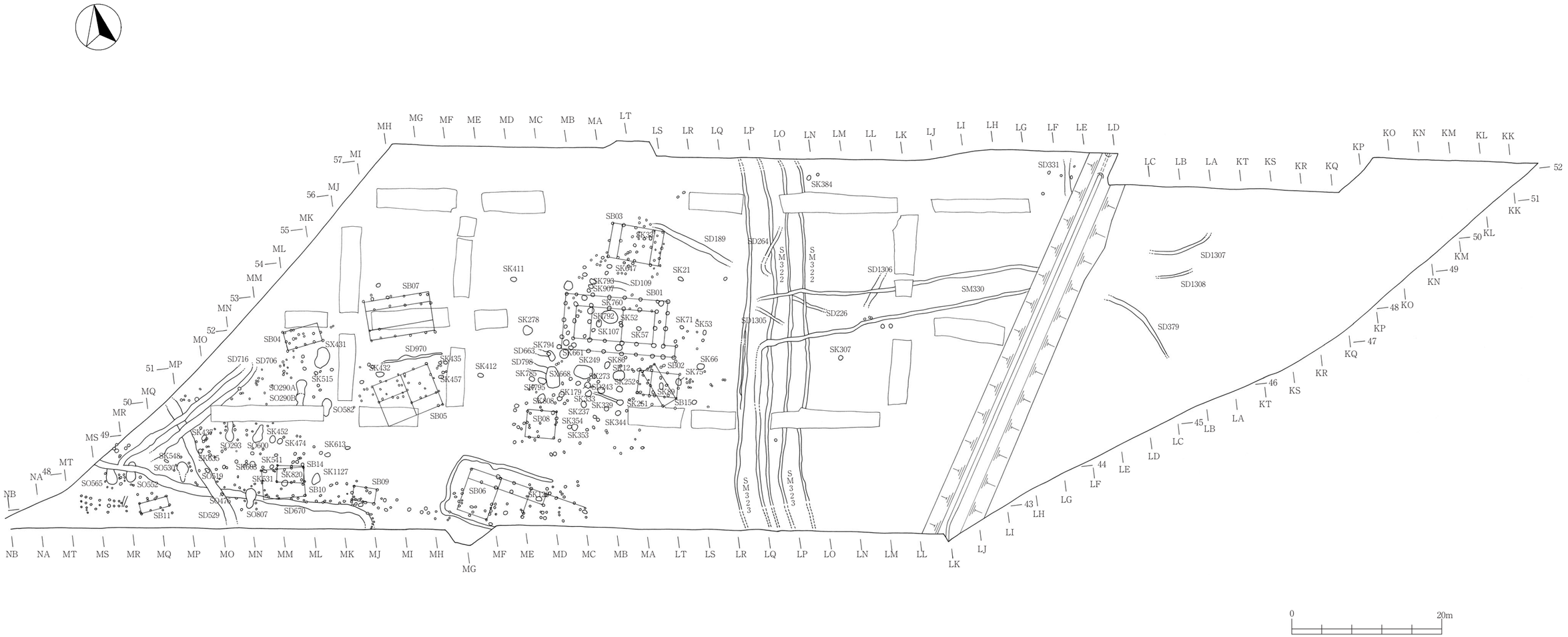
１　掘立柱建物跡

１　ＳＢ01掘立柱建物跡（第８図、図版１）

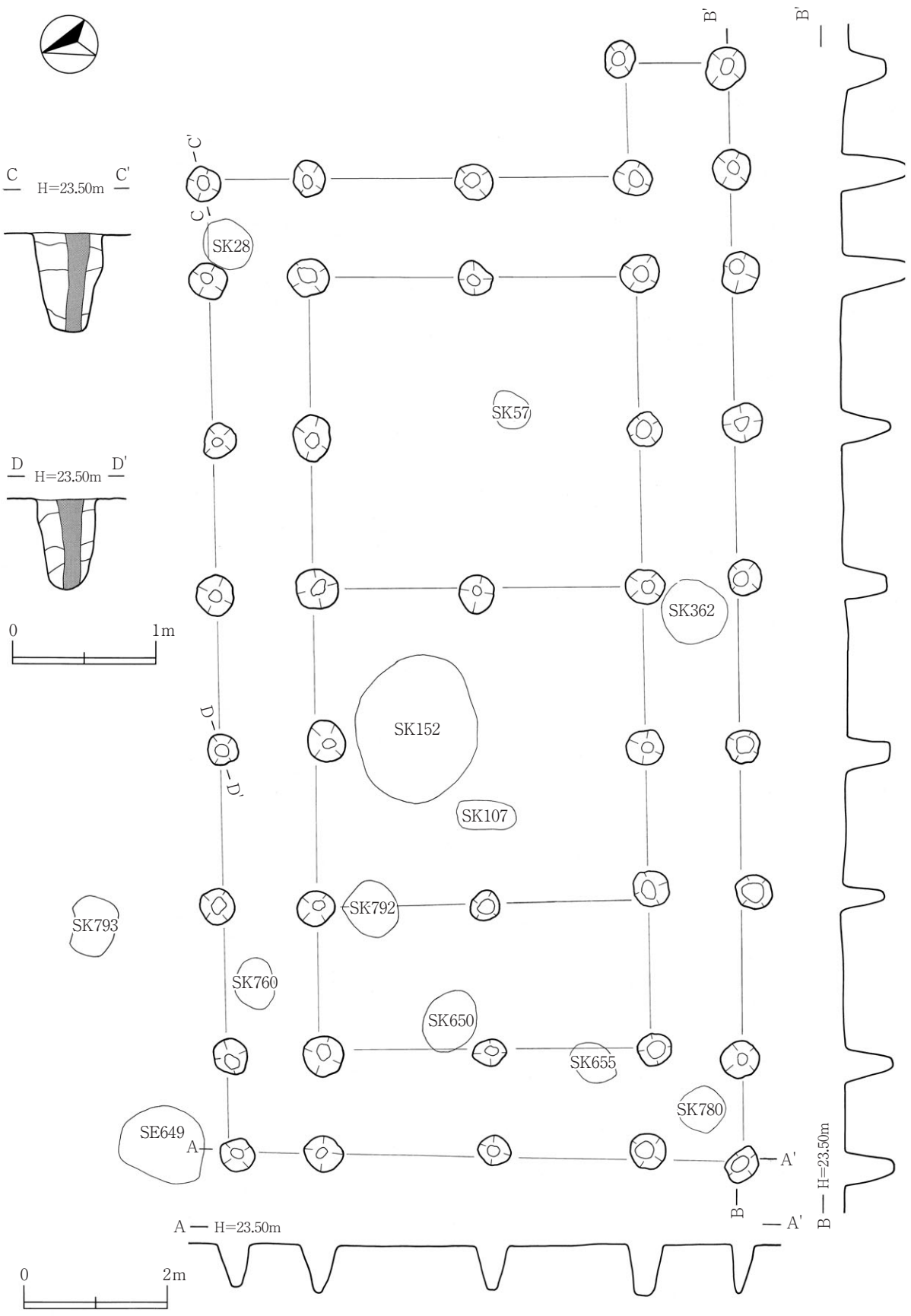
《位置・確認》　ＬＳ49～51、ＬＴ49～51、ＭＡ49～51、ＭＢ49～51、ＭＣ50グリッドにある。基本層位Ⅱa層上位面で柱穴40基を確認した。

《規模・柱穴・方向》　東西棟で身舎は桁行５間・梁行２間で、東西南北四面に１間の廂が付く。間仕切の柱穴の位置から、２間×２間、２間×２間、２間×１間の３部屋に分かれていたと考えられる。南東部分に約1.4ｍの張り出し施設を持つ。柱掘方は身舎・廂で差異がなく、直径50～70㎝の円形または楕円形で、深さ70～80㎝ある。検出した柱穴のうち13ヵ所で柱痕跡を確認した。柱痕跡も身舎・廂で差異がなく、直径16～25cmの円形である。桁行総長は南側柱列で15.35ｍ、柱間距離は西から1.46（廂）・2.34・2.08・2.29・2.18・2.12・1.44（廂）・1.44ｍ。梁行総長は西妻柱列で7.14ｍ、柱間寸法は北から1.20（廂）・2.36・2.18・1.40（廂）ｍ。建物方位は、南側柱列でＮ－15°－Ｅである。

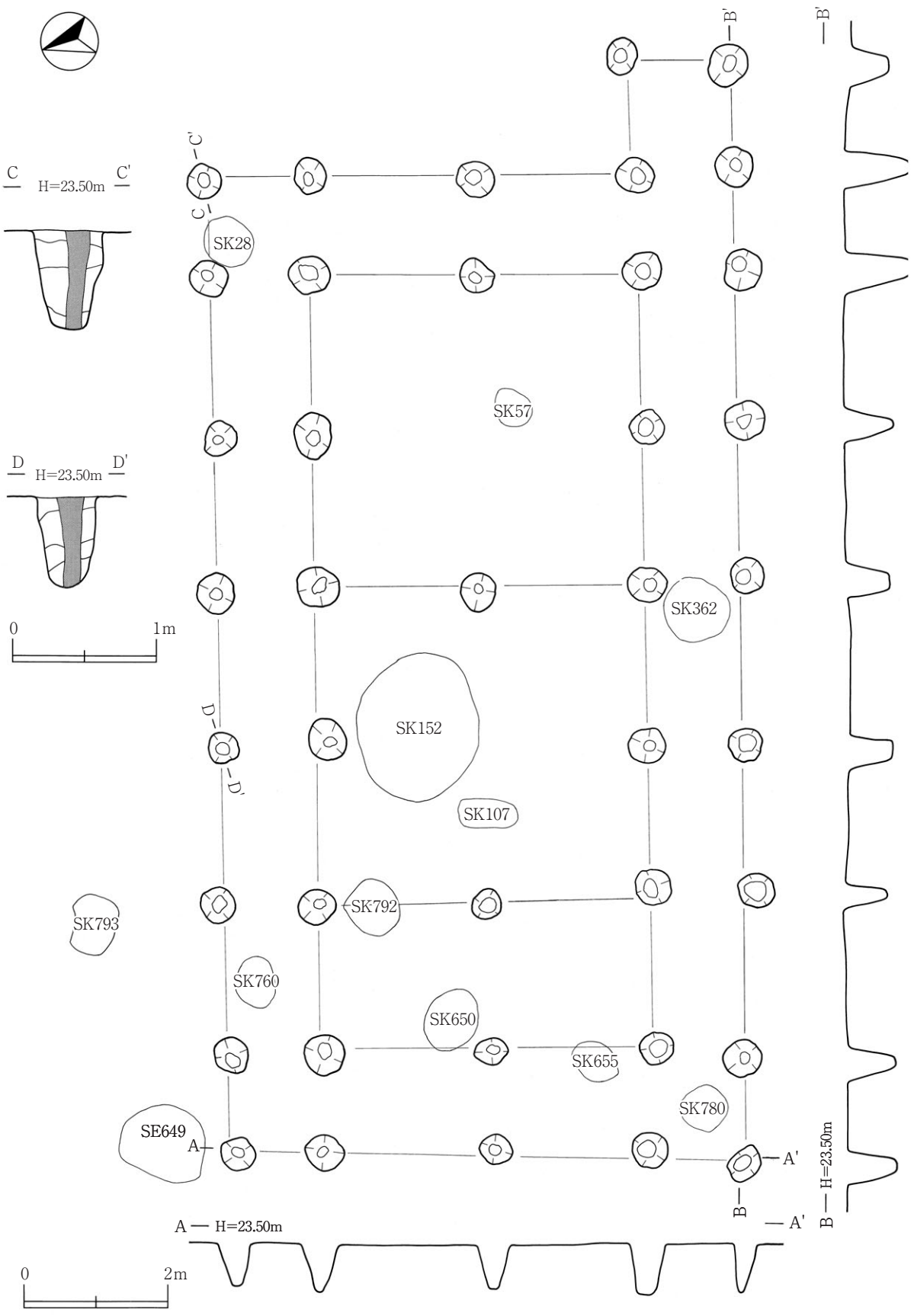
《出土遺物》　建物のあるＬＴ50、ＭＡ～ＭＣの48～51グリッドおよび柱穴から中世陶器の甕の破片が出土した。それらは甕を内面あるいは外面から意図的に叩いて細かく破砕したもので、２個体あり、主として建物の西半部に分布していた。第９図１（図版13－１）は愛知産の常滑、２～４および図版


MH MG MF ME MD MC MB MA LT LS LR LQ LP LO LN LM LL LK LJ LI LH LG LF LE LD
LC LB LA KT KS KR KQ KP KO KN KM KL KK
NB NA MT MS MR MQ MP MO MN MM ML MK MJ MI MH MG MF ME MD MC MB MA LT LS LR LQ LP LO LN LM LL LK LJ LI LH LG LF LE LD
SB03
SD189
SK384
SD331
SD264
SM322
SM322
SD1306
SM330
SD226
SD1305
SK307
SD1307
SD1308
SD379
SK411
SK21
SK417
SK793
SK907
SD109
SB01
SK760
SK692
SK52
SK71
SK53
SK107
SK57
SK66
SK794
SK661
SK249
SK86
SD663
SD798
SK735
SK668
SK273
SK252
SK243
SK795
SK179
SK323
SK339
SK251
SB15
SK237
SK354
SK353
SK344
SB08
SK278
SK412
SB07
SD970
SK432
SK435
SK457
SB05
SB04
SX431
SK515
SD716
SD706
SO290A
SO290B
SO582
SK433
SK452
SK474
SK613
SO293
SO600
SK548
SK635
SK541
SK668
SK820
SK531
SB14
SK1127
SO530
SO619
SO565
SO552
SB10
SB09
SO476
SB11
SD529
SO807
SD670
SB06
SK1145
SM323
SM323
0
20m

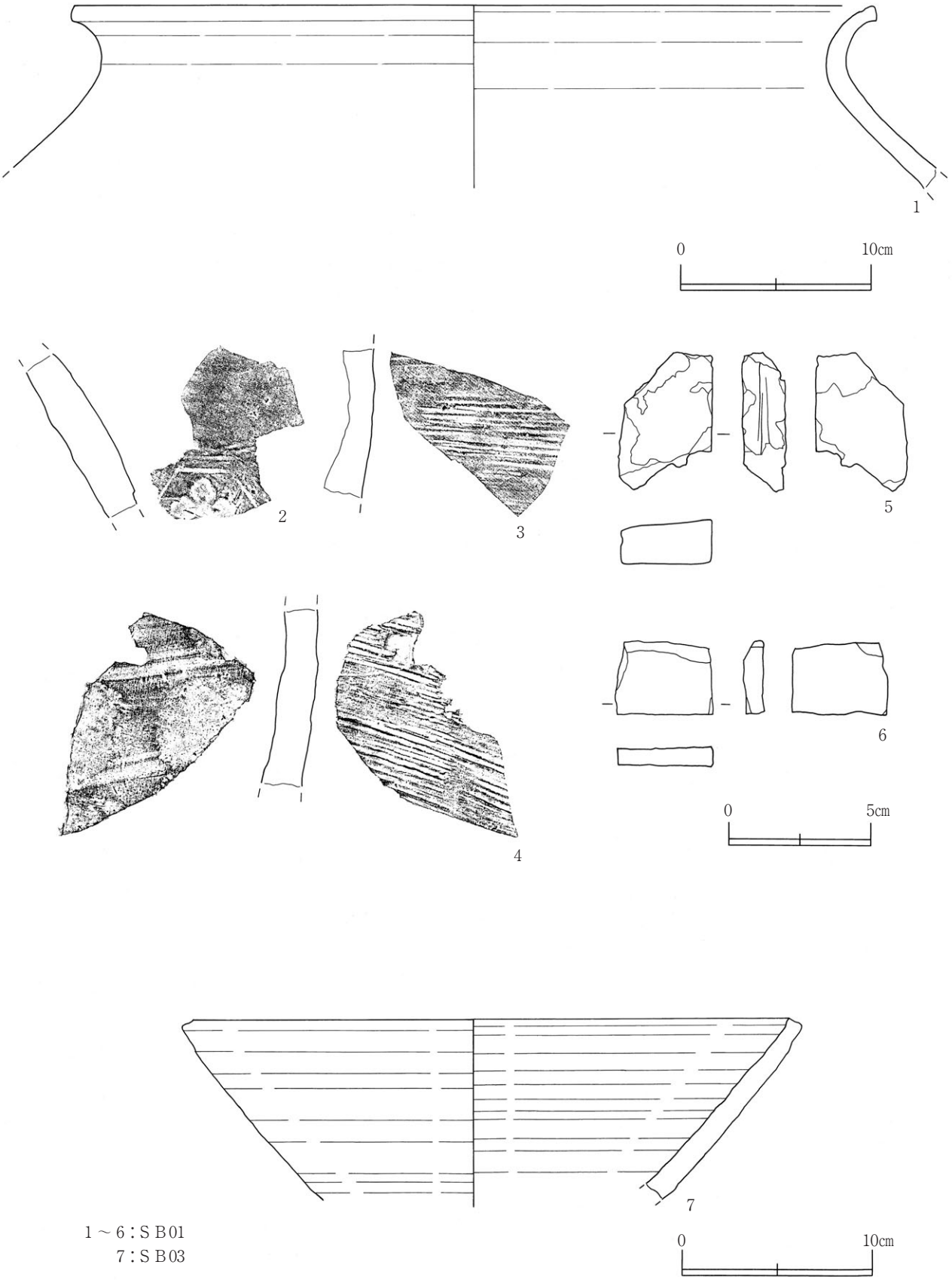
第７図　遺構配置図



第８図　ＳＢ01掘立柱建物跡



第８図　ＳＢ01掘立柱建物跡



1～6：ＳＢ01
7：ＳＢ03

第９図　ＳＢ01･03出土遺物

13－２、14－１は須恵器系陶器で２には刻印がある。製作年代はいずれも12世紀第４四半期である。砥石２点も建物範囲からの出土である（第９図５・６、図版14）。

２　ＳＢ02掘立柱建物跡（第10図、図版１）

《位置・確認・重複》　ＬＳ47・48、ＬＴ48・49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴12基を確認した。ＳＢ15掘立柱建物跡と重複する。

《規模・柱穴・方向》　東西棟で桁行３間×梁行２間の建物で、東側の桁行２間×梁行２間の部屋とその西にある１間×２間の部屋に分かれる。柱痕跡は確認できなかった。南東隅柱がＳＢ15掘立柱建物跡の柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。柱掘方は直径30～40㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。桁行総長は南側柱列で5.3ｍ、柱間距離は西から1.62・2.06・1.62ｍ。梁行総長は西妻柱列で3.12ｍ、柱間寸法は北から1.6・1.52ｍ。建物方位は、南側柱列でＮ－16°－Ｅである。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

３　ＳＢ03掘立柱建物跡（第10図）

《位置・確認》　ＬＳ52・53、ＬＴ52・53、ＭＡ52・53グリッドにある。基本層位Ⅱa層上位面で柱穴15基を確認した。

《規模・柱穴・方向》　東西棟で桁行４間×梁行２間で、東西両面に１間の廂が付く総柱建物である。すべての柱穴を検出し、９ヵ所で柱痕跡を確認した。柱穴掘方は身舎・廂で差異がなく、直径30～50㎝の円形または楕円形で、深さ40～55㎝ある。柱痕跡も身舎・廂で差異がなく、直径14～20㎝の円形である。柱掘方の埋め土は暗褐色土である。桁行総長は南側柱列で7.04ｍ、柱間寸法は西から1.30（廂）・2.20・2.32・1.22（廂）ｍである。梁行総長は西妻柱列で4.22ｍ、柱間距離は北から2.12・2.10ｍである。建物の方向は、南側柱列でＮ－20°－Ｅである。

《出土遺物》　柱掘方埋め土から須恵器系中世陶器の擂鉢が出土した（第９図６、図版15－１）。大畑窯産と思われ、製作年代は13世紀初頭である。

４　ＳＢ04掘立柱建物跡（第11図）

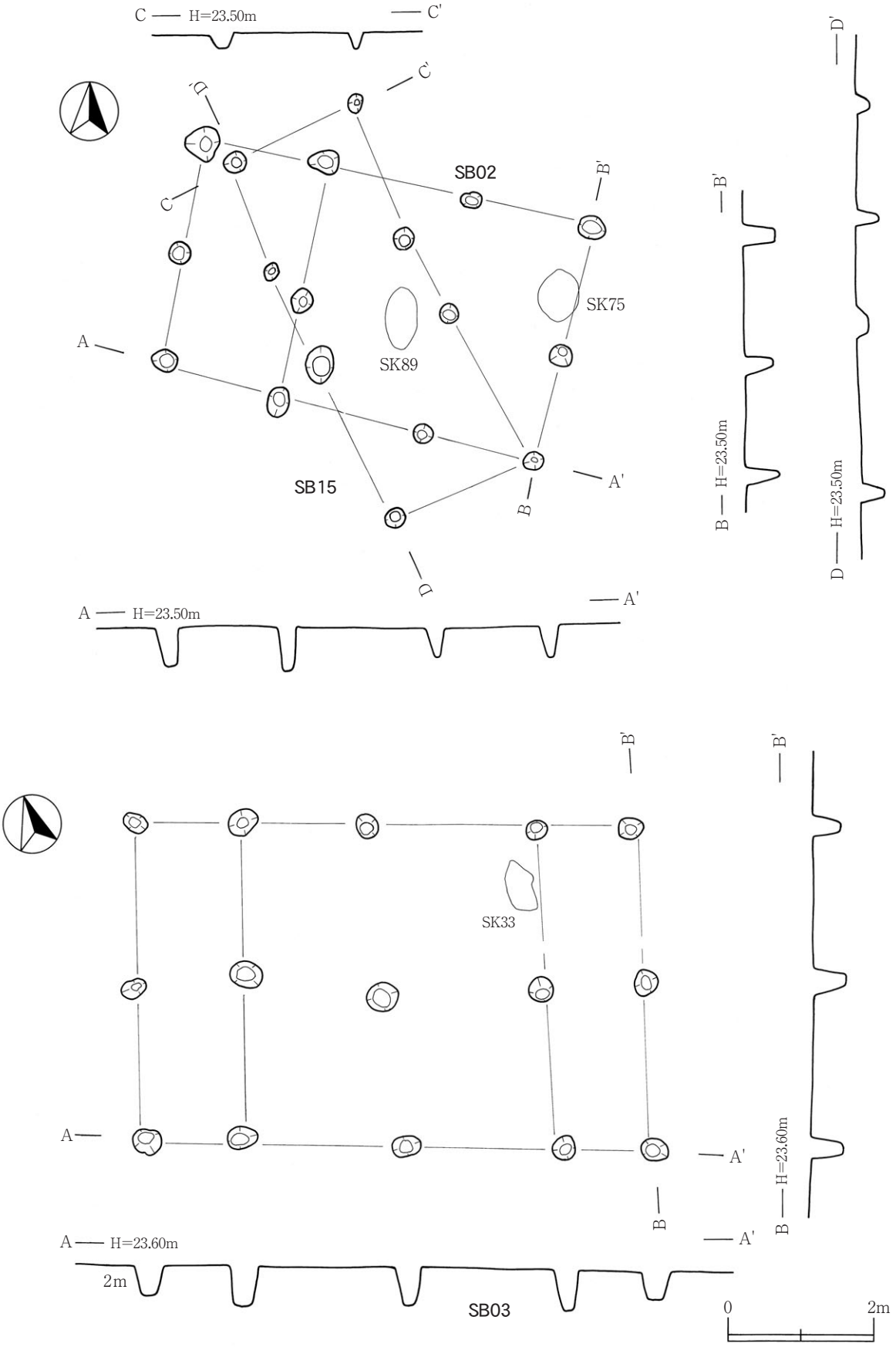
《位置・確認》　ＭＪ～ＭＬ51グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴12基を確認した。

《規模・柱穴・方向》　東西棟で桁行４間×梁行２間の総柱建物である。北側の一部が確認調査のトレンチに切られていて不明である。柱穴掘方は直径30～35㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は南側柱列で4.89ｍ、柱間寸法は西から1.23・1.20・1.24・1.22ｍである。梁行総長は西妻柱列で2.44ｍ、柱間寸法は北から1.24・1.20ｍである。建物の方向は、南側柱列でＮ－10°－Ｗである。

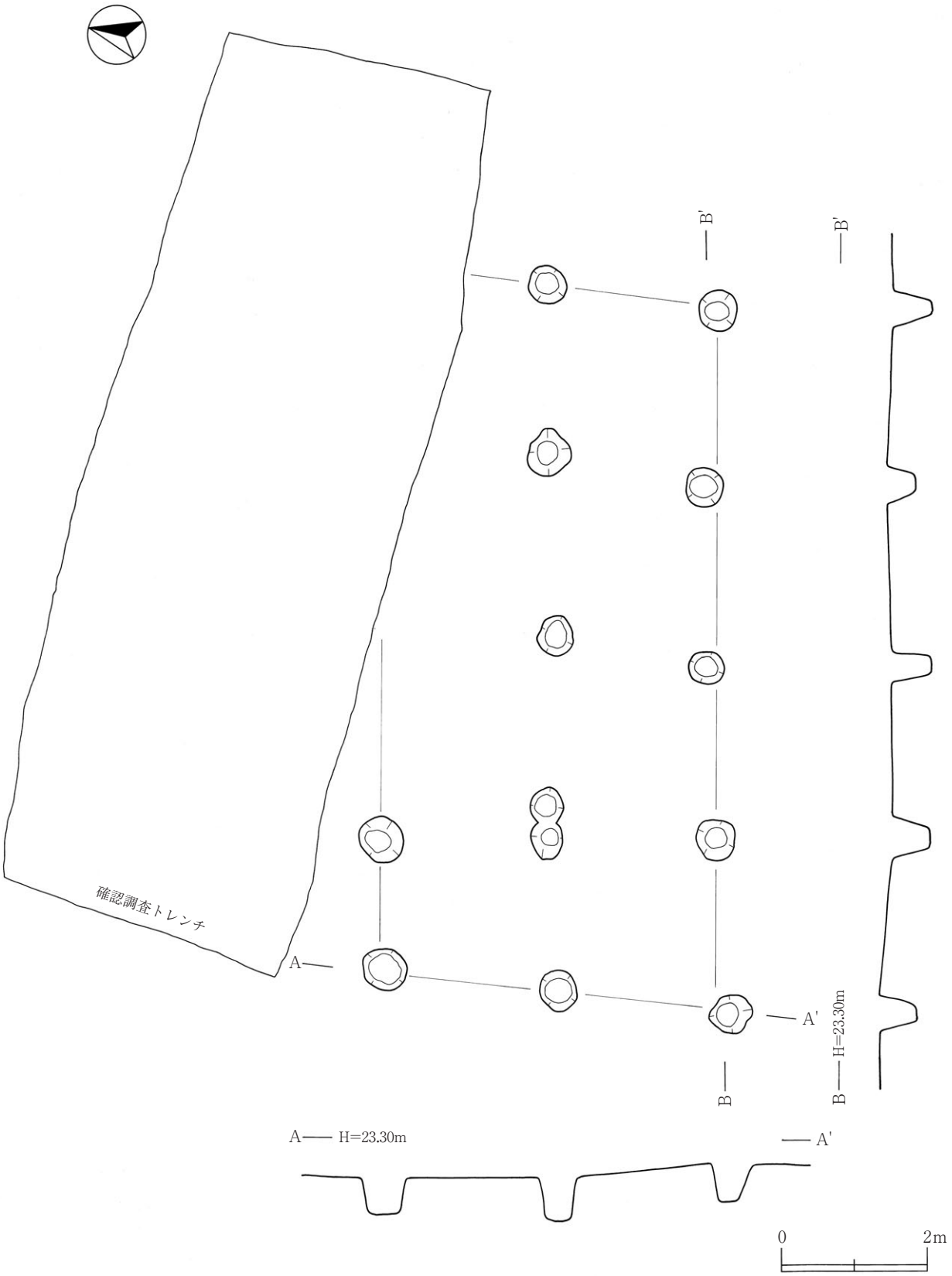
《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

５　ＳＢ05掘立柱建物跡（第12図、図版２）

《位置・確認》　ＭＧ48～50、ＭＨ48・49、ＭＩ49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴15基を確認した。



第10図　ＳＢ02･03･15掘立柱建物跡

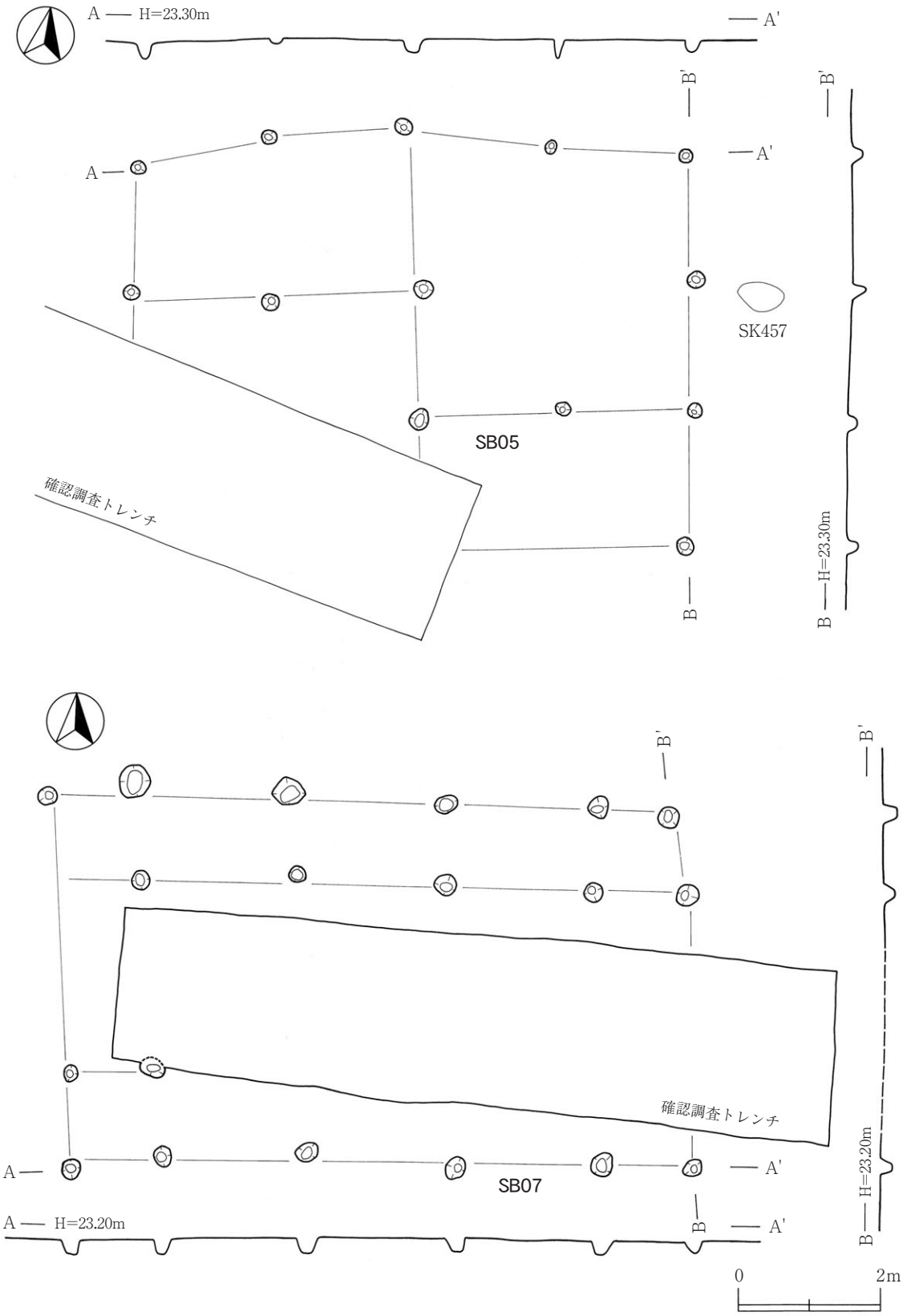


第11図　ＳＢ04掘立柱建物跡

《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行４間×梁行３間の建物である。南側の一部が確認調査のトレンチに切られていて不明であるほか柱の欠落もある。柱掘方は直径30～35㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は北側柱列で7.79ｍ、柱間寸法は西から1.88・1.94・2.08・1.89ｍである。梁行総長は東妻柱列で5.52ｍ、柱間距離は北から1.76・1.86・1.90ｍである。建物方位は、北側柱列でＮ－16°－Ｗである。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

６　ＳＢ06掘立柱建物跡（第13図）
《位置・確認》 ＭＤ44・45、ＭＥ44～46、ＭＦ44・45グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴12基を確認した。
《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行８間×梁行３間で、北側に１間の廂が付く。南側の一部が調査区外となっているため不明。柱穴掘方は身舎・廂で差異がなく、直径40～50㎝の円形または楕円形で、深さ50～70㎝ある。検出した柱穴のうち８ヵ所で柱痕跡を確認した。柱痕跡も身舎･廂で差異がなく、直径12～18㎝の円形である。柱掘方の埋め土は暗褐色土である。桁行総長は北側柱列で16.16ｍ､柱間寸法は西から2.10・2.20・2.06・2.28・2.20・1.40・2.40・1.52ｍ。梁行総長は西側３列目の柱列で6.04ｍ、柱間寸法は北から1.24・2.38・2.42ｍ。建物の方向は、北側柱列でＮ－30°－Ｅである。
　建物の東側を除き、逆コの字形となる溝が巡る。長さは北西－南東方向（北側）で約13.2ｍ、北東－南西方向で約7.2ｍ、北西－南東（南側）で残存値約6.8ｍである。幅は北西－南東方向（北側）で約50～60㎝、北東－南西方向で約40～60㎝、北西－南東（南側）で約36～56㎝となる。底面は丸みを帯び、起伏もある。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はＵ字形をなす。底面幅は20～40㎝、深さは32㎝である。堆積土は黒褐色土の単一層で、地山塊を多く含む。
《出土遺物》 柱掘方埋め土や建物範囲から須恵器系中世陶器の破片が出土した（第14図､図版15－２）。１～５は12世紀末の甕で、６～８は13世紀中頃の擂鉢である。２～４は内面を破砕されており、胎土の特徴からＳＢ01出土の第９図２～４、図版13－２などと同一個体と推定される。

７　ＳＢ07掘立柱建物跡（第12図、図版２）
《位置・確認》 ＭＧ51・52、ＭＨ51・52、ＭＩ51・52グリッドにある。基本層位Ⅱa層上位面で柱穴19基を確認した。
《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行５間×梁行３間で、南北四面に１間の廂が付くと思われるが、確認調査のトレンチで切られている柱穴が多く不明である。柱穴掘方は身舎・廂で差異がなく、直径25～50㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。柱痕跡も身舎･廂で差異がない。桁行総長は南側柱列で8.74ｍ、柱間寸法は西から1.28・2.00・2.12・2.04・1.30ｍである。梁行総長は6.86ｍである。北側の廂の出は1.2ｍである。建物方位は、東側柱列でＮ－０°－Ｅである。
《出土遺物》 建物範囲から須恵器系中世陶器の擂鉢破片が出土した（第15図１・２）。製作年代は13世紀中頃である。



第12図　ＳＢ05･07掘立柱建物跡

８　ＳＢ08掘立柱建物跡（第16図）

《位置・確認》 ＭＣ47・48、ＭＤ47・48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴８基を確認した。

《規模･柱穴･方向》 東西棟で桁行２間×梁行２間の総柱建物である。南西隅の柱穴は確認できなかった。柱穴掘方は直径30～35㎝の円形または楕円形で､深さ30～40㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は北側柱列4.3ｍで、柱間寸法は西から1.86･2.44ｍである。梁行総長は東妻柱列で4.16ｍ、柱間寸法は北から2.16・約2.0ｍである。建物方位は、北側柱列でＮ－19°－Ｅである。

《出土遺物》 建物範囲から瓷器系中世陶器片が出土した。

９　ＳＢ09掘立柱建物跡（第16図）

《位置・確認》 ＭＩ45・46、ＭＪ45・46グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴６基を確認した。

《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行２間×梁行１間である。すべての柱穴を検出したが、柱痕跡は確認できなかった。柱掘方は直径30～35㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。桁行総長は南側柱列で3.08ｍ、柱間距離は西から1.54・1.52ｍである。梁行総長は西妻柱列で1.58ｍである。建物方位は、南側柱列でＮ－16°－Ｅである。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

10　ＳＢ10掘立柱建物跡（第17図）

《位置・確認・重複》 ＭＬ46・47、ＭＭ46・47グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴11基を確認した。ＳＢ14掘立柱建物跡と重複する。

《規模･柱穴･方向》 東西棟で桁行３間×梁行２間の建物である。南側の一部の柱穴が確認できなかった。ＳＢ14掘立柱建物跡と重複するが、柱の重複関係から、本建物跡の方が新しい。柱穴掘方は直径30～35㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は北側柱列で5.84ｍ、柱間寸法は西から2.20・1.92・1.72ｍである。梁行総長は東妻柱列で3.72ｍ、柱間距離は北から1.84・1.88ｍである。建物方位は、北側柱列でＮ－８°－Ｅである。

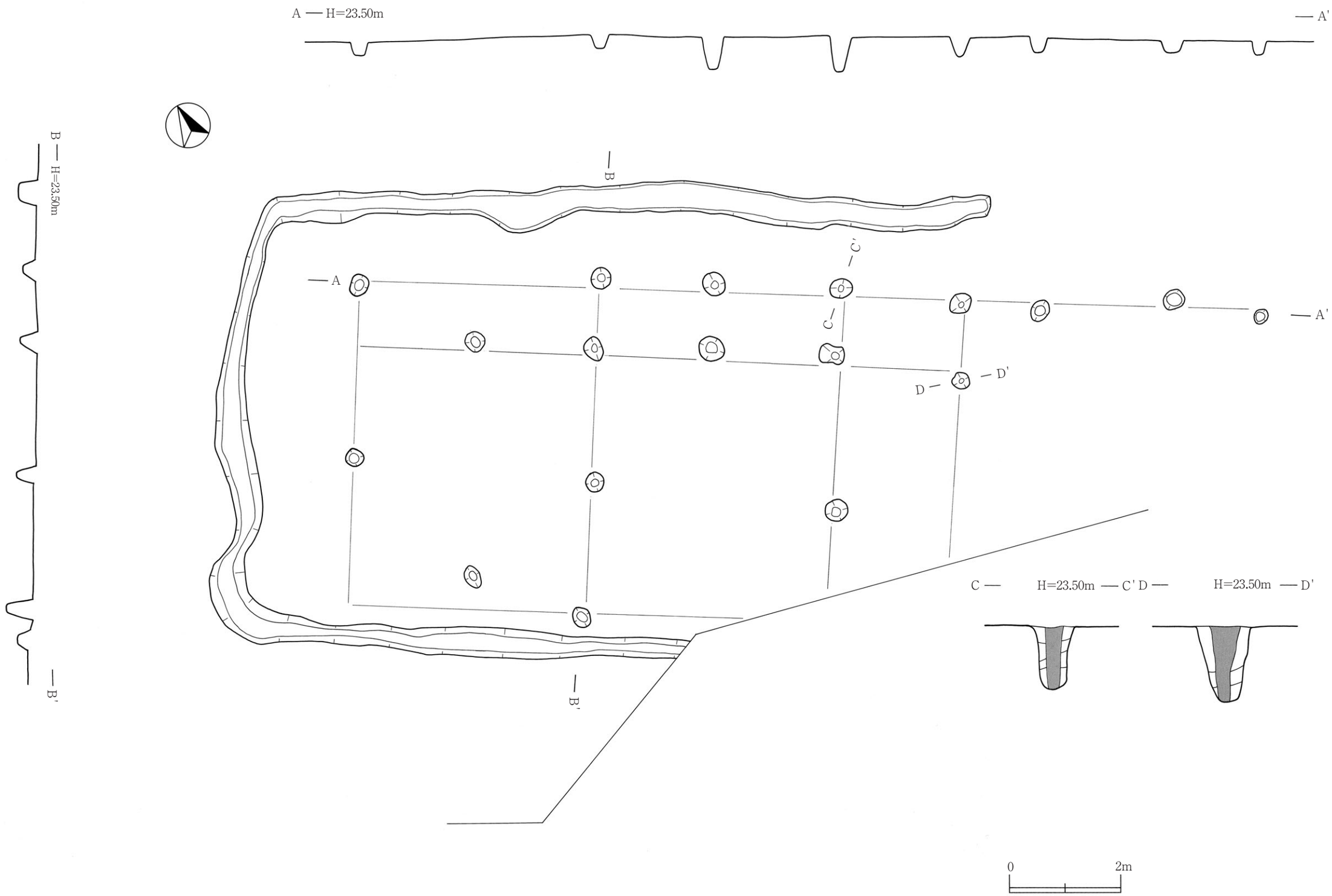
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

11　ＳＢ11掘立柱建物跡（第18図）

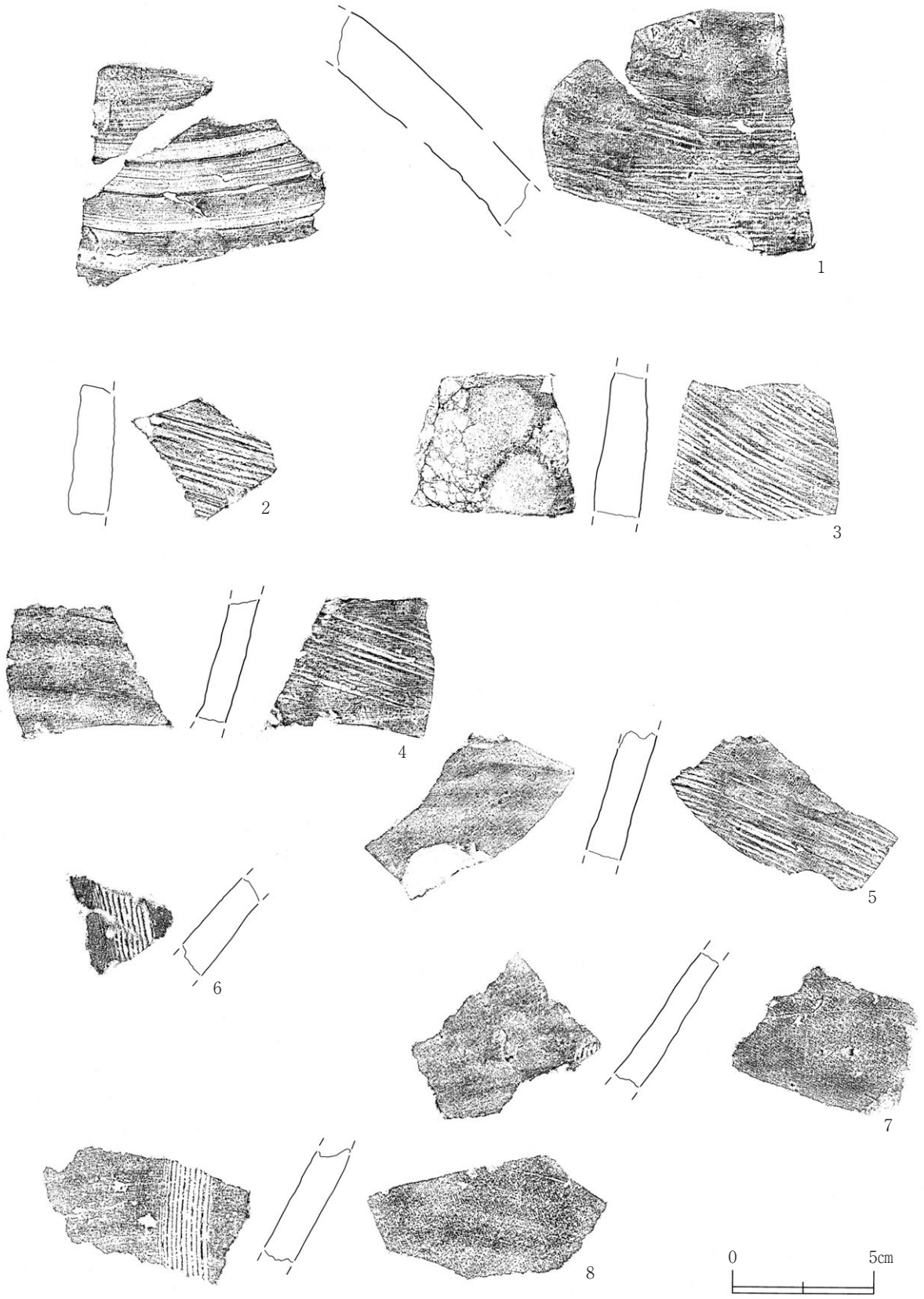
《位置・確認》 ＭＰ46、ＭＱ46グリッドにある。基本層位Ⅱa層上位面で柱穴８基を確認した。

《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行３間×梁行１間と思われる。南側の一部の柱穴が確認できなかった。柱掘方は直径25～30㎝の円形または楕円形で、深さ30～40㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は北側柱列で3.86ｍ、柱間距離は西から1.21・1.24・1.36ｍである。梁行は東妻柱列で1.30ｍである。建物方位は、北側柱列でＮ－８°－Ｗである。

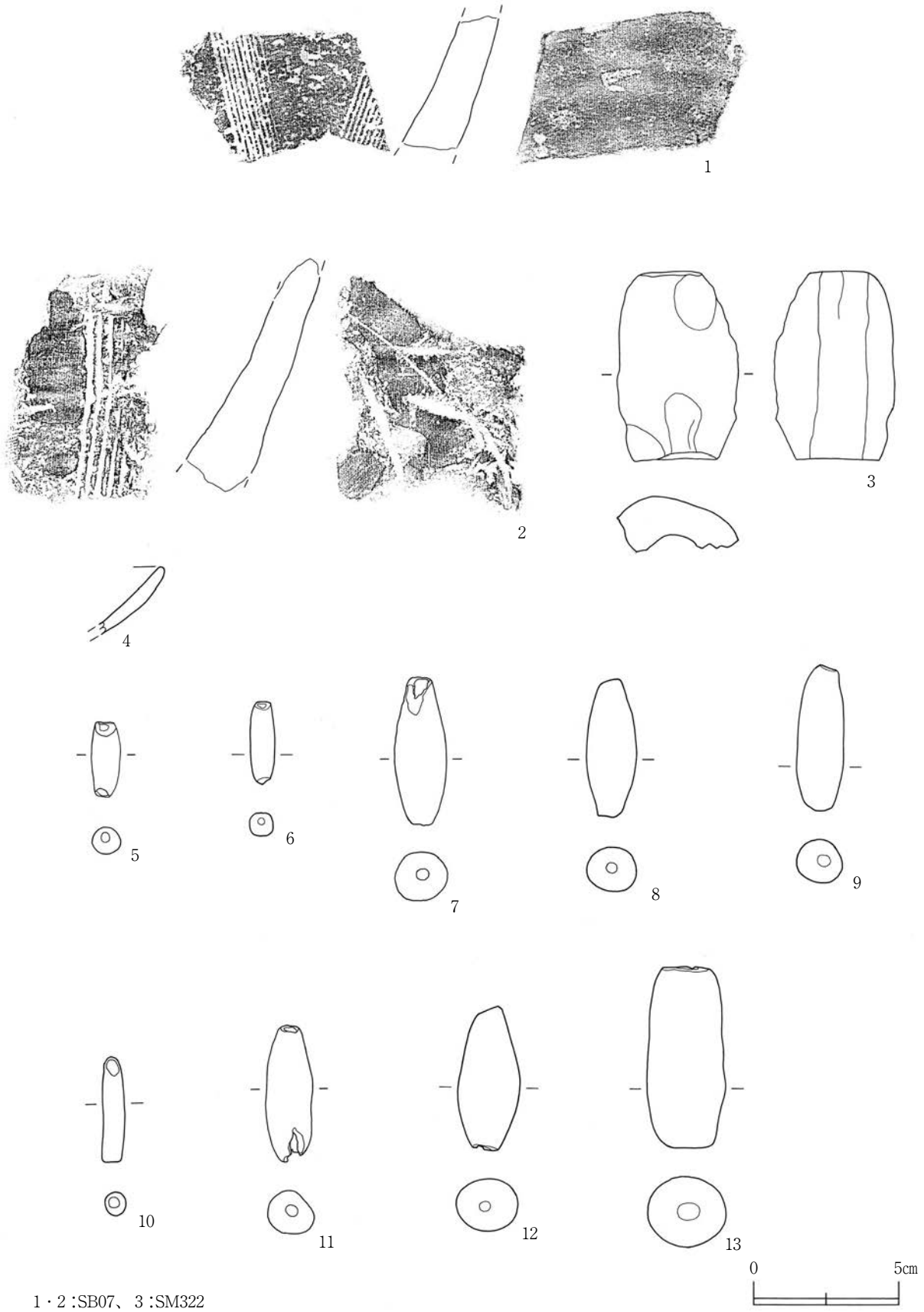
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



第13図　ＳＢ06掘立柱建物跡

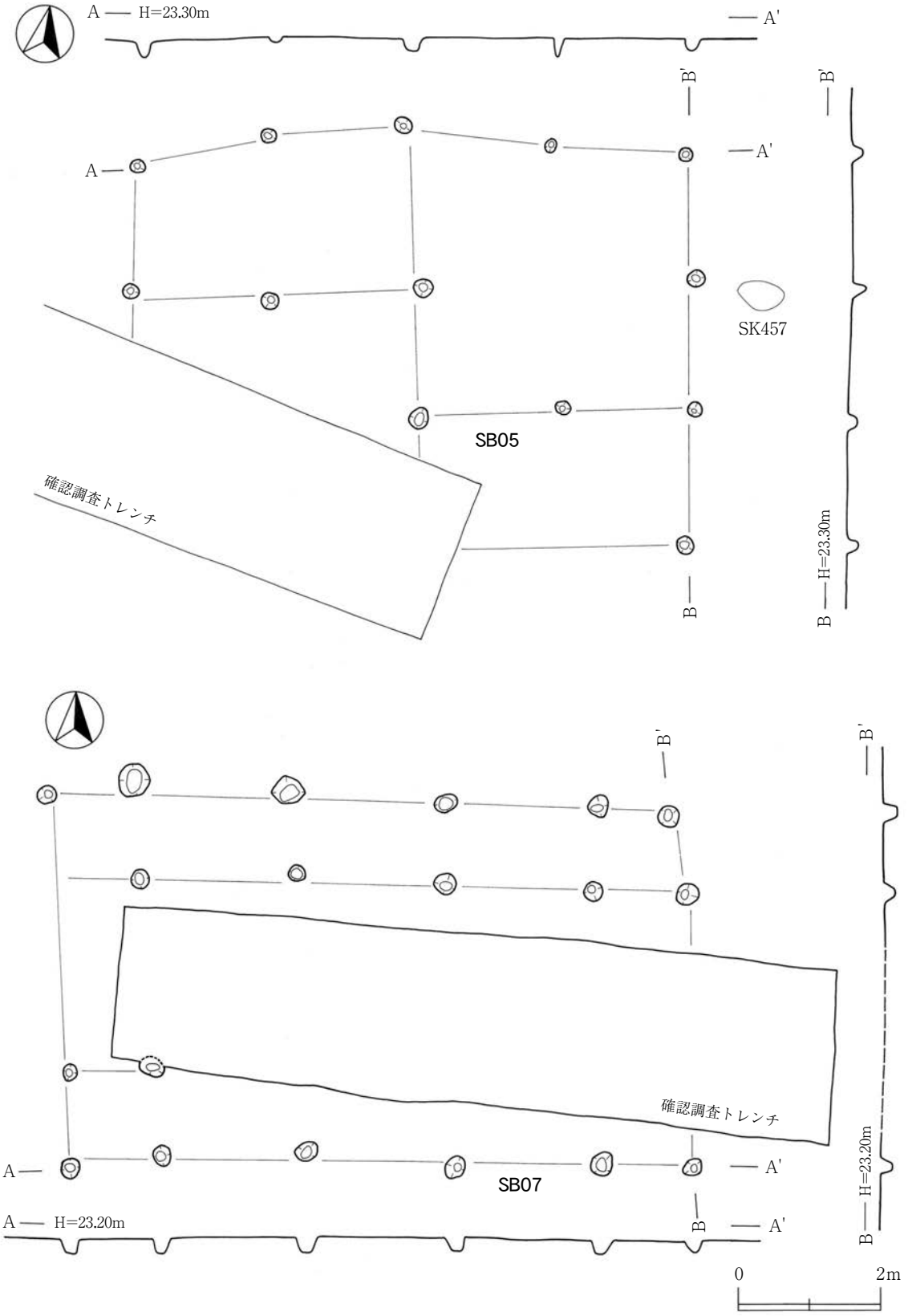


第14図　ＳＢ06出土遺物

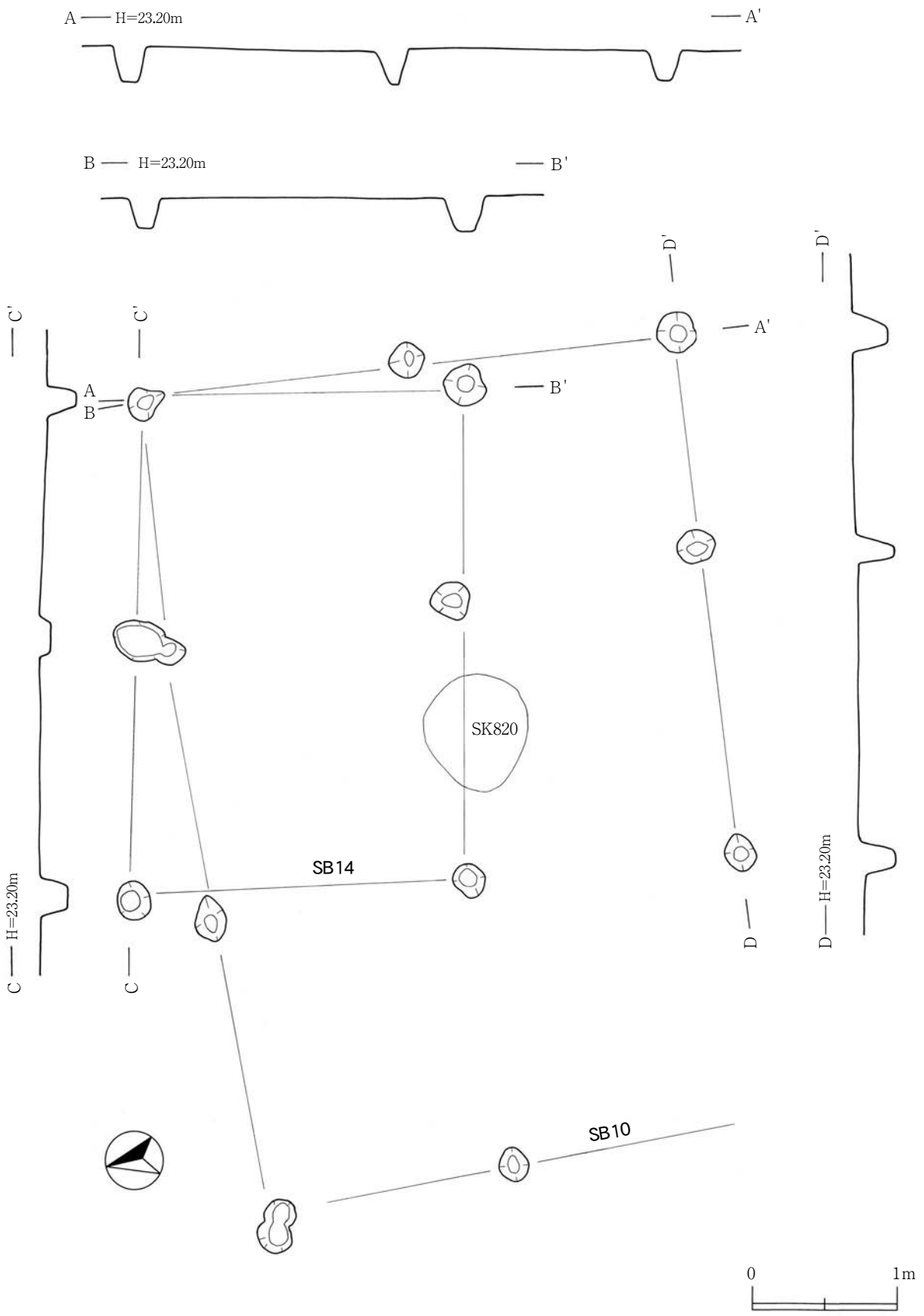


1・2：SB07、3：SM322
4：SK252、5～13：SX249

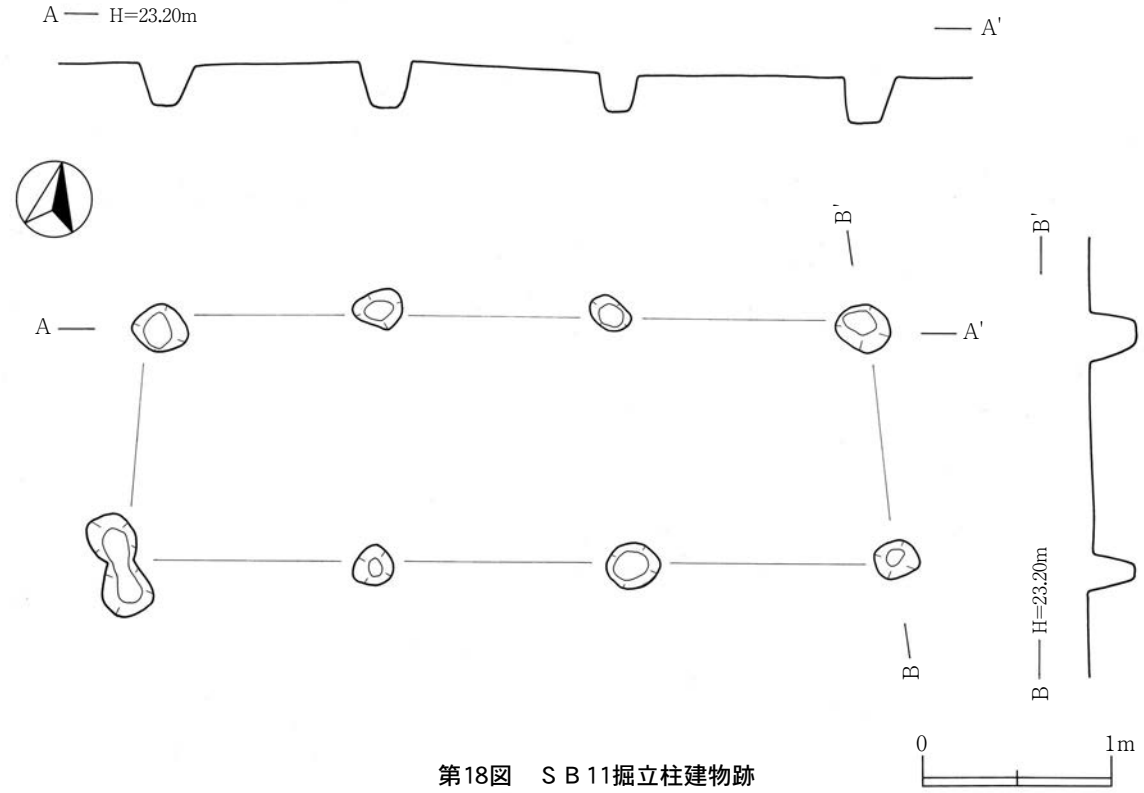
第15図　ＳＭ07・ＳＭ322・ＳＫ252・ＳＸ249出土遺物



第12図　ＳＢ05･07掘立柱建物跡



第17図　ＳＢ10･14掘立柱建物跡



第18図　ＳＢ11掘立柱建物跡

12　ＳＢ14掘立柱建物跡（第17図）

《位置・確認・重複》 ＭＬ46・47グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴５基を確認した。ＳＢ10掘立柱建物跡と重複する。

《規模・柱穴・方向》 東西棟で桁行２間×梁行１間である。北西隅柱が確認できなかった。ＳＢ10掘立柱建物跡と重複するが、柱の重複関係から、本建物跡の方が古いと考えられる。柱掘方は直径25～35㎝の円形または楕円形で、深さ20～35㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は北側柱列で3.42ｍ、柱間距離は西から1.80・1.62ｍである。梁行総長は東妻柱列で2.20ｍである。建物方位は、南側柱列でＮ－13°－Ｅである。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

13　ＳＢ15掘立柱建物跡（第10図）

《位置・確認・重複》 ＬＳ47、ＬＴ47・48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層上位面で柱穴６基を確認した。ＳＢ02掘立柱建物跡が重複する。

《規模・柱穴・方向》 南北棟で桁行３間×梁行１間であるが南側の一部の柱が確認調査トレンチに切られていると思われ、全体の建物規模は不明である。ＳＢ02掘立柱建物跡柱穴と重複するが、新旧関係は不明である。柱掘方は直径26～32㎝の円形または楕円形で、深さ20～35㎝ある。柱痕跡は確認できなかった。桁行総長は西側柱列で5.30ｍ、柱間距離は北から1.55・1.45・2.30ｍである。梁行は北妻で1.82ｍである。建物方位は西側柱列でＮ－23°－Ｅである。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

２　カマド状遺構

１　ＳＯ290Ａカマド状遺構（第20図、巻頭図版１・図版３）

《位置・確認》 調査区南西部中央のＭＫ49・50グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で北東側に円形の焼土集中部分と、それに付属し南西側に延びる暗褐色土で縦長のプランを確認した。南東側にＳＯ582カマド状遺構が隣接する。

《重複》 南西側でＳＯ290Ｂカマド状遺構と重複し、焼土の堆積状況から本遺構が新しい。

《平面形･規模》 ＳＯ290Ｂカマド状遺構と重複する焚き口部端部は立ち上がりを捉えることができなかった。長軸238㎝の馬蹄形で､主軸方向はＮ－６°－Ｅである。焼土の分布状況から南西側が焚き口部、北東側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境にややくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は幅約80㎝の長方形で､最大の深さが約30㎝である。燃焼部は幅約130㎝の円形である。短軸の断面形はＵ字形となる。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かって始めごく緩やかに傾斜するが、燃焼部付近で傾斜角度が大きくなる。燃焼部中央の深さは42㎝である。さらに燃焼部中央から丸みを帯び、緩やかに立ち上がる。

壁面は皿状の底面から急角度に立ち上がり、断面形状は不整なＵ字形となる。燃焼部壁面は被熱により赤変している部分が多いが、底面の一部に被熱の痕跡が確認できない部分も存在する。燃焼部中央付近には長軸約70㎝の楕円形の開口部あったと思われるが、南側部分は壊れていた。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ５㎝前後堆積していた。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

２　ＳＯ290Ｂカマド状遺構（第20図、巻頭図版１・図版３）

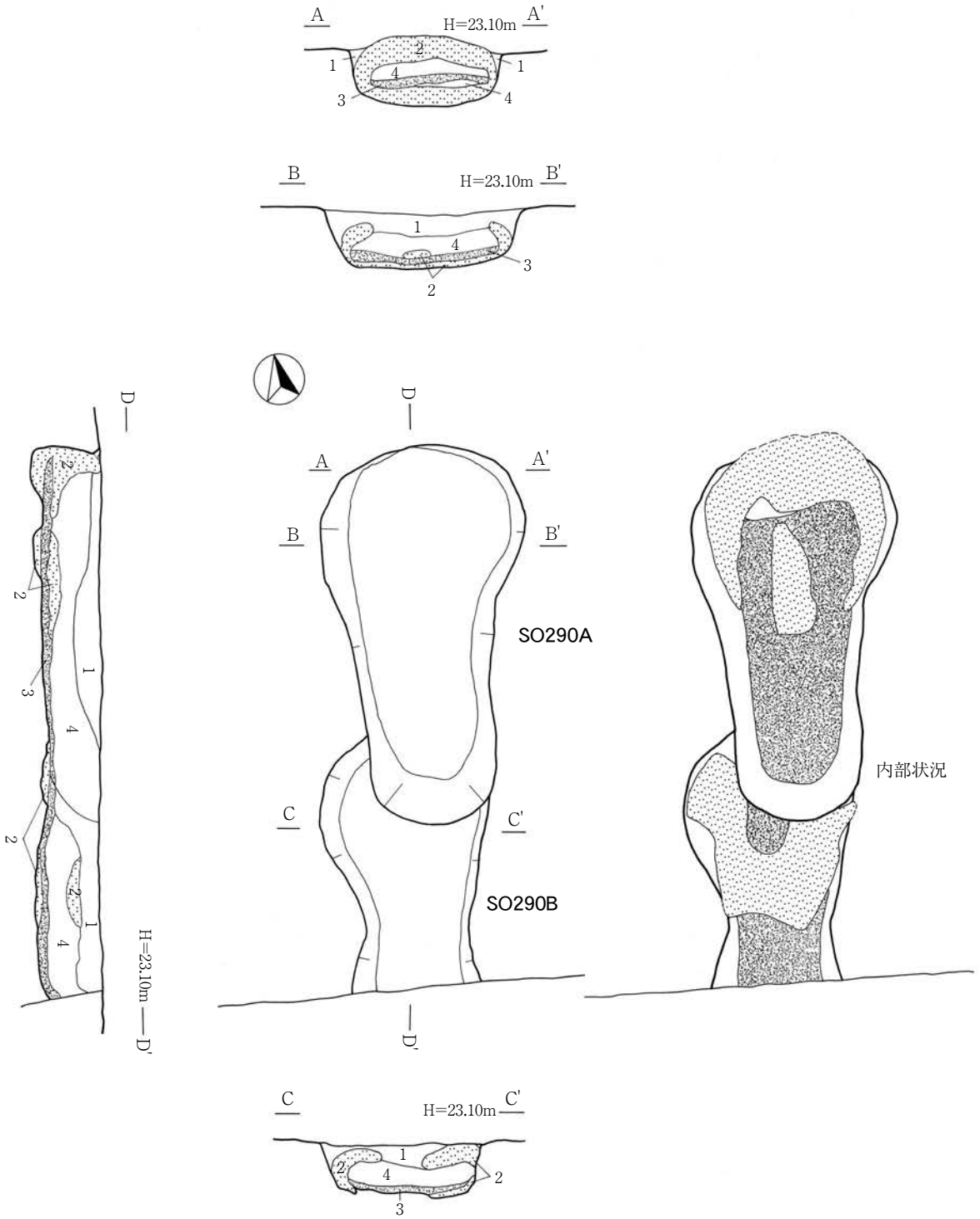
《位置・確認》 調査区南西部中央のＭＫ49・ＭＬ49グリッドにある。本遺構の南側に位置する確認調査トレンチによって焚き口部の大部分が切られており、確認調査時にも土坑として認識されていた。本調査によって、基本層位Ⅱａ層で北東側に延びる馬蹄形状のプランを確認し、一部焼土集中部分を確認したことから、カマド状遺構とした。南東側にＳＯ582カマド状遺構が隣接する。

《重複》 北東側でＳＯ290Ａカマド状遺構と重複し、焼土の分布状況から本遺構が古い。

《平面形･規模》 ＳＯ290Ａカマド状遺構と重複する北東側の燃焼部の一部が破壊されていた。長軸残存値156㎝の馬蹄形で､主軸方向はＮ－６°－Ｅである。焼土の分布状況から南西側が焚き口部、北東側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境にくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸約80㎝の楕円形であったと思われ､最大深さ約42㎝である。燃焼部は長軸約100㎝の楕円形で、中央の深さは約43㎝である。短軸断面形はＵ字形になる。長軸方向の底面は燃焼部から焚き口部にかけてやや凹凸があるものの、ほぼ平坦になるが、焚き口部残存部分の端で急角度に上がっていた。焚き口部の底面は一部傾斜が大きい部分があり、燃焼部は緩やかに中央部に傾斜している。燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多い。燃焼部中央付近には長軸約38㎝の楕円形の開口部分があったと思われるが北東部分は壊れている。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ４㎝前後堆積していた。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

第19図　ＳＤ706･716溝、カマド状遺構分布図



1．黒褐色土(10YR3/2)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物少量含む
2．褐色土(7.5YR4/6)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物含む
3．暗褐色土(10YR3/3)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物少量含む
4．暗褐色土(10YR3/3)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物含む

0　2m

第20図　ＳＯ290Ａ・290Ｂカマド状遺構

３　ＳＯ293カマド状遺構（第21図、巻頭図版１・図版３）

《位置・確認》 調査区南西部のＭＮ48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で南側に楕円形の焼土集中部分と、それに付属し北側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。東側にＳＯ600カマド状遺構が隣接する。焚き口部の一部が北側の確認調査トレンチによって切られている。

《平面形･規模》 長軸残存値258㎝の不整な長円形で、主軸方向はＮ－６°－Ｅである。焼土の分布状況から南側が燃焼部、北側が焚き口部である。焚き口部と燃焼部との境に僅かにくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸残存値120㎝の長方形であったと思われ、最大の深さ約44㎝である。燃焼部は長軸138㎝の楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、やや起伏を伴い緩やかに傾斜する。燃焼部中央の深さは約48㎝である。さらに燃焼部中央から丸みを帯び、緩やかに立ち上がる。燃焼部壁面は被熱により赤変し、弧を描きながら立ち上がる。短軸断面形は袋状になる。燃焼部中央付近には長軸約50～70㎝の不整な楕円形の開口部があったと思われるが北部分は壊れている。

焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ４～８㎝前後堆積していた。本遺構の付近に柱穴様ピットを７基検出した。いずれも長軸約25～30㎝の円形または楕円形で、深さ約20㎝である。その位置から本遺構に伴うものか否か定かではない。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

４　ＳＯ476カマド状遺構（第21図）

《位置･確認》 調査区南西部のＭＮ46グリッドにある。ＳＤ529溝跡南東側底部付近で楕円形の焼土を検出した。

《重複》 ＳＤ529溝跡と重複し、検出状況から本遺構が古い。

《平面形･規模》 ＳＤ529溝跡により破壊され、燃焼部焼土部分のみの検出であり、全体の形状は不明である。残存する焼土の範囲は直径54㎝、その厚さは21㎝であった。ＳＯ519カマド状遺構と検出状況が類似していることから、焚き口部が南東側に付属した可能性がある。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

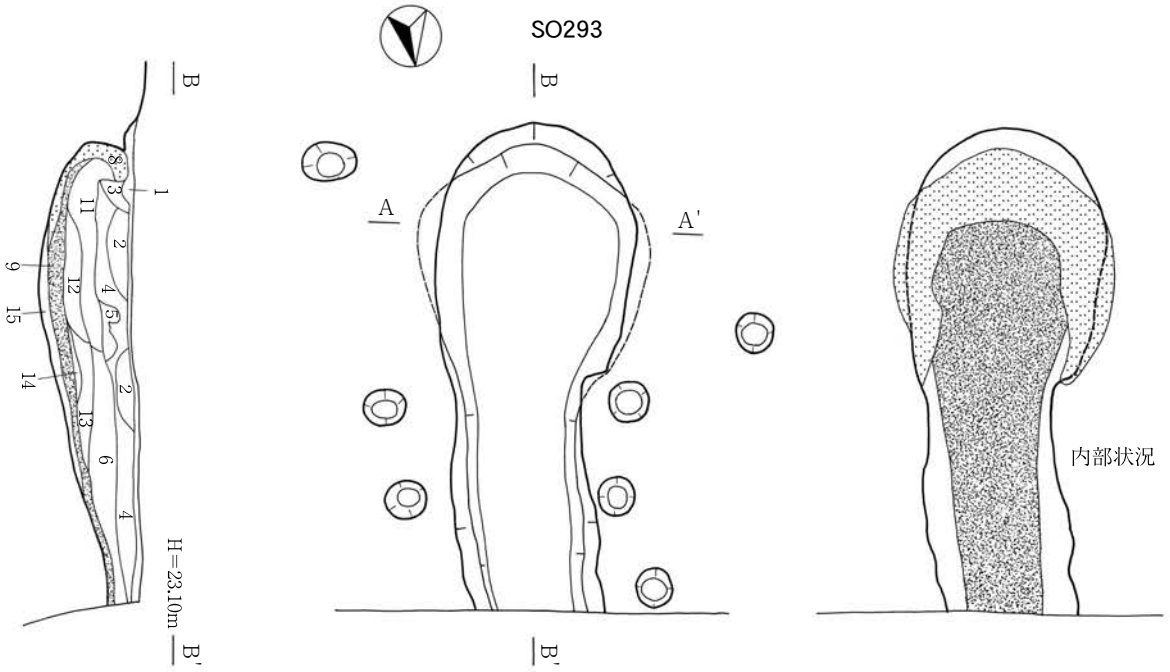
５　ＳＯ519カマド状遺構（第22図）

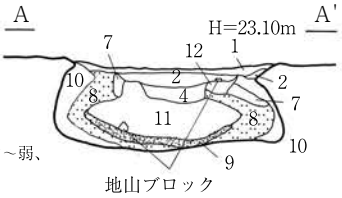
《位置･確認》 調査区南西部のＭＯ47グリッドにある。ＳＤ529溝跡中間付近精査中、焼土が混入する部分を確認し、底部で弧状の焼土を検出した。西側に隣接してＳＯ530カマド状遺構がある。

《重複》 ＳＤ529溝跡と重複し、検出状況から本遺構が古い。

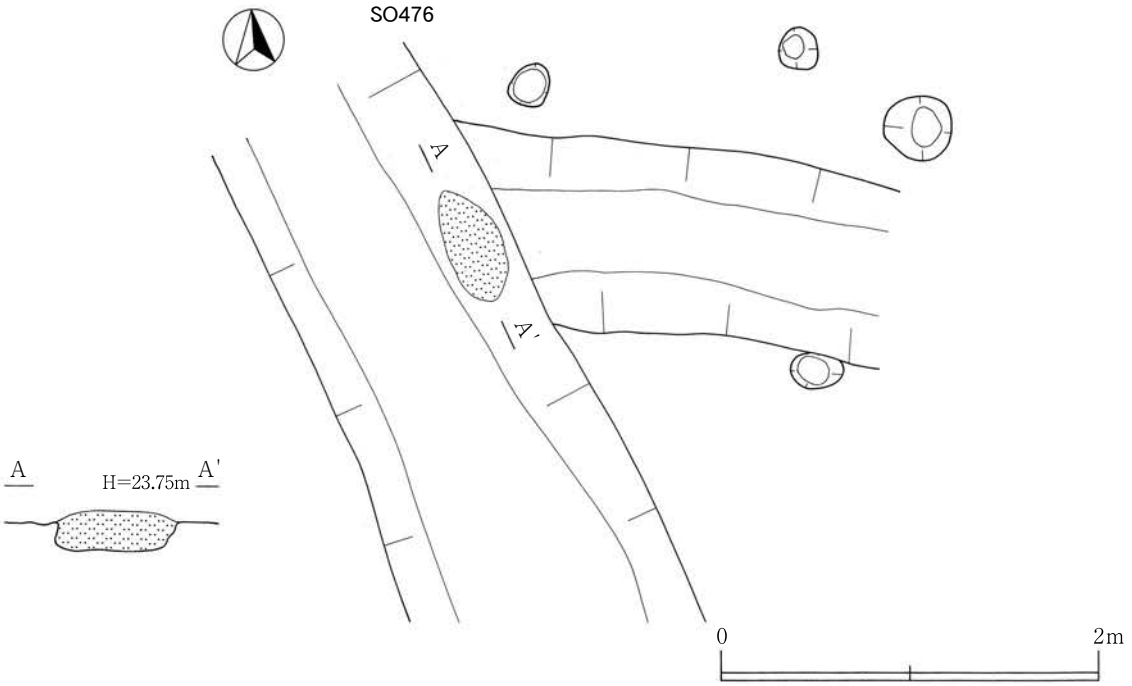
《平面形･規模》 ＳＤ529溝跡により破壊され、燃焼部焼土部分のみの検出である。東側の弧状の焼土とそれに続いたと思われる西側の焼土に分かれる。燃焼部の平面形は楕円形であったと思われ、残存する焼土の範囲は145㎝、その厚さ16㎝であった。燃焼部の検出状況から焚き口部が南東側に付属した可能性がある。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

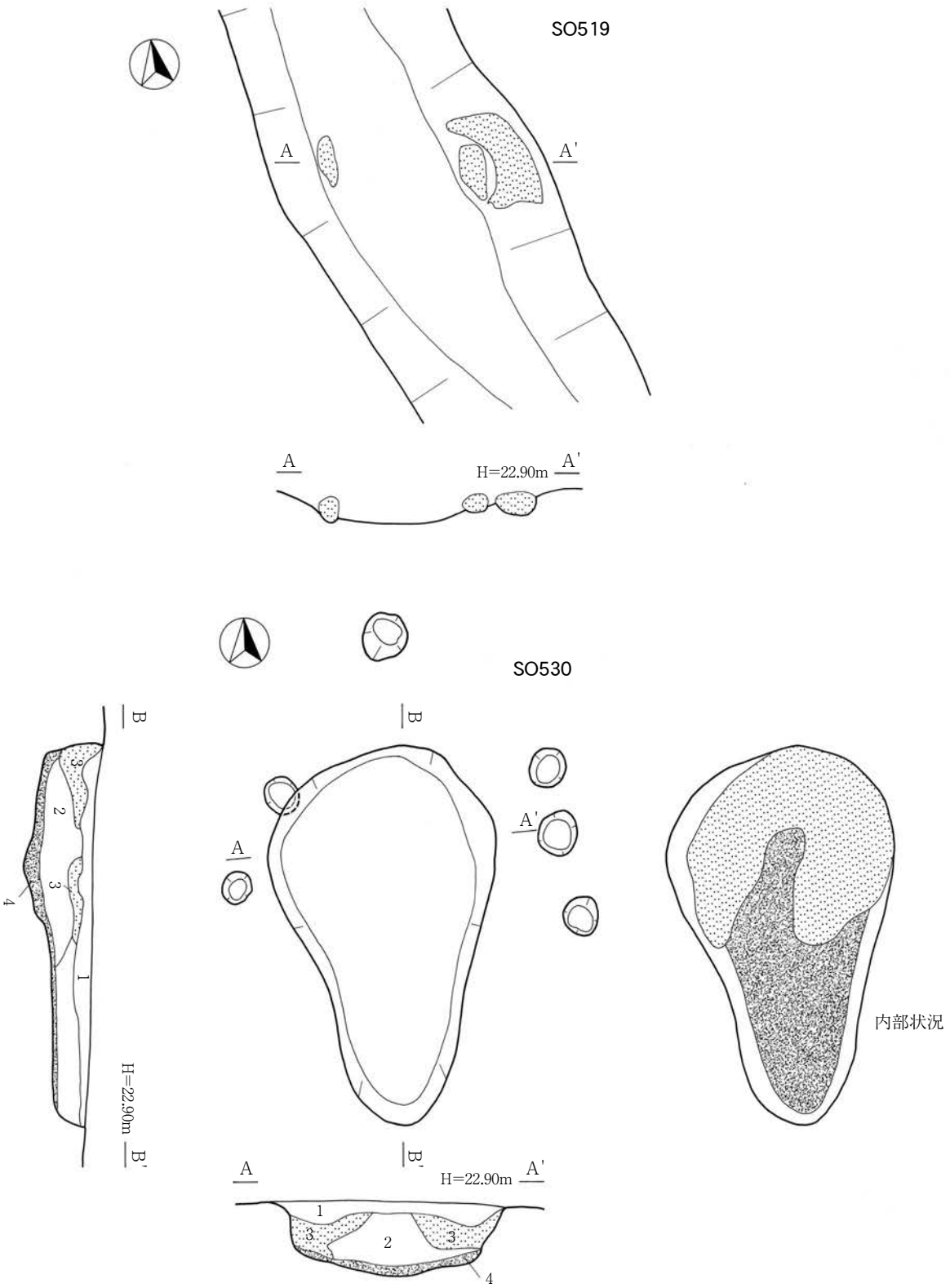




1．褐灰色土(10YR4/1)シルト、しまり弱、粘性強、
　地山粒子・灰・焼土少量含む
2．灰黄褐色土(10YR5/2)シルト、しまり中～弱、
　粘性中～強、地山粒子小～中量、灰微量含む
3．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト、しまり中～弱、
　粘性中～強、地山粒子微量、灰・焼土小～中量含む
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト～粘土、しまり中～弱、
　粘性強、地山粒子中～小量、灰小量含む
5．褐灰色土(10YR4/1)シルト～粘土、しまり弱、
　粘性強、地山粒子含む
6．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり弱、
　粘性強、地山粒子を中～多量、灰微量含む
7．明赤褐色土(5YR5/6)シルト、しまり強、粘性弱、
　地山粒子微量、灰多量、焼土極多量含む、焼土層
8．明赤褐色土(5YR5/6)シルト、しまり強、粘性弱、
　灰・焼土を極多量含む
9．黒色土(1YR2/1～1.7/1)シルト、しまり強、粘性弱、
　地山粒子・焼土・灰
10．にぶい褐色土(7.5YR5/4)シルト～粘土、しまり弱、
　粘性強、灰微量・焼土含む
11．褐灰色土(10YR4/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、
　地山粒子・灰・焼土少量含む
12．褐灰色土(10YR4/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、
　灰を中～少量、焼土含む
13．褐灰色土(10YR4/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、
　地山粒子少量、灰・焼土中～多量含む
14．褐灰色土(10YR5/1)シルト～粘土、しまり極弱、粘性強、
　地山粒子・灰・焼土含む
15．黒褐色土(10YR3/2)粘土、しまり極弱、粘性強、
　地山粒子・灰多量、焼土含む



第21図　ＳＯ293・476カマド状遺構



1．褐灰色土(10YR4/1)しまり中、粘性中、地山粒子・灰少量含む
2．灰黄褐色土(10YR5/2)シルト～粘度、しまり弱、粘性強、地山粒子少量、灰含む
3．黒色土(10YR2/1)シルト、しまり中、粘性中、灰多量、焼土中～多量含む
4．褐色土(7.5YR4/3)しまり中、粘性中、灰少量、焼土多量含む
5．灰黄褐色土(10YR4/2)しまり中、粘性中、灰・焼土含む

0　2m

第22図　ＳＯ519･530カマド状遺構

６　ＳＯ530カマド状遺構（第22図）

《位置・確認》 調査区南西部のＭＰ47・ＭＱ47グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で北側に円形の焼土集中部分と、それに付属し南側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。焚き口部の一部が調査区内排水溝によって切られている。南側にＳＯ1327カマド状遺構がある。

《平面形･規模》 長軸246㎝の糸瓜形で、主軸方向はＮ－４°－Ｅである。焼土の分布状況から北側が焚き口部、南側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境にくびれた部分があったと思われる。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸126㎝の不整な長円形であったと思われ、最大の深さは約28㎝である。燃焼部は長軸120㎝の円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、緩やかに傾斜する。燃焼部中央の深さは約49㎝である。さらに燃焼部中央から徐々に立ち上がる。 燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多く、ほぼ垂直に立ち上がっていた。短軸断面形は箱形に近い。燃焼部中央付近には長軸約38㎝の楕円形の開口部があったと思われるが、南西部分の一部が壊れていた。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ３～８㎝前後堆積しており、特に燃焼部中央付近で厚く堆積している。本遺構付近に柱穴様ピットを６基検出した。いずれも長軸約25～30㎝の円形または楕円形で、深さ約20～30㎝である。その配置から本遺構に伴う上屋を構成するものである可能性がある。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

７　ＳＯ552カマド状遺構（第23図、巻頭図版１・図版４）

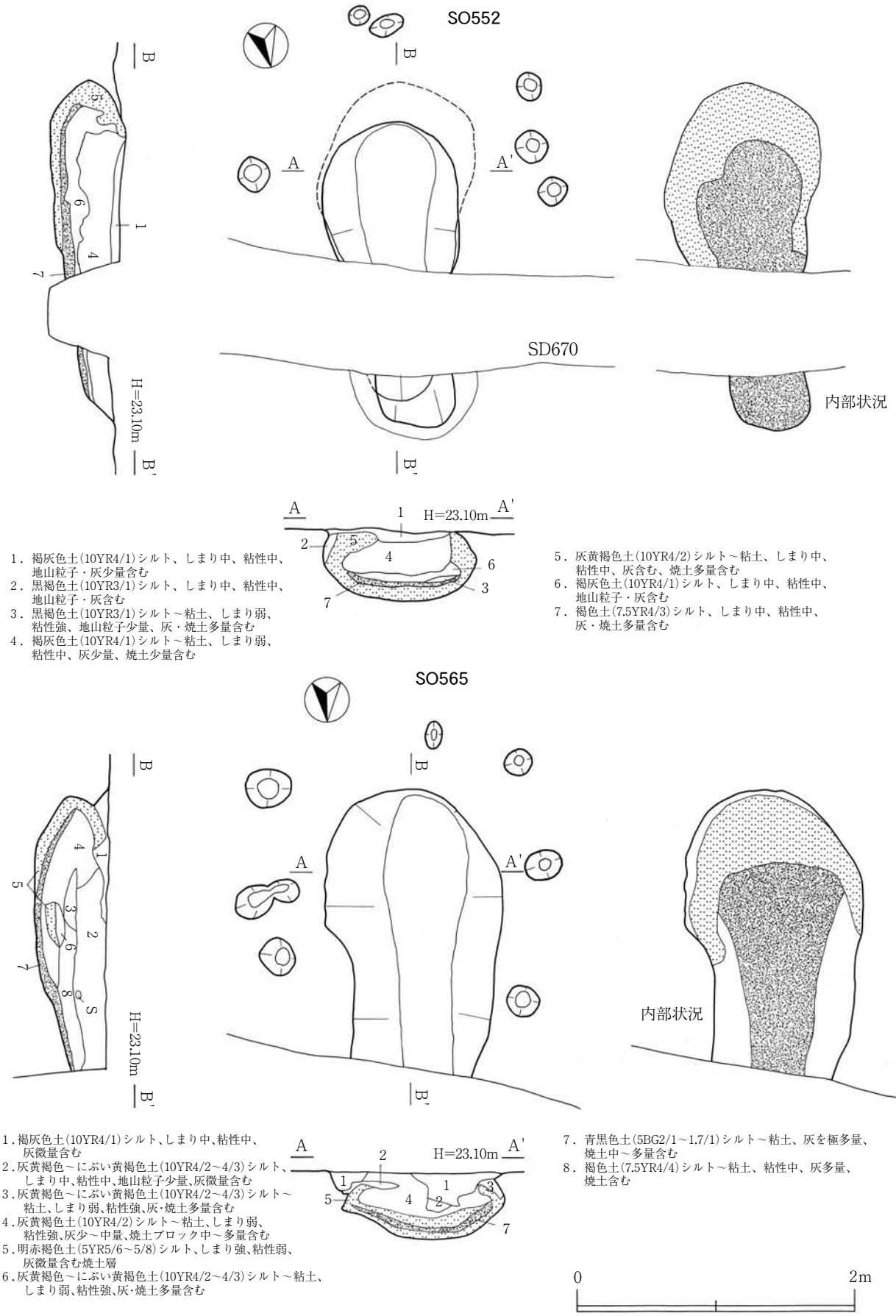
《位置・確認》 調査区南西部のＭＱ47・48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で楕円形の焼土集中部分を検出し、調査区内工事用道路部分の表土除去後、それに付属する暗褐色土の方形プランを確認した。西側にＳＯ565カマド状遺構が隣接する。

《重複》 ＳＤ670溝跡に焚き口部の大部分が切られている。

《平面形・規模》 長軸220㎝の糸瓜形で、主軸方向はＮ－３°－Ｅである。焼土の分布状況から北側が焚き口部、南側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境にくびれた部分があったと思われる。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸120㎝の隅丸方形であったと思われ、最大深さ約40㎝である。燃焼部は長軸100㎝の楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、やや起伏を伴って緩やかに傾斜する。燃焼部中央の深さは約53㎝である。さらに燃焼部中央から徐々に立ち上がる。燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多く、弧を描きながら立ち上がり、短軸の断面形は袋状になる。

燃焼部中央付近には、長軸約50～80㎝の楕円形の開口部があったと思われ、北部分は壊れている。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ３～６㎝前後堆積しており、焚き口部と燃焼部の境付近で特に厚く堆積する。本遺構付近に柱穴様ピットを６基検出した。いずれも長軸約25～30㎝の円形または楕円形で、深さ約20～30㎝である。しかし、本遺構に伴うものか否か明確ではない。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



1．褐灰色土(10YR4/1)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・灰少量含む
2．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・灰含む
3．黒褐色土(10YR3/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、地山粒子少量、灰・焼土多量含む
4．褐灰色土(10YR4/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性中、灰少量、焼土少量含む
5．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり中、粘性中、灰含む、焼土多量含む
6．褐灰色土(10YR4/1)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・灰含む
7．褐色土(7.5YR4/3)シルト、しまり中、粘性中、灰・焼土多量含む

1．褐灰色土(10YR4/1)シルト、しまり中、粘性中、灰微量含む
2．灰黄褐色～にぶい黄褐色土(10YR4/2～4/3)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子少量、灰微量含む
3．灰黄褐色～にぶい黄褐色土(10YR4/2～4/3)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、灰・焼土多量含む
4．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、灰少～中量、焼土ブロック中～多量含む
5．明赤褐色土(5YR5/6～5/8)シルト、しまり強、粘性弱、灰微量含む焼土層
6．灰黄褐色～にぶい黄褐色土(10YR4/2～4/3)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、灰・焼土多量含む
7．青黒色土(5BG2/1～1.7/1)シルト～粘土、灰を極多量、焼土中～多量含む
8．褐色土(7.5YR4/4)シルト～粘土、粘性中、灰多量、焼土含む

第23図　ＳＯ552・565カマド状遺構

８　ＳＯ565カマド状遺構（第23図、図版５）

《位置・確認》 調査区南西部のＭＲ47グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で南側に楕円形の焼土集中部分と、それに付属し北側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。東側にＳＯ552カマド状遺構が隣接する。

《重複》 ＳＤ670溝跡と焚き口部の大部分が重複し、長軸方向断面観察から本遺構が古い。

《平面形･規模》 長軸残存値200㎝の長円形で、主軸方向はＷ－４°－Ｎである。焼土の分布状況から北側が焚き口部、南側が燃焼部である。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸残存値93cmの不整な方形であったと思われ、最大深さ約50㎝である。大部分がＳＤ670溝跡によって破壊されていた。燃焼部は長軸107㎝の楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、緩やかに傾斜する。燃焼部中央の深さは約52㎝である。さらに燃焼部中央から徐々に立ち上がる。燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多く、弧を描きながら立ち上がり、短軸断面形は袋状になる。焼土部分が崩落し、灰層の上に堆積していた。

燃焼部中央付近の開口部分は遺存状態が悪く、長軸約73～96㎝の楕円形であったと思われるが、焼土部分の崩落からやや不明瞭である。北部分は壊れている。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ３～５㎝前後堆積し、焚き口部と燃焼部の境付近で特に厚い。

本遺構付近に柱穴様ピットを７基検出した。いずれも長軸約25～30㎝の円形または楕円形で、深さ約20～30㎝である。その配置から本遺構に伴う上屋を構成するものである可能性がある。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

《小結》 底面付近の炭化物の^{14}Ｃ年代測定結果では、遺構の年代は15世紀である。

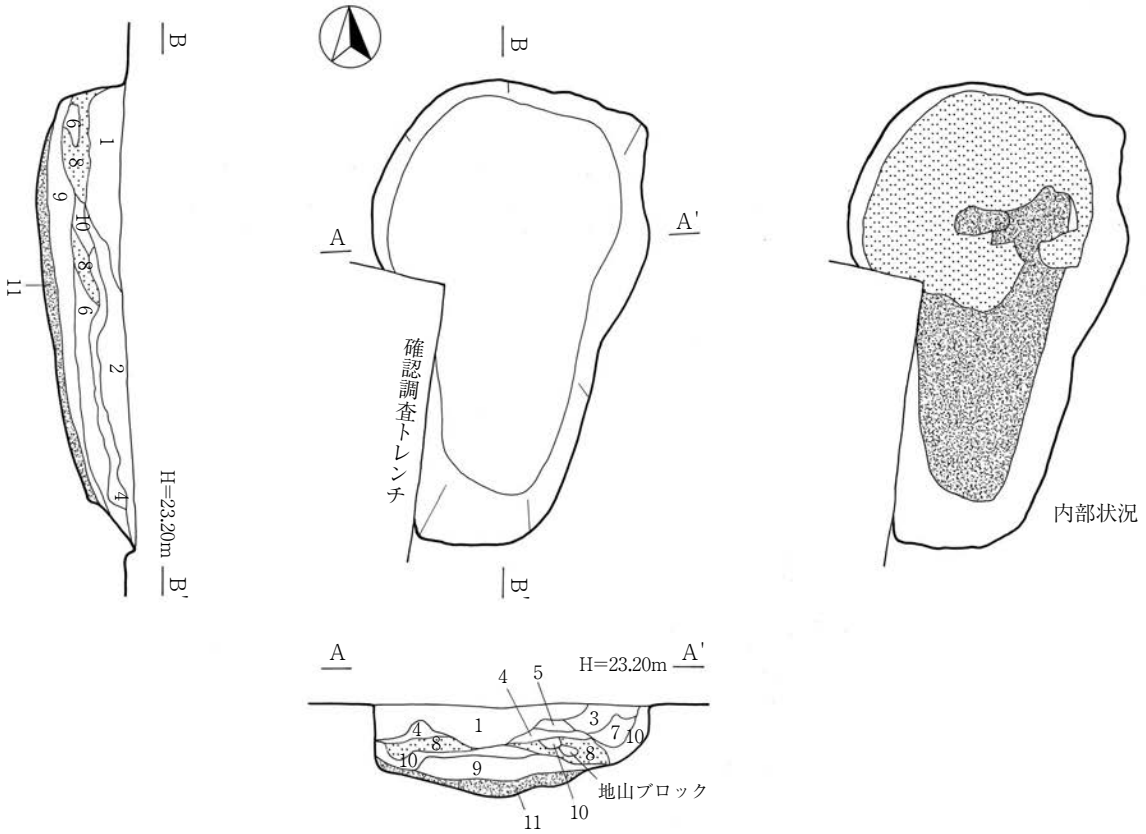
９　ＳＯ582カマド状遺構（第24図、図版６）

《位置・確認》 調査区南西部中央のＭＫ48・ＭＫ49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で北側に楕円形の焼土集中部分と、それに付属し南側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。北西側にＳＯ290Ａ・290Ｂカマド状遺構が隣接する。焚き口部西側の壁が確認調査トレンチによって切られていた。

《平面形･規模》 長軸246㎝の馬蹄形で、主軸方向はＮ－６°－Ｅである。焼土の分布状況から南側が焚き口部、北側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境に僅かにくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸133㎝の不整な方形であったと思われ、最大深さ約40cmである。 燃焼部は長軸113㎝の楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、やや起伏を伴って緩やかに傾斜する。燃焼部中央の深さは約46㎝である。さらに燃焼部中央から徐々に立ち上がる。燃焼部壁面はほぼ垂直に立ち上がるが、焼土部分は崩落していた。短軸断面形は箱形になる。燃焼部中央付近の開口部分は長軸約28㎝の不整な方形であったと思われるが、壁焼土部分が崩落していてやや不明瞭である。その下位部分には灰が厚く堆積していた。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ４～６㎝前後堆積している。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

《小結》 底面付近の炭化物の^{14}Ｃ年代測定結果では、遺構の年代は15世紀である。



1．黒褐色土(10YR3/2)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・灰微量含む
2．暗褐色土(10YR3/4)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子を微量、灰・焼土粒子中～多量含む
3．灰黄褐色土(10YR5/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性中～強、炭化物含む
4．にぶい黄色土(2.5Y6/3)粘土、しまり極弱、粘性強、灰中～少量含む
5．黒色(10YR1.7/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、地山粒子微量、灰・焼土中～多量含む
6．灰黄色土(2.5Y6/2)粘土、しまり極弱、粘性強
7．黒褐色土(10YR3/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、灰少～中量、焼土少量含む
8．暗灰黄色土(2.5Y5/2)粘土、しまり極強、粘性強、灰少～中量含む
9．赤褐色土(5YR4/8)シルト、しまり中～強、粘性なし、焼土ブロック
10．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、地山粒子を少量、灰・焼土少～中量含む
11．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト、しまり中、粘性中、灰・焼土ブロック少～中量含む

0　2m

第24図　ＳＯ582カマド状遺構

10　ＳＯ600カマド状遺構（第25図、図版７）

《位置・確認》 調査区南西部のＭＭ47・48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で南西側に楕円形の焼土集中部分と、それに付属し北東側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。西側にＳＯ293カマド状遺構が隣接する。

《平面形･規模》 長軸228㎝の糸瓜形で、主軸方向はＮ－32°－Ｅである。焼土の分布状況から北東側が焚き口部、南西側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境に僅かにくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸90㎝の不整な長円形であったと思われ、最大深さ約28㎝である。燃焼部は長軸138㎝の不整な楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、始め緩やかに傾斜するが、燃焼部では起伏を伴いやや急角度に傾斜する。燃焼部中央の深さは約52㎝である。さらに燃焼部中央から起伏を伴い、徐々に立ち上がる。燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多く、弧を描きながら立ち上がる。短軸断面形は袋状になる。燃焼部中央付近の開口部分は長軸約45㎝の不整な楕円形であったと思われ、北側部分は壊れている。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ４～10㎝前後堆積しており、燃焼部で特に厚く堆積する。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

11　ＳＯ807カマド状遺構（第26図、図版８）

《位置・確認》 調査区南西部のＭＭ46・ＭＮ46グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で北側に楕円形の焼土集中部分と、それに付属し南側に延びる暗褐色土の縦長プランを確認した。

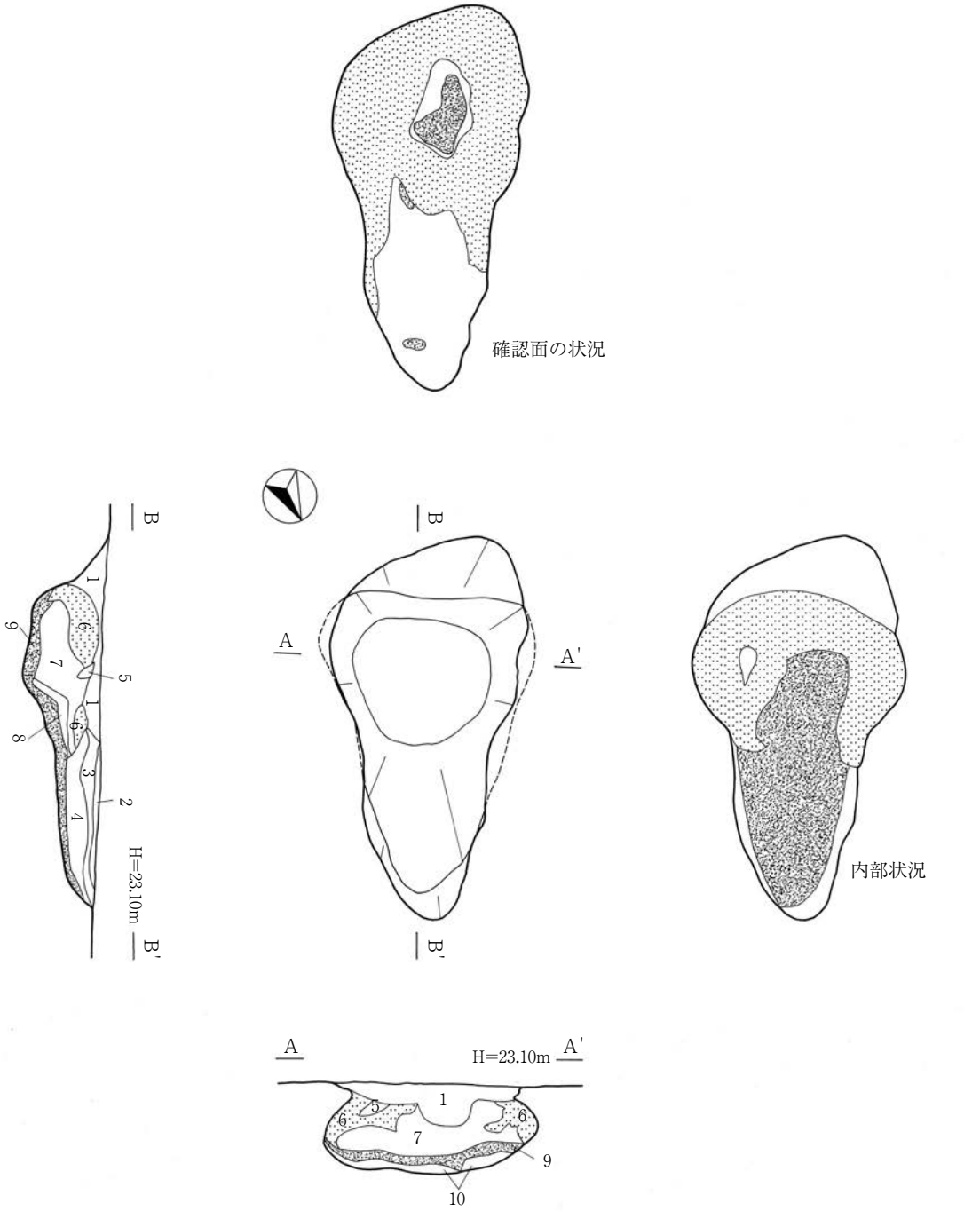
《重複》 ＳＤ670溝跡と重複し、本遺構の方が新しい。

《平面形･規模》 ＳＤ670溝跡と重複する燃焼部南端の壁上位はやや確認が困難であり、一部推定を含む。長軸残存値225㎝の馬蹄形で、主軸方向はＮ－14°－Ｅである。焼土の分布状況から南側が焚き口部、北側が燃焼部である。焚き口部と燃焼部との境にくびれた部分がある。煙道部は検出されなかった。焚き口部は長軸98㎝の不整な長円形であったと思われ、最大の深さは約46㎝である。燃焼部は長軸127㎝の楕円形である。長軸方向の底面は焚き口部から燃焼部中央に向かい、緩やかに傾斜し、その後やや傾斜角度を変えて上り始める。燃焼部中央の深さは約50㎝である。焚き口部の底面はほぼ平坦で、燃焼部はやや丸みを帯びるが、焼土部分が確認できない部分もある。燃焼部壁面は被熱により赤変する部分が多く、弧を描きながら立ち上がる。一部東側で焼土部分の壁が崩落していた。短軸断面形は袋状になる。燃焼部中央付近の開口部分は長軸約60～65㎝の不整な方形であったと思われ、南側部分は壊れている。

開口部南西側に大きさ約50㎝の礫が横位に立てられた状態で出土している。カマド燃焼部の補強材、または開口部の機能に関わるものである可能性がある。焚き口部から燃焼部の底面付近に灰が厚さ４～８㎝前後堆積しており、焚き口部南端部で特に厚く堆積する。本遺構付近に柱穴様ピットを５基検出した。いずれも長軸約25～30㎝の円形または楕円形で、深さ約20㎝である。その配置から本遺構に伴う上屋を構成するものである可能性がある。

《堆積土》 ほとんどが黄褐色粘土を多量に含んだ暗褐色土と黒褐色土で占められ、３層に区分される。上位は粘土質であるが、中位・下位はシルト質であり、自然堆積と思われる。

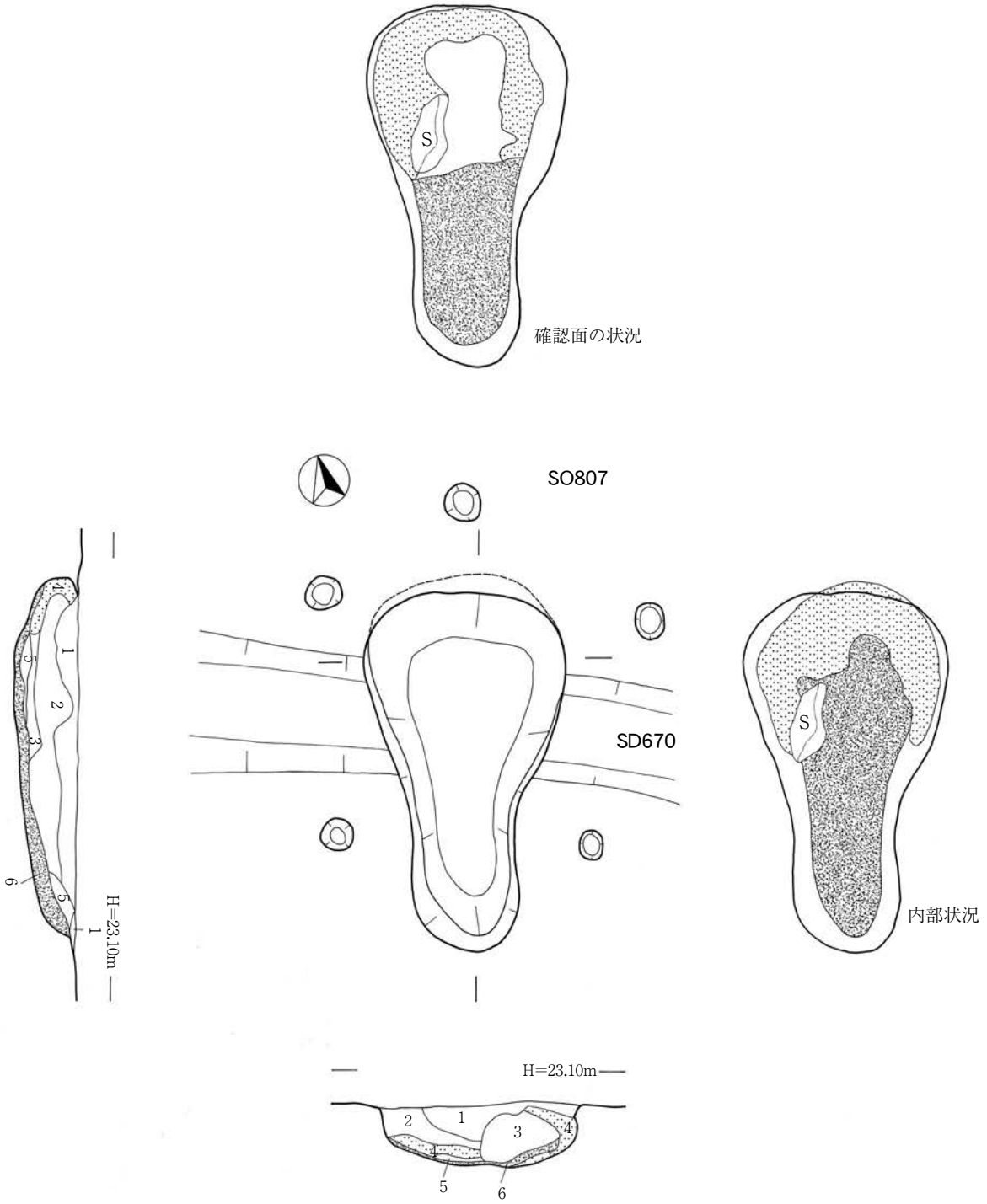
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



1．褐灰色土(10YR4/1)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子、灰・焼土粒子含む
2．褐灰色土(10YR4/2)シルト、しまり中～少、粘性中～強、地山粒子少～中、灰微量含む
3．灰黄褐色土(10YR5/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性中～強、地山粒子・灰少～中量含む
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、地山粒子少量、灰少～中量含む
5．黒色土(10YR2/1)シルト、しまり中、粘性中、灰多量・焼土含む
6．明赤褐色土(5YR5/6)シルト～粘土、しまり中、粘性中、灰中～多量、焼土層
7．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、地山粒子少量、灰・焼土少量含む
8．灰黄褐色土(10YR4/2)粘土、しまり強、粘性強、灰・焼土少量含む
9．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり強、粘性強、灰を極多量、焼土中～多量含む
10．灰褐色土(10YR4/2)粘土、しまり強、粘性強、灰・焼土少～中量含む

0　2m

第25図　ＳＯ600カマド状遺構



１．黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性強、地山ブロック少量含む
２．黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性強、地山ブロック・焼土微量含む
３．灰黄褐色(10YR4/2)シルト、しまり中、粘性中、地山粒子・灰少～微量、焼土ブロック中～多量含む
４．明赤褐色土(5YR5/6～5/8)シルト～粘土、しまり中～強、粘性弱～中、焼土層
５．灰黄褐色(10YR4/2)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、地山粒子微量、灰・焼土中～多量含む
６．青黒色土(5BG2/1～1.7/1)シルト～粘土、しまり弱、粘性強、焼土含む灰層

0　2m

第26図　ＳＯ807カマド状遺構

３　道路跡

１　ＳＭ322道路跡（付図、巻頭図版３・図版９）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＮ48～54、ＬＯ44～48・50～54、ＬＰ44～50グリッドに跨る。基本層位Ⅱｂ層で多数の溝跡を確認し、その中で南北方向に延びながら緩やかなカーブを描き、並列する２条の溝跡を検出した。この２条の溝跡を道路跡の両側側溝と判断し、側溝部分を含む全体を道路跡とした。東側側溝の北部分、南部分の一部が確認調査トレンチにより切られている。

《重複》 ＳＭ323道路跡と重複するが、新旧関係は不明である。また、ＳＭ330道路跡と重複し、側溝部分の切り合いから本遺構が古い。西側側溝の北寄り部分でＳＤ264溝跡と重複し、覆土観察から本遺構の方が古い。東側側溝の中間付近でＳＤ266溝跡と重複し、覆土観察から本遺構が新しい。

《形状・規模》 ほぼ南北方向に延びるが、中間付近で幅広になっている。東西両側に側溝を伴う。両側側溝部分が南北調査区外まで延びることから、道路跡も南北方向に続くと思われる。東側側溝の幅は約35～60㎝、深さ約14～32㎝で、断面形はＵ字形になる。西側側溝の幅は約35～70㎝、深さ約15～30㎝で、断面形はＵ字形になる。道路跡総長は約43.8ｍで、道路幅約3.7～4.7ｍ、側溝部分を含めた全体幅約4.7～5.7ｍであった。

《堆積土》 側溝部分は黒褐色土の単一層で、やや軟質である。道路部分は黒褐色土で硬質である。

《出土遺物》 側溝部分から瓷器系中世陶器・須恵器系中世陶器の破片が４点出土した。このうち、製作年代が12世紀末～13世紀のものが１点ある。他に須恵器の破片が１点出土した。

《小結》 西側にある掘立柱建物跡群との位置・方向の対応関係から、構築時期は中世と思われる。

２　ＳＭ323道路跡（付図、巻頭図版３・図版９）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＮ53・54、ＬＯ46～54、ＬＰ44～46・48～54、ＬＱ44～49グリッドに跨る。基本層位Ⅱｂ層で多数の溝跡を確認し、その中で南北方向に延びながら緩やかなカーブを描き、並列する２条の溝跡を検出した。この２条の溝跡を道路跡の両側側溝と判断し、側溝部分を含む全体を道路跡とした。東側側溝の北部分、南部分の一部が確認調査トレンチにより切られている。

《重複》 ＳＭ322道路跡と重複するが、新旧関係は不明である。また、ＳＭ330道路跡と重複し、側溝部分の切り合いから本遺構が古い。西側側溝の中間付近ではその西に長さ14ｍにわたって１条の溝があり、ＳＭ330の西側側溝と思われる。東側側溝の中間付近でＳＤ266溝跡と重複するが、新旧関係は不明である。

《形状・規模》 ほぼ南北方向に延びるが、中間付近から僅かに南南西方向に曲がる。東西両側に側溝を伴う。両側側溝部分が南北調査区外まで延びることから、道路跡も南北方向に続くと思われる。東側側溝の幅は約35～70㎝、深さ約15～34㎝で、断面形はＵ字形になる。西側側溝の幅は約38～70㎝、深さ約15～30㎝で、断面形はＵ字形になる。検出した道路跡の総長は約44.2ｍで、道路幅約5.0～5.3ｍ、側溝部分を含めた全体幅約5.3～6.3ｍである。

《堆積土》 側溝部分は暗褐色又は黒褐色土の単一層で、少量の炭化物が混入している。道路部分は黒褐色土でやや硬質である。

《出土遺物》 側溝部分から瓷器系中世陶器の破片３点、須恵器破片１点、土錘１点（第15図３）が出土した。

《小結》 本遺構の西側にある掘立柱建物跡群との位置・方向の対応関係から、構築時期は中世と思われる。

３　ＳＭ330道路跡（付図、図版９）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＱ44・45、ＬＰ45～48、ＬＧ～ＬＰ49・50グリッドに跨る。基本層位Ⅱｂ層で多数の溝跡を確認し、その中で東西方向に延び、西端を角にしてほぼ直角に曲折しながら並列する２条の溝跡を検出した。北側側溝の中間付近で確認調査トレンチにより切られている。

《重複》 ＳＭ322・323道路跡とそれぞれ西端付近で重複し、側溝部分の覆土の観察から本遺構が新しい。北側側溝の中間付近でＳＤ1306溝跡と重複し、覆土の観察から本遺構が新しい。

《形状・規模》 東西方向に延びるが、西端で直角に曲折し、南北方向にも延びている。南北両側に側溝を伴うが､南側側溝は曲折すると東側側溝となる。西側側溝はＳＭ323西側側溝をそのまま使用しているものと考えられる。両側側溝部分の横断面が調査区中央部と東部の境界である水田畦部分に残っていたことから、道路跡は東西方向に続くと思われる。南（東）側側溝の幅は約35～80㎝、深さ約12～25㎝で、断面形は皿状になる。北側側溝の幅は約40～60㎝、深さ約12～30㎝で、断面形はＵ字形になる。

検出した道路跡の総長は約62.3ｍで、東西方向約37.5ｍ、南北方向推定24.8ｍである。しかし、ＬＡ50、ＬＢ49･50グリッドにもカーブして並ぶ２条の溝（ＳＤ1307･1308）があり、これもＳＭ330道路跡と見なすと総長は約85ｍ、東西長約60ｍとなる。道路幅は東西方向では2.5ｍ～5.5ｍ、南北方向では２～2.7ｍである。

《堆積土》 側溝部分は黒褐色土の単一層で、軟質である。道路部分は暗褐色土で軟質である。

《出土遺物》 側溝部分から須恵器甕の小破片が出土した。

４　溝　跡

１　ＳＤ109溝跡（第27図）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＴ50・51グリッドにある。基本層位Ⅱa層で確認した。

《形状・規模》 北西から南東方向に延びるが、やや弧状になる。検出長約1.9ｍで、幅約68～72㎝と、ほぼ一定である。底面はほぼ平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。底面幅は約38～40㎝であり、深さは約10㎝である。

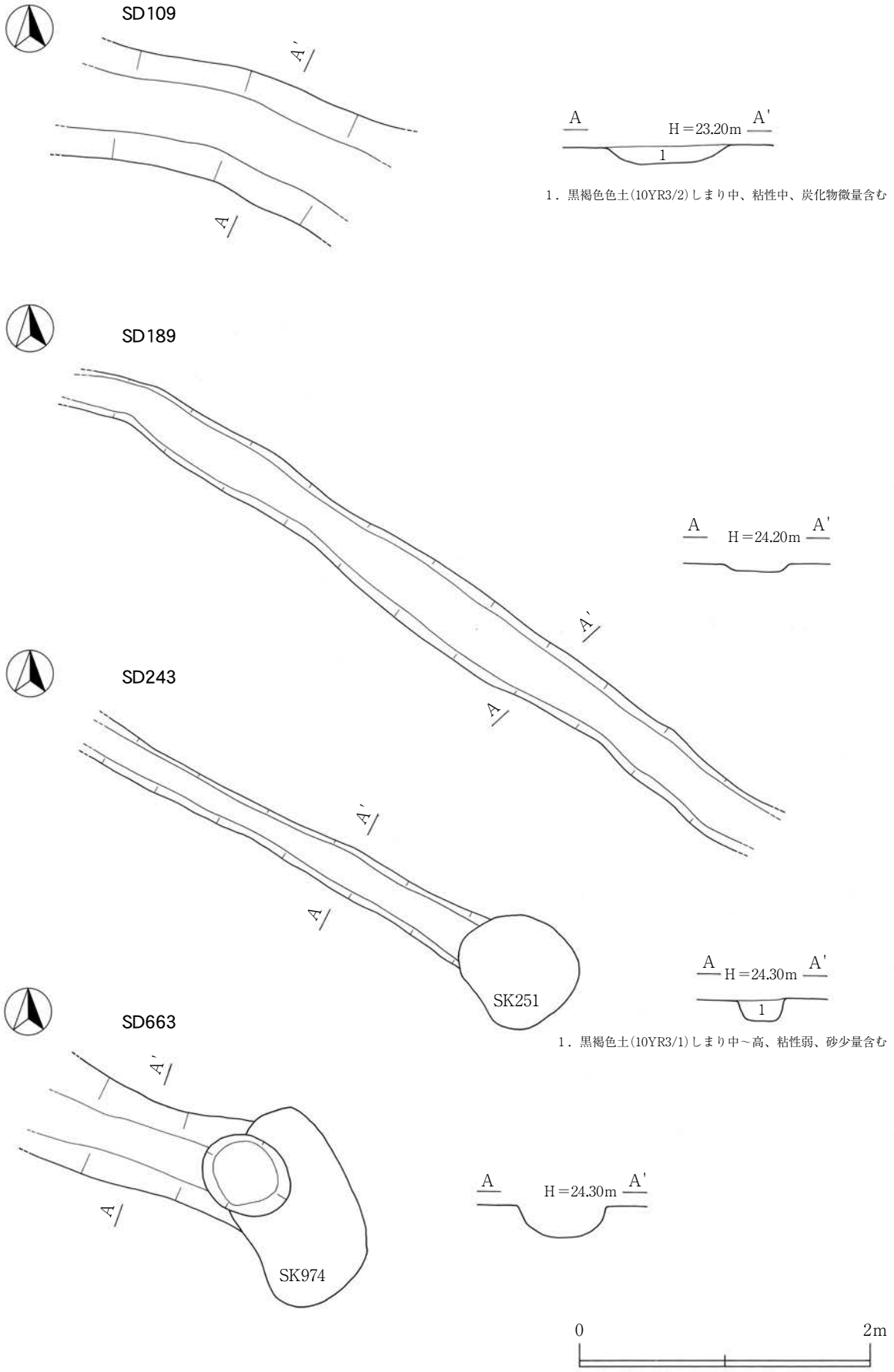
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

２　ＳＤ189溝跡（第27図）

《位置・確認》 調査区中央部西側ＬＱ・ＬＲ52、ＬＲ・ＬＳ53グリッドにある。基本層位Ⅱa層で確認した。南西側にＳＢ03掘立柱建物跡が隣接する。

《形状・規模》 北西から南東方向に延びる。検出長約11.2ｍで、幅約80～100㎝と、やや幅広になる箇所がある。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。断面形は皿状である。底面幅は約45～70㎝であり、深さは約10㎝である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



第27図　ＳＤ109・189・243・663溝跡

３　ＳＤ243溝跡（第27図）

《位置・確認》 調査区中央部のＭＡ・ＭＢ48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《重複》 南東側でＳＫＰ243柱穴様ピットと重複し、本遺構が古い。

《形状･規模》 北西から南東方向に延びる。南東側の一部がＳＫＰ243柱穴様ピットによって切られていて不明である。検出長約2.94ｍで、幅約22～32㎝と、やや広がりが認められた。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。断面形は箱形に近い形状である。底面幅は約18～26㎝であり、深さは約14㎝である。

《堆積土》 炭化物がやや混入した黒褐色土の単一層である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

４　ＳＤ264溝跡（付図）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＯ51・52、ＬＰ51グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。南東部の一部が確認できなかった。

《重複》 ＳＭ01の側溝と重複し、覆土観察から本遺構が新しい。

《形状・規模》 北東から南西方向に延びるが、南西部で大きく湾曲し、南東方向に延びる。検出長約5.4ｍで、幅約40～44㎝と、ほぼ一定である。底面は平坦で、壁はほぼ垂直に立ち上がる。断面形は箱形である。底面幅は約20～24㎝で、深さは約24㎝である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

５　ＳＤ266溝跡（付図）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＮ・ＬＯ50グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《重複》 ＳＭ322・323・330の側溝と重複し、本遺構の方が古い。

《形状･規模》 北西から南東方向に延びる。検出長約4.8ｍで、幅約56㎝と、ほぼ一定である。底面は丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。断面形は皿状である。底面幅は約30㎝で、深さは約16㎝である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

６　ＳＤ331溝跡（付図）

《位置・確認》 調査区中央部北東側端のＬＥ53グリッドにある。当初、調査区境界にある水田畦部分の壁に断面が残っており、その後、基本層位Ⅱａ層で北西－南東方向の平面形を確認した。

《形状･規模》 北西から南東方向に延びるが、北西方向に調査区外まで続いていた。検出長約4.0ｍで、幅約66～80㎝ と、部分的に幅広になる箇所がある。底面はやや丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。断面形は箱形に近い形状である。底面幅は約34～52㎝で、深さは約32㎝であった。

《堆積土》 僅かに炭化物の混入した黒褐色土の軟質である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

7　SD379溝跡（付図）

《位置・確認》　調査区東部のＬＣ47・48、ＬＤ48・49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　南西～北東方向にカーブし、総検出長は10.4ｍで、幅は西方では約70㎝あるが、しだいに細くなり、東端では16㎝となる。底面はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状で、深さは約32㎝である。

《堆積土》　灰黄褐色土が堆積する。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

8　SD529溝跡（第19図、図版10）

《位置・確認》　調査区南西部のＭＮ45・ＭＮ～ＭＯ46・ＭＯ47・48・ＭＯ～ＭＰ49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。北部と南部は調査区外に続く。

《重複》　北部分でＳＤ706･716溝跡と重複し、覆土観察から本遺構が古い。南部分でＳＤ670溝跡と重複し、覆土観察から本遺構の方が新しい。ＳＯ476・519カマド状遺構とも重複し、焼土の検出状況から、本遺構の方が新しい。

《形状・規模》　北から南に延び、検出部はほぼ直線状に掘られていた。検出長約23ｍで、幅は部分的に広がる箇所があるが、約1.0～1.6ｍである。底面はやや丸みを帯び、壁は底面から急角度に立ち上がる。底面幅は32～80㎝とかなりの広がりをもつ。断面形状はＵ字形である。深さは30～34㎝である。

《堆積土》　底部はグライ化し青灰色粘土に変色している。

《出土遺物》　底部付近から瓷器系中世陶器片が出土した。

9　SD663溝跡（第27図）

《位置・確認》　調査区中央部のＭＣ49・50グリッドにある。基本層位Ⅱa層で確認した。

《重複》　南東側でＳＫＰ1008柱穴様ピットと重複し、本遺構が古い。

《形状・規模》　北西から南東方向に延びる。検出長約1.4ｍで、幅約60～70㎝と、部分的に幅広になる箇所がある。底面は丸みを帯びる。壁はやや起伏があるが、急角度に立ち上がる。断面形はＵ字形である。底面幅は約28～30㎝と、ほぼ一定であり、深さは約20㎝であった。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

10　SD670溝跡（第19図）

《位置・確認》　調査区南西部のＭＪ～ＭＬ45・ＭＬ～ＭＰ46・ＭＰ・ＭＱ47グリッドにある。基本層位Ⅱa層で確認した。北西部と南東部は調査区外に続く。

《重複》　ＳＤ529溝跡と重複し、本遺構が古い。また、ＳＯ552・565カマド状遺構と重複し、本遺構が新しい。ＳＯ807カマド状遺構よりも古い。

《形状・規模》　北西から南東に延びるが、北西部ではやや北よりに方向を変えながら、南東側では南に湾曲しながら、それぞれ調査区外に続いている。検出長約32ｍで、幅は部分的に広がる箇所があるが、約1.0～1.3ｍである。底面はやや丸みを帯び、壁は底面から急角度に立ち上がる。底面幅は32

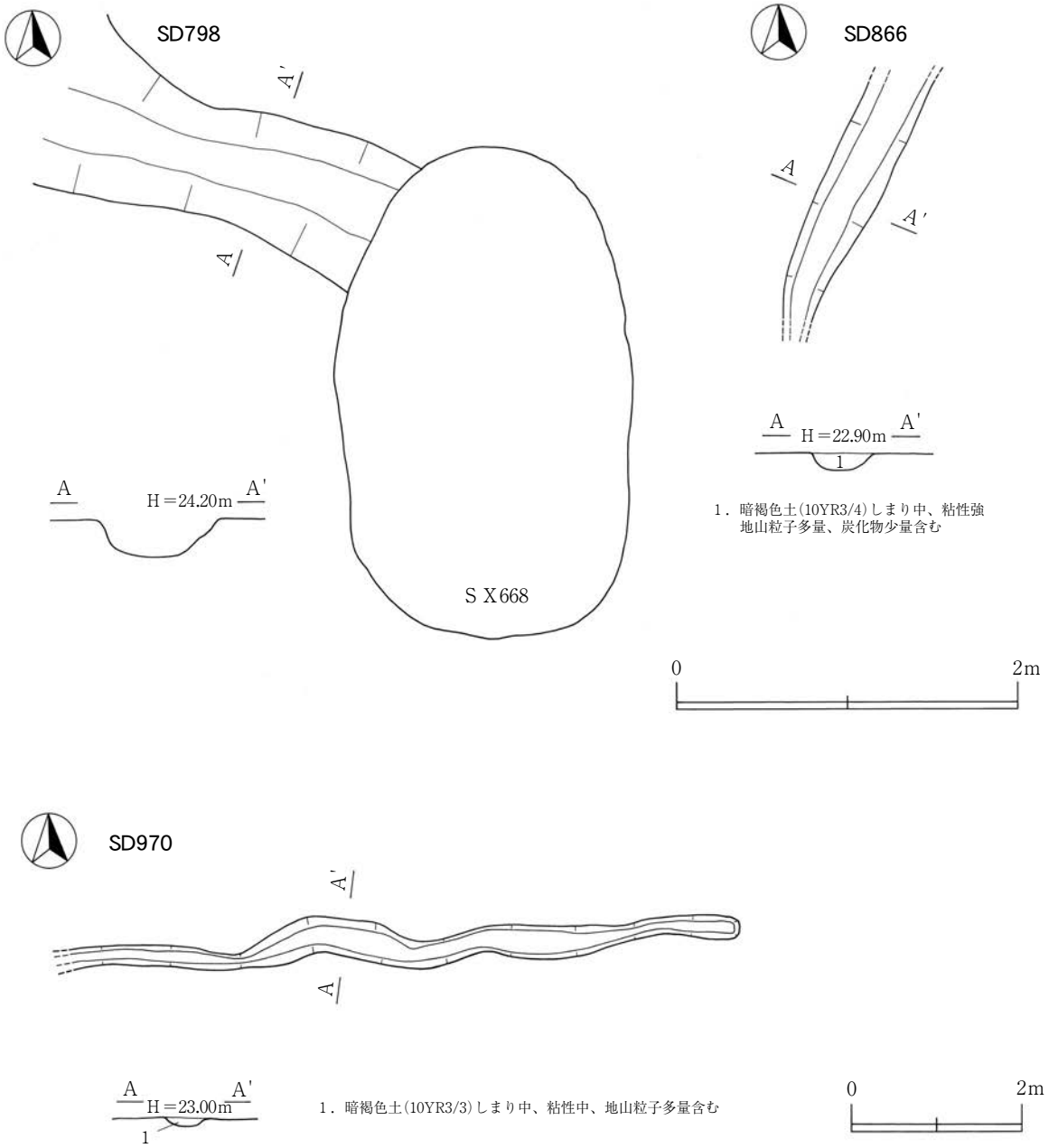
～80㎝とかなりの広がりをもつ。断面形状はＵ字形である。深さは25～36㎝である。
《堆積土》 底部はグライ化し青灰色粘土に変色している。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

11　ＳＤ706溝跡（第19図）
《位置・確認》 調査区南西部のＭＱ～ＭＲ48・ＭＯ～ＭＰ49・ＭＮ50・ＭＭ51グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。北西側に同方向で隣接するＳＤ716溝跡がある。
《重複》 中間付近でＳＤ529溝跡と重複し、覆土観察から本遺構が新しい。
《形状・規模》 北東から南西方向に延びる。検出長約25.6ｍで、幅約56～136㎝と、部分的に大きく幅広になる箇所がある。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。断面形は皿状である。底面幅は約32～65㎝であり、深さは約16㎝である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

12　ＳＤ716溝跡（第19図）
《位置・確認》 調査区南西部のＭＰ48・ＭＯ49・ＭＮ50・ＭＭ51グリッドにである。基本層位Ⅱａ層で確認した。南東側に同方向で隣接するＳＤ706溝跡がある。ＭＯ･ＭＮ49付近で確認調査トレンチにより切られている。
《重複》 中間付近でＳＤ529溝跡と重複し、覆土観察から本遺構が新しい。
《形状･規模》 北東から南西方向に延びる。検出長約22ｍで、幅約64～112㎝と、部分的に大きく幅広になる箇所がある。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。断面形は皿状である。底面幅は約36～65㎝であり、深さは約16㎝である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

13　ＳＤ798溝跡（第28図）
《位置・確認》 調査区中央部のＭＣ49グリッドである。基本層位Ⅱa層で確認した。
《重複》 南東側でＳＸ668性格不明遺構と重複し、本遺構が古い。
《形状･規模》 北西から南東方向に延びる。南東側の一部がＳＸ668性格不明遺構によって切られており不明である。検出長約2.1ｍで、幅約65～100㎝と、やや広がりがある。底面はやや丸みを帯びる。壁は急角度に立ち上がるがやや起伏がみられ、断面形は擂鉢状である。底面幅は約20～34㎝と、部分的に幅広になる箇所がある。深さは約22㎝である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

14　ＳＤ866溝跡（第28図）
《位置・確認》 調査区南西部のＭＲ46・47グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 北東から南西方向に延びるが、やや南東部が幅狭である。検出長約1.52ｍで、幅約18～32㎝と、やや広がりが認められた。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がっていた。断面形は皿状である。底面幅は14～18㎝で、深さは10㎝である。



第28図　ＳＤ798･866･970溝跡

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

15　ＳＤ970溝跡（第28図）

《位置・確認》 調査区西部のＭＧ・ＭＨ・ＭＩ50グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。北側にＳＢ07掘立柱建物跡、南側にＳＢ05掘立柱建物跡がそれぞれ隣接する。

《形状・規模》 やや縦長のＳ字状で、東西方向に延びる。検出長約7.8ｍ、幅は部分的に広がる箇所があるが、約20～40㎝である。底面はやや丸みを帯び所々に起伏がみられ、壁は底面から急角度に丸みを帯びながら立ち上がる。底面幅は６～28㎝とかなりの広がりを持ち、特に中央部、東側で幅広となる。深さは約10㎝である

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

16　ＳＤ1305溝跡（付図）

《位置・確認》 調査区中央部のＬＯ49・50、ＬＰ50グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《重複》 ＳＭ323の側溝と重複し、覆土観察から本遺構の方が古い。

《形状・規模》 北西から南東方向に延びる。検出長約3.2ｍで、幅約40～44㎝と、ほぼ一定である。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がり、断面形は皿状である。底面幅は約20㎝、深さは約14㎝である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

17　ＳＤ1306溝跡（付図）

《位置・確認》 ＬＬ50グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《重複》 ＳＭ330に切られている。

《形状・規模》 北東から南西方向に延びる。検出長約4.4ｍで、幅約60～85㎝である。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。底面幅は20～30㎝、深さは８㎝ほどである。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

18　ＳＤ1307溝跡（付図）

《位置・確認》 ＬＡ・ＬＢ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 北にカーブし、検出長約7.4ｍ、幅約27～45㎝である。確認面だけを実測した。

19　ＳＤ1308溝跡（付図）

《位置・確認》 ＬＢ49グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 ＳＤ1307に沿って弧状にカーブする。検出長約4.4ｍで、幅25～27㎝である。確認面だけを実測した。

５　土　　坑

１　ＳＫ21土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＲ51グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は南東側でやや直線的となる不整な楕円形である。底面は長方形に近い。主軸方向はＷ－60°－Ｎを向く。規模は検出面80×64㎝、底面38×28㎝、深さ20㎝を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。断面形は皿状である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

２　ＳＫ33土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＳ53グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は不整形で、底面は楕円形である。長軸方向はＷ－３°－Ｎ。規模は検出面72×44㎝、底面36×18㎝、深さ22㎝を測る。底面は平坦で、壁の立ち上がりは北側で底面から急角度で立ち上がるが、途中で緩やかになる。断面形は擂鉢状である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

３　ＳＫ53土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＲ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は円形であるが、底面は北側が直線的になる不整形である。規模は検出面56×54㎝、底面34×30㎝、深さ16㎝を測る。底面は丸みを帯び、東側で底面と壁の境が不明瞭である。西側の壁は急角度で立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

４　ＳＫ57土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＴ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。主軸方向はＷ－21°－Ｎ。規模は検出面58×47㎝、底面40×32㎝、深さ14㎝を測る。底面は僅かに起伏がみられ、壁は急角度で立ち上がる。断面形は皿状である。

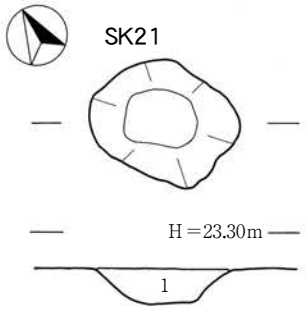
《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

５　ＳＫ66土坑（第29図）

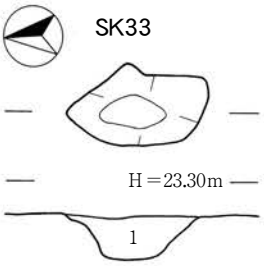
《位置・確認》　ＬＲ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は隅丸方形で、底面は細長い不整な長円形である。長軸方向はＷ－85°－Ｎ。規模は検出面92×70㎝、底面52×34㎝、深さ29㎝を測る。底面は平坦である。壁はやや丸みを帯びながら急角度で立ち上がる。

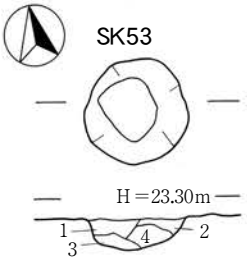
《出土遺物》　遺物は出土しなかった。



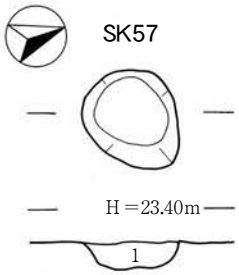
1．暗褐色土(10YR3/3)シルト、しまり中
粘性中、炭化物微量含む



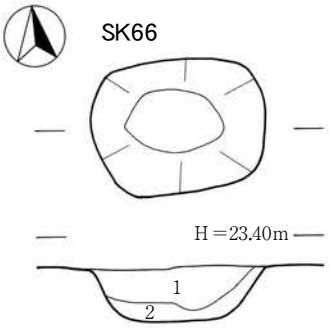
1．黒褐色土(10YR3/1)地山粒子少量含む



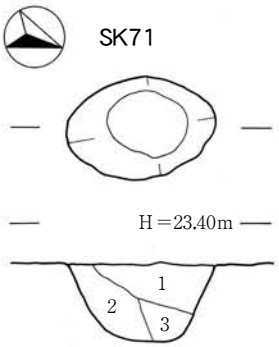
1．暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中
2．黒褐色土(10YR3/1)しまり強、地山粒子少量含む
3．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、地山粒子微量含む
4．褐色土(10YR4/4)しまり中、炭化物微量、砂含む



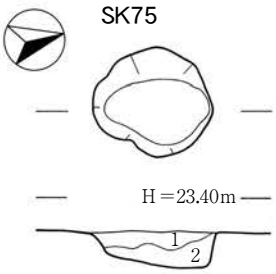
1．黒褐色土(10YR3/1)しまり中、粘性中
炭化物微量含む



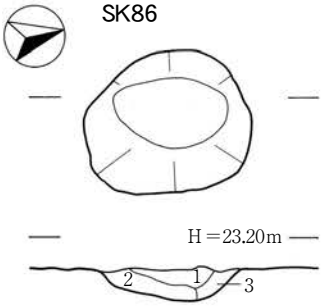
1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまりあり、粘性中
地山粒子・炭化物多量含む
2．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり中
粘性中、地山粒子多量、炭化物少量含む



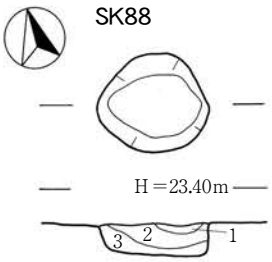
1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまりあり、粘性なし
地山粒子・炭化物少量含む
2．黒褐色土(10YR3/2)シルト、しまりなし、粘性あり
地山粒子・炭化物含む
3．暗褐色土(10YR3/3)シルト、しまりなし、粘性あり
地山粒子・炭化物少量含む
4．暗褐色土(10YR3/3)シルト、しまりなし、粘性あり
地山粒子・炭化物含む



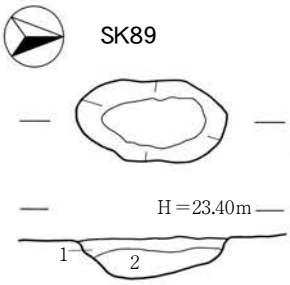
1．黒褐色土(10YR3/2)シルト、地山粒子・砂少量含む
2．暗褐色土(10YR3/4)地山粒子・炭化物少量含む



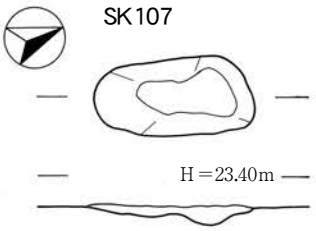
1．黒褐色土(10YR3/2)シルト
2．黒褐色土(10YR3/1)シルト、地山粒子・炭化物少量含む
3．黒褐色土(10YR2/3)シルト、地山粒子含む



1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、炭化物少量含む
2．にぶい黄褐色土(10YR4/3)シルト
3．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土



1．黒褐色土(10YR2/3)しまり中、砂少量含む
2．黒褐色土(10YR2/2)しまり中



1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまりあり、粘性なし
地山粒子・炭化物少量含む

第29図　ＳＫ21・33・53・57・66・71・75・86・88・89・107土坑

６　ＳＫ71土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＲ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－20°－Ｎを向く。規模は検出面77×54㎝、底面42×34㎝、深さ40㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁はやや急角度に立ち上がる。

７　ＳＫ75土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＳ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は不整な円形で、底面は細長い不整な楕円形である。長軸方向はＮ－22°－Ｅを向く。規模は検出面64×58㎝、底面56×34㎝、深さ19㎝を測る。断面形は箱状になっている。底面は南側から北側にかけて緩やかに傾斜し、やや起伏が見られる。壁はほぼ垂直に立ちあがる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

８　ＳＫ86土坑（第29図）

《位置・確認》　ＭＡ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状･規模》　検出面は方形に近い不整な楕円形で､底面は細長い長円形である。長軸方向はＷ－25°－Ｎ。規模は検出面90×78㎝、底面60×38㎝、深さ16㎝を測る。底面は南側から北側にかけて緩やかに傾斜している。壁はやや緩やかに立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

９　ＳＫ88土坑（第29図）

《位置・確認》　ＬＲ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に不整な楕円形である。長軸方向はＷ－76°－Ｎ。規模は検出面59×52㎝、底面49×42㎝、深さ18㎝を測る。底面は平坦で、壁は垂直に立ち上がる。断面形は箱状になっている。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

10　ＳＫ89土坑（第29図、図版11）

《位置・確認》　ＬＳ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に不整な長円形である。長軸方向はＮ－３°－Ｅ。規模は検出面80×43㎝、底面55×26㎝、深さ21㎝を測る。底面は北側から南側に緩やかに傾斜する。壁はやや急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

11　ＳＫ107土坑（第29図、図版11）

《位置・確認》　ＭＡ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は長円形で、底面はくびれた部分を持つ長円形である。長軸方向はＮ－24°－Ｅ。規模は検出面84×41㎝、底面51×25㎝、深さ10㎝を測る。底面はかなり凹凸があり、北東側から

南西側にかけて一段高くなっている。底面と壁の境は不明瞭である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

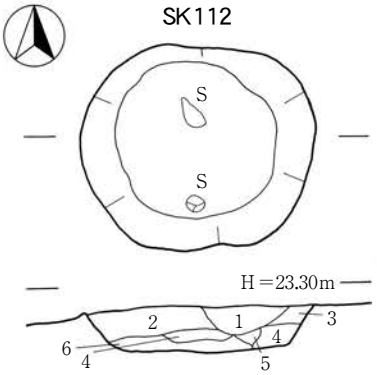
12　ＳＫ112土坑（第30図）
《位置・確認》 ＭＡ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に不整な円形である。規模は検出面122×108㎝、底面85×81㎝、深さ25㎝を測る。断面形は皿状である。底面は中心から東側にかけてやや高くなるが概ね平坦である。壁はやや急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

13　ＳＫ120土坑（第30図）
《位置・確認》 ＭＤ45グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は楕円形、底面は南側に窄まる部分を持つ不整な楕円形である。長軸方向はＷ－64°－Ｎ。規模は検出面74×52㎝、底面27×23㎝、深さ30㎝を測る。底面は丸みを帯びる。壁は急角度に立ち上がり、擂鉢状の断面形になる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

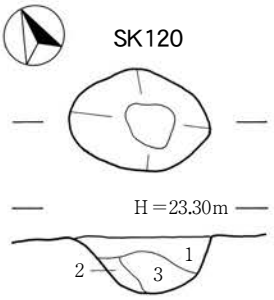
14　ＳＫ152土坑（第30図、図版12）
《位置・確認》 ＭＡ50・51グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は楕円形で、底面は不整な楕円形である。長軸方向はＷ－79°－Ｎを向く。規模は検出面205×168㎝、底面154×118㎝、深さ42㎝を測る。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

15　ＳＫ179土坑（第30図）
《位置・確認》 ＭＢ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－77°－Ｎ。規模は検出面85×78㎝、底面62×42㎝、深さ41㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。断面形はＵ字状である。

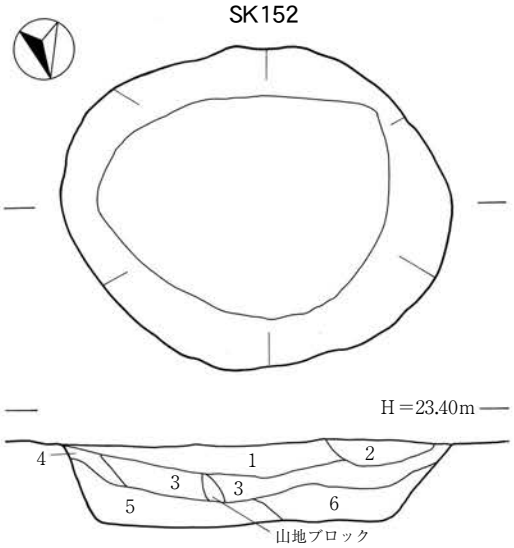
16　ＳＫ237土坑（第30図）
《位置・確認》 ＭＢ47・48グリッドにある。基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は北側にくびれがみられる不整な円形で、底面は不整な楕円形である。長軸方向はＮ－40°－Ｅ。規模は検出面65×57㎝、底面42×32㎝、深さ24㎝を測る。底面は凹凸がある部分があるが、それ以外はほぼ平坦である。壁は垂直に近い角度で立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



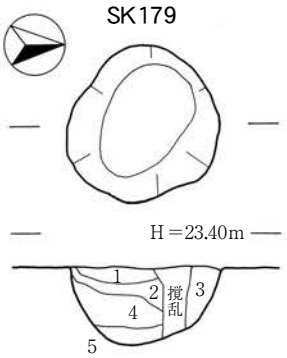
1．黒褐色土(10YR3/2)しまり中～高、粘性なし
2．黒褐色土(10YR3/1)しまり中、粘性中、砂少～中量含む
3．褐灰色土(10YR4/1)しまりなし、粘性中～強、地山粒子少量、砂微量含む
4．黒褐色土(10YR3/1)しまりなし、粘性中～強、地山粒子・砂微量含む
5．褐灰色土(10YR4/1)しまりなし、粘性中～強、地山粒子少量、砂微量含む
6．黒褐色土(10YR3/1)しまりなし、粘性強、地山粒子少～中量、砂微量含む



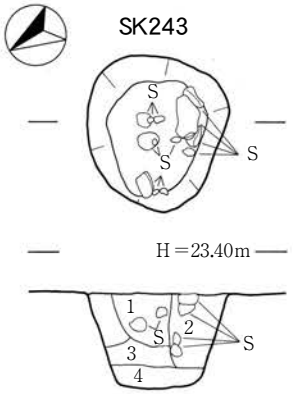
1．黒褐色土(10YR2/2)しまり強、粘性弱、地山粒子・炭化物少量含む
2．黒褐色土(10YR3/2)しまり強、粘性弱、地山粒子・炭化物少量含む
3．暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物微量含む



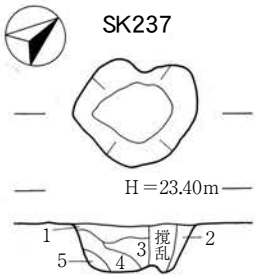
1．黒褐色土(7.5YR3/1)しまり弱、粘性中
2．黒褐色土(7.5YR2/2)しまり弱、粘性中
3．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中、炭化物少量含む
4．黒褐色土(10YR3/1)しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物微量含む
5．暗褐色土(10YR3/3)しまり強、粘性弱、地山粒子少量含む
6．褐灰色土(10YR4/1)しまり強、粘性弱、地山粒子含む



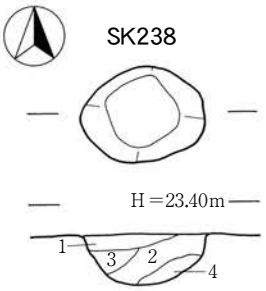
1．黒褐色土(10YR2/2)
2．黒褐色土(10YR3/1)炭化物少量含む
3．褐灰色土(10YR4/1)地山粒子・砂少量含む
4．暗褐色土(10YR3/4)地山粒子・砂含む
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)地山粒子・砂少量含む



1．黒褐色土(10YR2/3)地山粒子・炭化物・砂少量含む
2．黒褐色土(10YR3/2)地山粒子・炭化物・砂少量含む
3．暗褐色土(10YR3/4)地山粒子少量含む
4．にぶい黄褐色土(10YR4/3)地山粒子含む



1．黒色土(10YR2/1)しまり少～中、粘性中～高
　地山粒子・炭化物・砂微量含む
2．灰黄褐色土(10YR4/2)しまり中、粘性中
　炭化物・砂微量含む
3．黒褐色土(10YR3/1)しまり少、粘性強
　地山粒子・炭化物微量・砂含む
4．黒色土(10YR2/1)しまり少、粘性強、地山粒子
　・炭化物微量・砂微量含む
5．にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまり中、粘性中
　地山ブロック・炭化物微量、砂少量含む



1．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中、地山粒子
　・炭化物微～少量含む、砂質
2．灰黄褐色土(10YR4/2)しまり中～強、粘性中
3．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中
　炭化物微量含む
4．灰黄褐色土(10YR5/2)しまり中、粘性中
　地山ブロック・炭化物微量含む、砂質

第30図　ＳＫ112・120・152・179・237・238・243土坑

17　ＳＫ238土坑（第30図）

《位置・確認》　ＭＢ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は楕円形で、底面は隅丸方形である。長軸方向はＮ－88°－Ｅ。規模は検出面66×50㎝、底面40×38㎝、深さ27㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。断面形はＵ字状になっている。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

18　ＳＫ243土坑（第30図）

《位置・確認》　ＭＡ47・48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は不整な円形、底面は不整な楕円形である。規模は検出面85×77㎝、底面64×50㎝、深さ52㎝を測る。遺構上位から中位にかけて約５～30㎝大の礫13個を検出した。礫は遺構中央部付近を取り囲むように上位から中位にかけて重なって埋められていた。平面形や断面形状から建物跡の柱穴の可能性がある。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がっている。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

19　ＳＫ252土坑（第31図）

《位置・確認》　ＭＡ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は不整な楕円形で、底面は不整形である。長軸方向はＮ－９°－Ｅ。規模は検出面82×68㎝、底面44×42㎝、深さ25㎝を測る。底面は平坦である。壁はやや丸みを帯びながら急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　かわらけの小破片が１点出土した（第15図４）。

20　ＳＫ273土坑（第31図）

《位置・確認》　ＭＢ48・ＭＡ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に円形である。規模は検出面98×91㎝、底面80×79㎝、深さ６㎝の浅い土坑である。底面はほぼ平坦であるが、底面と壁の境は不明瞭である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

21　ＳＫ278土坑（第31図）

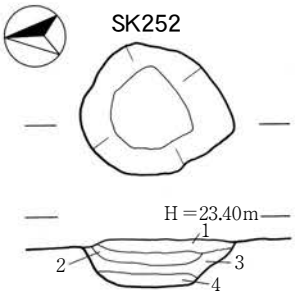
《位置・確認》　ＭＣ50・ＭＤ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に不整な円形である。規模は検出面104×102㎝、底面69×67㎝、深さ32㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がり、擂鉢状の断面形になる。

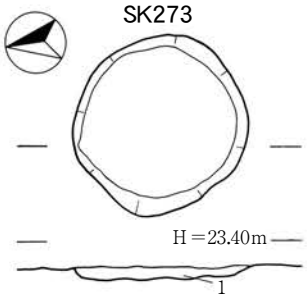
《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

22　ＳＫ307土坑（第31図）

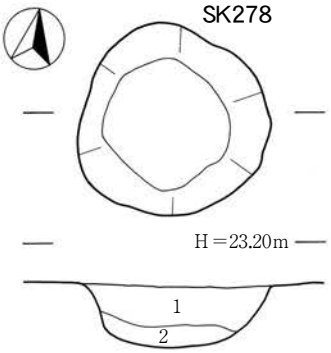
《位置・確認》　ＬＭ48グリッドに位置する。基本層位Ⅱａ層で炭化物交じりの黒褐色土の楕円形プランを確認した。



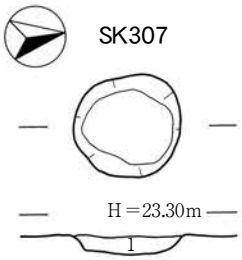
1．黒色土(10YR2/1)しまり中、粘性中、砂少量含む
2．黒褐色土(10YR2/2)しまり中、粘性中、砂少量含む
3．黒褐色土(10YR2/3)しまり中～強、粘性中～強
　地山粒子微量含む
4．黒褐色土(10YR3/2)しまりなし、粘性強
　砂・地山粒子含む



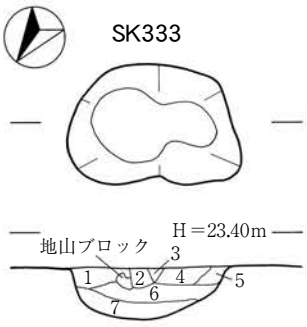
1．にぶい黄褐色土(10YR4/3)しまり強、粘性なし
　地山粒子・炭化物・砂少～中量含む



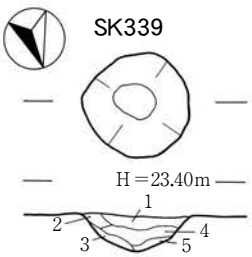
1．黒褐色土(10YR2/2)しまり中、粘性中、地山粒子
　・炭化物微量含む
2．黒褐色土(10YR3/2)しまり弱、粘性中、地山粒子含む



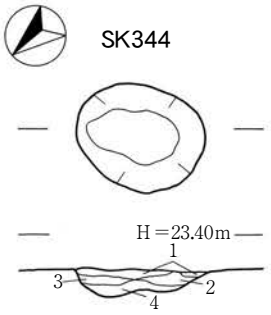
1．暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中



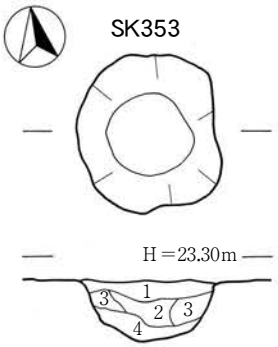
1．黒褐色土(10YR2/2)
2．黒褐色土(10YR3/1)地山粒子少量含む
3．黒色土(10YR2/1)炭化物少量含む
4．黒褐色土(10YR2/3)
5．黒色土(10YR2/1)炭化物少量含む
6．暗褐色土(10YR3/3)地山粒子・砂少量含む
7．にぶい黄褐色土(10YR4/3)地山粒子・砂少量含む



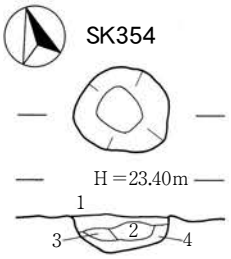
1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまり中、粘性中
　地山粒子・炭化物微量含む
2．黒色土(10YR2/1)シルト、しまり中、粘性少
　地山粒子多量、炭化物含む
3．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト～粘土、しまり中
　粘性中、地山粒子多量、炭化物含む
4．黒褐色土(10YR3/2)シルト～粘土、しまりなし
　粘性大、地山ブロック多量、炭化物微量含む
5．黒褐色土(10YR3/2)シルト～粘土、しまりなし
　粘性大、地山ブロック多量、炭化物含む



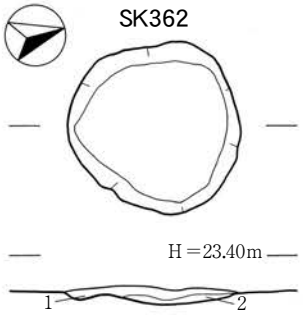
1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまりあり、粘性中
　地山粒子・砂少量含む
2．灰黄褐色土(10YR4/2)シルト、しまりあり、粘性少
　地山粒子・炭化物少量含む
3．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまりあり、粘性中
　地山粒子・砂少量含む
4．灰黄褐色土(10YR5/2)シルト、しまり中、粘性中
　地山ブロック



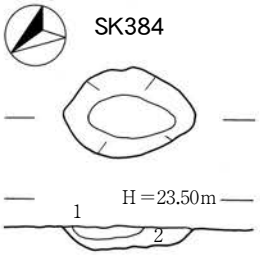
1．黒褐色土(10YR2/3)
2．暗褐色土(10YR3/3)地山粒子・砂少量含む
3．灰黄褐色土(10YR4/2)地山粒子・炭化物少量含む
4．褐色土(10YR4/4)地山粒子・砂含む



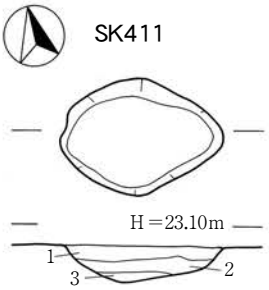
1．黒褐色土(10YR2/3)
2．黒褐色土(10YR2/3)
3．黒褐色土(10YR3/1)地山粒子・炭化物少量含む
4．暗褐色土(10YR3/4)地山粒子含む



1．暗褐色土(10YR3/4)しまり中、地山粒子多量含む
2．暗褐色土(10YR3/3)地山粒子多量含む



1．黒褐色土(10YR2/3)しまり強、地山粒子含む
2．暗褐色土(10YR3/3)しまり中、粘性中、地山粒子少量含む



1．暗褐色土(10YR3/3)
2．黒褐色土(10YR3/2)炭化物を少量含む
3．黒褐色土(10YR3/2)地山粒子・炭化物少量含む

第31図　ＳＫ252・273・278・307・333・339・344・353・354・362・384・411土坑

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。主軸方向はＷ－86°－Ｎを向く。規模は検出面56×54㎝、底面48×40㎝、深さ10㎝の浅い土坑を測る。底面は僅かに起伏がみられ、壁は緩やかに立ち上がる。
《堆積土》 黒褐色土で炭化物が少量混じり軟質である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

23　ＳＫ333土坑（第31図）
《位置・確認》 ＭＢ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は不整な楕円形で、底面はくびれをもつ不整形である。長軸方向はＮ－73°－Ｅ。規模は検出面92×66㎝、底面66×40㎝、深さ27㎝を測る。底面は丸みを帯び、南西側から北東側に緩やかに傾斜する。壁は北東側でやや丸みを帯びながら急角度に立ち上がり、南西側で始め緩やかに、途中で急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

24　ＳＫ339土坑（第31図）
《位置・確認》 ＭＡ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は円形で、底面は隅丸方形である。規模は検出面56×55㎝、底面22×17㎝、深さ18㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は擂鉢状になっている。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

25　ＳＫ344土坑（第31図）
《位置・確認》 ＭＡ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は楕円形で、底面は不整な楕円形である。長軸方向はＮ－43°－Ｅ。規模は検出面68×56㎝、底面49×28㎝、深さ15㎝を測る。底面は起伏があり、壁は緩やかに立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

26　ＳＫ353土坑（第31図）
《位置・確認》 ＭＢ47・ＭＣ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は方形に近い不整な楕円形で、底面は楕円形である。長軸方向はＷ－29°－Ｎ。規模は検出面86×80㎝、底面44×42㎝、深さ32㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。断面形はＵ字状である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

27　ＳＫ354土坑（第31図）
《位置・確認》 ＭＣ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面はほぼ円形で、底面はやや不正な方形である。規模は検出面50×48㎝、底面25×24㎝、深さ20㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

28　ＳＫ362土坑（第31図）

《位置・確認》 ＭＡ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に不整な円形である。規模は検出面92×91㎝、底面82×75㎝、深さ10㎝を測る。底面は起伏に富み、底面と壁の境が不明瞭である。土坑上位は削平された可能性がある。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

29　ＳＫ384土坑（第31図）

《位置・確認》 ＬＮ54グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－36°－Ｅ。規模は検出面69×46㎝、底面46×22㎝、深さ12㎝を測る。底面は南西側に緩やかに傾斜し、壁は緩やかに立ち上がる。

《形状・規模》 検出面はほぼ円形で、底面はやや不整な方形である。規模は検出面50×48㎝、底面25×24㎝、深さ20㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁はほぼ垂直に立ち上がる。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

30　ＳＫ411土坑（第31図）

《位置・確認》 ＭＤ52グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に不整な楕円形である。長軸方向はＷ－75°－Ｎ。規模は検出面87×62㎝、底面77×48㎝、深さ18㎝を測る。底面は丸みを帯びる。壁は始め緩やかに、途中で急角度に立ち上がる。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

31　ＳＫ412土坑（第32図）

《位置・確認》 ＭＥ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－60°－Ｎ。規模は検出面67×54㎝、底面57×42㎝、深さ10㎝を測る。底面は起伏が見られ、僅かに丸みを帯びる。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はⅢ状である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

32　ＳＫ432土坑（第32図）

《位置・確認》 ＭＩ49・50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－89°－Ｎ。規模は検出面106×97㎝、底面99×88㎝、深さ11㎝を測る。底面は僅かに凹凸が西側で見られるが、ほぼ平坦である。壁はやや急角度に立ち上がり、断面形はⅢ状である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

33　ＳＫ435土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＦ50・ＭＧ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は円形で、底面は楕円形である。規模は検出面52×47㎝、底面36×32㎝、深さ27㎝を測る。底面は平坦で、壁は急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

34　ＳＫ452土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＬ48・ＭＭ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－10°－Ｎ。規模は検出面90×78㎝、底面78×62㎝、深さ20㎝を測る。底面は平坦であるが壁際でやや高くなる。壁は急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

35　ＳＫ457土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＧ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－88°－Ｅ。規模は検出面65×42㎝、底面59×30㎝、深さ14㎝を測る。底面は起伏が見られ、僅かに丸みを帯びる。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

36　ＳＫ473土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＯ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－52°－Ｅ。規模は検出面66×50㎝、底面48×34㎝、深さ12㎝を測る。断面形は擂鉢状に近い形になる。底面はやや凹凸がみられ、壁から緩やかに最深部に向けて傾斜する。底面と壁の境は不明瞭である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

37　ＳＫ474土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＬ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

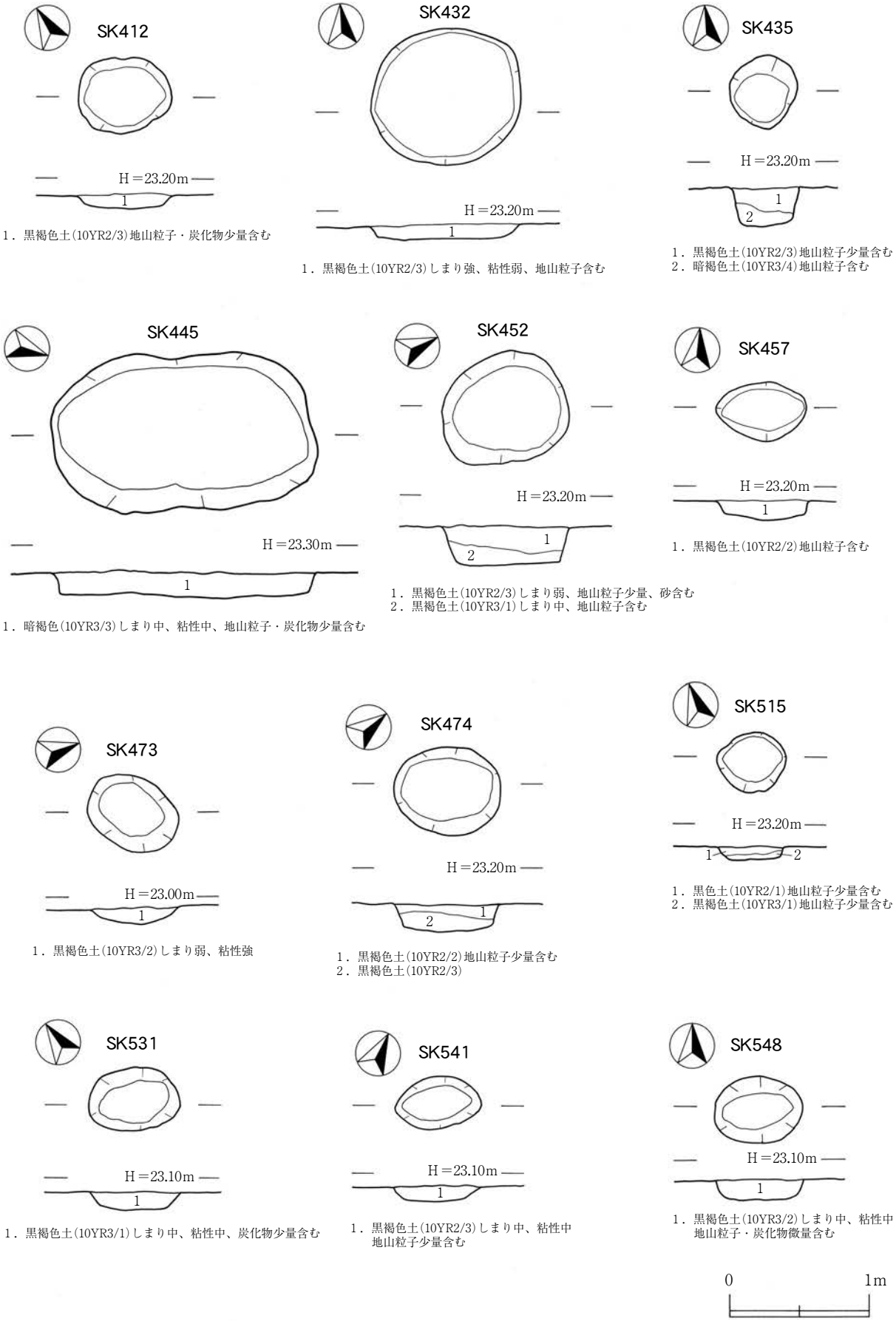
《形状・規模》　検出面は楕円形、底面は不整な方形である。長軸方向はＮ－38°－Ｅ。規模は検出面76×64㎝、底面64×44㎝、深さ20㎝を測る。底面は僅かに丸みを帯び、壁は急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

38　ＳＫ515土坑（第32図）

《位置・確認》　ＭＫ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は円形、底面は不整な円形である。規模は検出面50×42㎝、底面42×32㎝、深さ10㎝を測る。底面はやや東側に段差がみられるが、ほぼ平坦である。壁は東側で垂直に、西側で急角度に立ち上がる。



第32図　ＳＫ412・432・435・445・452・457・473・474・515・531・541・548土坑

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

39　ＳＫ531土坑（第32図）

《位置・確認》 MM47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－57°－Ｎを向く。規模は検出面64×44㎝、底面52×29㎝、深さ13㎝を測る。底面は平坦で、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

40　ＳＫ541土坑（第32図）

《位置・確認》 MM47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－66°－Ｅを向く。規模は検出面62×38㎝、底面48×24㎝、深さ12㎝を測る。底面はやや丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。断面形は皿状である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

41　ＳＫ548土坑（第32図）

《位置・確認》 ＭＰ47・48グリッド位置にする。基本層位Ⅱａ層で炭化物交じりの黒褐色土の楕円形プランを確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－42°－Ｎ。規模は検出面63×48㎝、底面52×26㎝、深さ15㎝を測る。底面は僅かに凹凸がみられるが、ほぼ平坦である。壁は急角度で立ち上がる。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

42　ＳＫ603土坑（第33図）

《位置・確認》 MM47グリッドに位置する。基本層位Ⅱａ層で炭化物交じりの黒褐色土の楕円形プランを確認した。

《形状・規模》 検出面は楕円形、底面は南側に窄まる部分を持つ不整な楕円形である。主軸方向はＷ－33°－Ｎを向く。規模は検出面82×72㎝、底面74×60㎝、深さ９㎝を測る。底面はほぼ平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。浅い土坑であり、上面が削平されたものと思われる。

《堆積土》 黒褐色土で軟質である。

《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

43　ＳＫ613土坑（第33図）

《位置・確認》 ＭＫ47グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に東側が幅のある不整な楕円形である。主軸方向はＮ－88°－Ｅを向く。規模は検出面78×59㎝、底面70×47㎝、深さ７㎝の浅い土坑である。上面は大部分が削平された

ものと思われる。底面はほぼ平坦であり、壁と底面の境が不明瞭である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

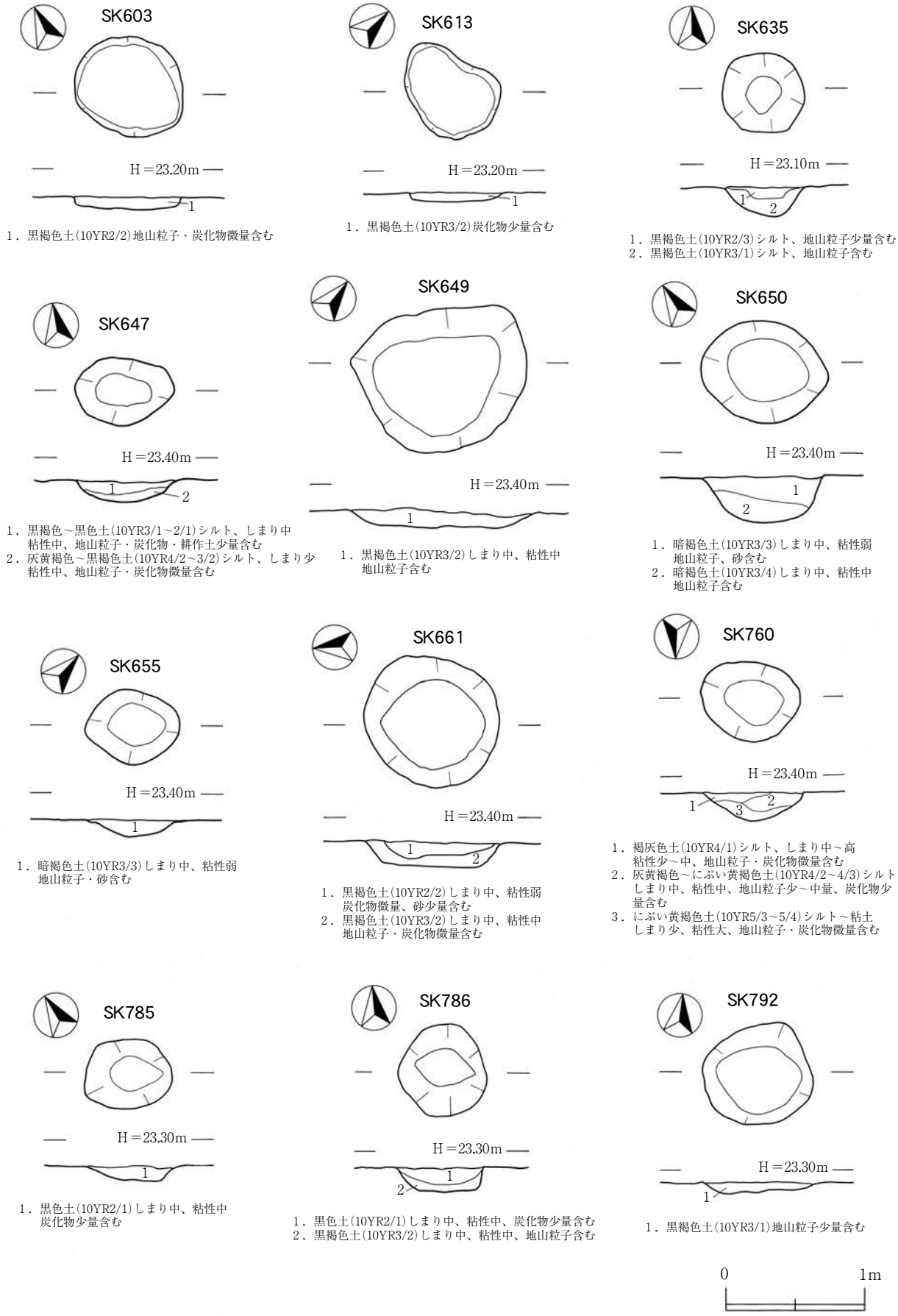
44　ＳＫ635土坑（第33図）
《位置・確認》 ＭＯ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は円形、底面は不整な円形である。規模は検出面58×57㎝、底面29×26㎝、深さ22㎝を測る。底面は西側がやや段差があり、丸みを帯びる。壁は急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

45　ＳＫ647土坑（第33図）
《位置・確認》 ＭＡ52グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面は楕円形で、底面は不整な楕円形である。長軸方向はＷ－80°－Ｎ。規模は検出面71×49㎝、底面40×23㎝、深さ15㎝を測る。底面は丸みを帯び、壁は緩やかに立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

46　ＳＫ649土坑（第33図）
《位置・確認》 ＭＢ51・52グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面･底面共に不整形である。長軸方向はＮ－56°－Ｅ。規模は検出面126×104㎝、底面90×70㎝、深さ12㎝の浅い土坑である。底面は南西で緩やかに傾斜する。底面と壁の境が不明瞭である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

47　ＳＫ650土坑（第33図）
《位置・確認》 ＭＢ50・51グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－51°－Ｎ。規模は検出面92×73㎝、底面58×47㎝、深さ32㎝を測る。底面はやや丸みを帯びる。壁は丸みを帯びながら急角度に立ち上がる。断面形は椀状になる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

48　ＳＫ655土坑（第33図）
《位置・確認》 ＭＢ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－56°－Ｅ。規模は検出面68×54㎝、底面42×30㎝、深さ12㎝を測る。断面形は擂鉢状であり、底面と壁の境が不明瞭である。壁は緩やかに立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。



第33図　ＳＫ603・613・635・647・649・650・655・661・760・785・786・792土坑

49　ＳＫ661土坑（第33図、図版12）

《位置・確認》　ＭＢ49・ＭＣ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－４°－Ｎ。規模は検出面100×94㎝、底面74×64㎝、深さ18㎝を測る。底面は平坦である。壁は北側でやや緩やかに、南側で急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

50　ＳＫ760土坑（第33図）

《位置・確認》　ＭＡ51・ＭＢグリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に方形に近い不整な楕円形である。長軸方向はＮ－89°－Ｅ。規模は検出面72×57㎝、底面42×32㎝、深さ21㎝を測る。底面は丸みを帯びる。壁は緩やかに立ち上がり、断面形はす擂鉢状である。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

51　ＳＫ785土坑（第33図）

《位置・確認》　ＭＤ49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は楕円形で、底面は不整な楕円形である。長軸方向はＷ－79°－Ｎを向く。規模は検出面64×50㎝、底面38×25㎝、深さ11㎝を測る。底面は平坦である。壁は北西側で緩やかに、南東側で急角度に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

52　ＳＫ786土坑（第33図）

《位置・確認》　ＭＢ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－19°－Ｅ。規模は検出面66×64㎝、底面44×29㎝、深さ18㎝を測る。底面はほぼ平坦である。壁は西側で急角度に、東側でほぼ垂直に立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

53　ＳＫ792土坑（第33図）

《位置・確認》　ＭＡ・ＭＢ51グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面は不整な円形、底面は不整な楕円形である。規模は検出面78×72㎝、底面62×49㎝、深さ８㎝を測る。浅い土坑であり、上面が削平されたものと思われる。底面はやや凹凸があり、壁は緩やかに立ち上がる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

54　ＳＫ793土坑（第34図）

《位置・確認》　ＭＡ51・52グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》 検出面・底面共に不整な隅丸方形である。長軸方向はＷ－88°－Ｎを向く。規模は検出面85×68㎝、底面60×32㎝、深さ16㎝を測る。底面はやや凹凸があるが、ほぼ平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

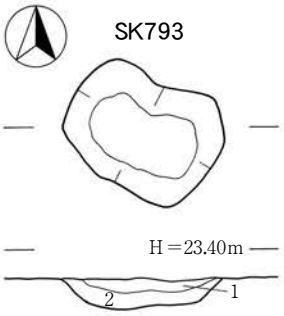
55　ＳＫ794土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＣ49グリッドに位置する。基本層位Ⅱａ層で炭化物交じりの黒褐色土の楕円形プランを確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に不整な楕円形である。主軸方向はＮ－30°－Ｅを向く。規模は検出面137×89㎝、底面88×58㎝、深さ25㎝を測る底面は中心から北側にかけてやや高くなるが、概ね平坦である。壁は緩やかに立ち上がり、断面形は皿状である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

56　ＳＫ795土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＣ48・49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＮ－63°－Ｅ。規模は検出面114×75㎝、底面60×34㎝、深さ18㎝を測る。底面は丸みを帯び、中心部から緩やかに立ち上がる。底面と壁の境が不明瞭である。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

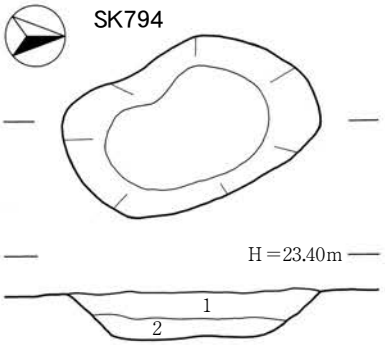
57　ＳＫ808土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＣ48・ＭＤ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面はやや不整な楕円形で、底面は不整な方形である。長軸方向はＮ－27°－Ｅを向く。規模は検出面116×94㎝、底面74×62㎝、深さ20㎝を測る。断面形は皿状である。底面は南西側でやや高くなり、北西側に向かって平坦になる。壁は緩やかに立ち上がる。底面から大きさ約８㎝の礫が単独で出土した。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

58　ＳＫ820土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＬ46グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》　検出面･底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－86°－Ｎを向く。規模は検出面82×72㎝、底面74×62㎝、深さ14㎝を測る。底面はほぼ平坦であり、壁はほぼ垂直に立ち上がる。浅い土坑であり、上面が削平されたものと思われる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

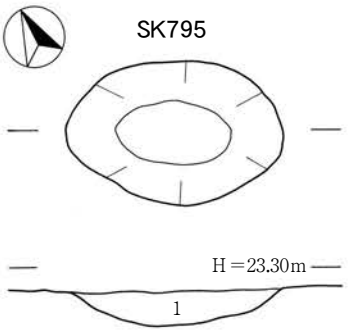
59　ＳＫ863土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＦ48グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。



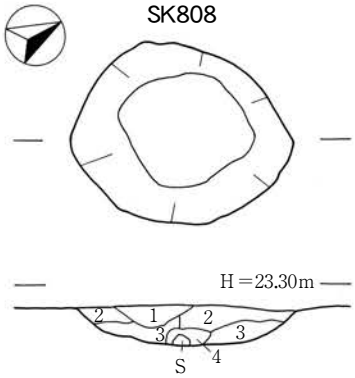
1．黒褐色土(10YR3/1)シルト、しまり中、粘性中
　地山粒子中～多量、炭化物含む
2．灰黄褐色～にぶい黄褐色土(10YR4/2～4/3)シルト
　しまり中、粘性中、地山粒子・炭化物少量含む



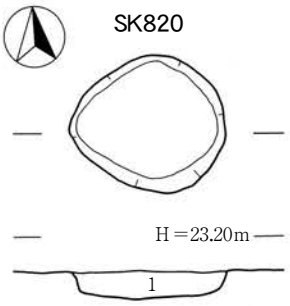
1．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性強
2．黒褐色土(10YR2/3)しまり中、粘性強、炭化物微量含む



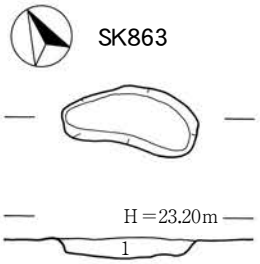
1．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中
　炭化物少量含む



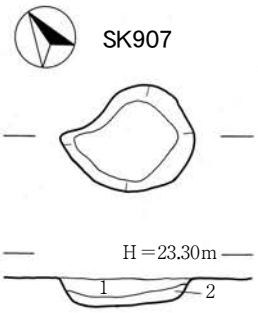
1．黒褐色土(10YR3/1)しまり中、粘性弱、砂少量含む
2．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中、地山粒子含む
3．黒褐色土(10YR3/2)しまり中、粘性中
4．黒褐色土(10YR2/2)しまり中、粘性中



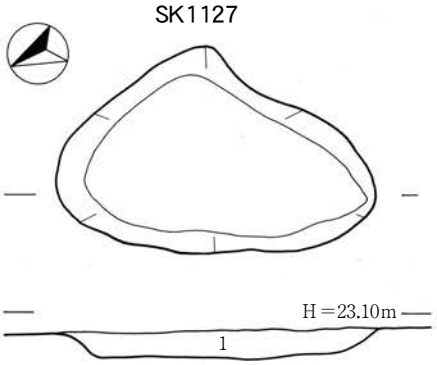
1．黒色土(10YR2/1)しまり中、粘性弱、地山粒子含む



1．灰黄褐色土(10YR4/2)しまり中、粘性中
　地山粒子・炭化物微量含む



1．黒褐色土(10YR3/1)しまり弱、粘性中
2．暗褐色土(10YR3/4)しまり中、粘性中
　地山粒子少量含む



1．黒褐色土(10YR2/2)しまり中、粘性弱、地山粒子・砂含む

第34図　ＳＫ793～795・808・820・863・907・1127土坑

《形状・規模》 検出面・底面共に不整な楕円形である。長軸方向はＷ－63°－Ｎを向く。規模は検出面72×33㎝、底面67×22㎝、深さ11㎝を測る。底面には起伏が見られ、壁は急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

60　ＳＫ907土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＡ51グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に不整な楕円形である。長軸方向はＷ－53°－Ｎ。規模は検出面72×56㎝、底面54×42㎝、深さ15㎝を測る。底面はほぼ平坦で、壁は急角度に立ち上がる。
《出土遺物》 遺物は出土しなかった。

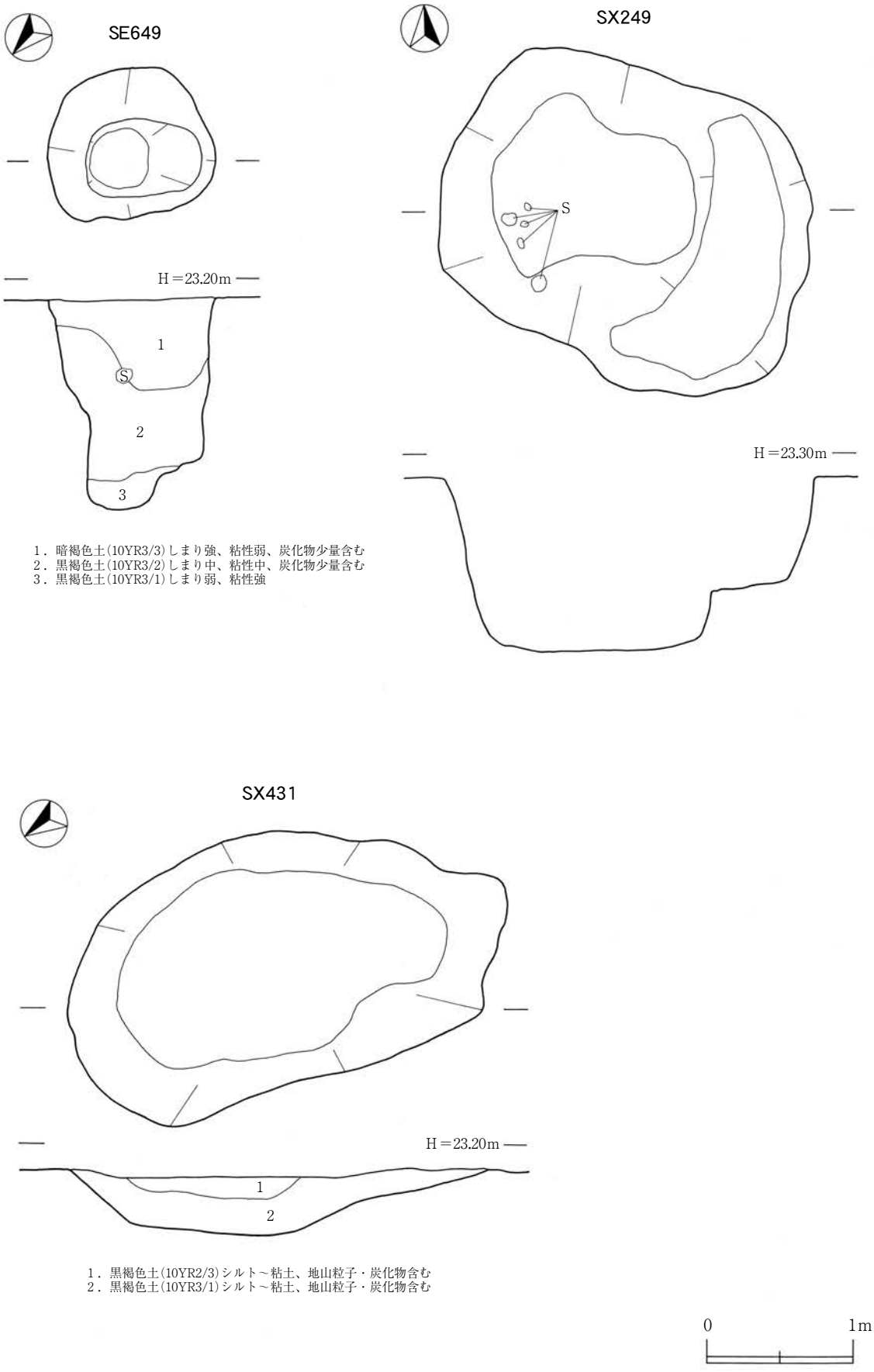
61　ＳＫ1127土坑（第34図）
《位置・確認》 ＭＫ46グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状・規模》 検出面・底面共に不整な長円形であり、南東側が広がる形になっている。長軸方向はＷ－20°－Ｎ。規模は検出面168×110㎝、底面150×84㎝、深さ16㎝を測る。底面はやや起伏が見られるが、ほぼ平坦である。壁は南側で丸みを帯びながら緩やかに、北側でやや急角度に立ち上がっていた。

6　井戸跡

１　ＳＥ649井戸跡（第35図）
《位置・確認》 調査区中央部西側ＭＢ51・52グリッドに位ある。初め調査区西部の壁断面で確認し、調査区西部と中央部の境にある水路部分表土除去後、基本層位Ⅱａ層で楕円形プランを確認した。南東側に隣接してＳＢ01掘立柱建物跡が位置する。
《形状・規模》 検出面は不整な楕円形形で、底面は不整な円形である。規模は検出面114×102㎝、底面40×40㎝、深さ142㎝である。底面には丸みがある。一段高い部分が南西部に認められ、壁はほぼ垂直に立ち上がる。
《出土遺物》 大きさ約10㎝の円礫が中位付近から出土した。

7　性格不明遺構

１　ＳＸ249性格不明遺構（第35図）
《位置・確認》 ＭＢ48・49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。
《形状･規模》 検出面は楕円形で、底面は不整形である。長軸方向はＷ－70°－Ｎ。規模は検出面258×210㎝、底面143×126㎝、深さ118㎝を測る。東側で段状に一段浅い部分がある。形状は弧状の長円形で、規模は182×68㎝である。底面はほぼ平坦で、壁はやや起伏がありながら、ほぼ垂直に立ち上がる。ＳＢ01など周りに遺構が密集した地域に検出した。
《出土遺物》 土錘が覆土中位～下位にかけて９個出土した（第15図５～13）。また、細かく破砕された須恵器系中世陶器の破片が７点出土し、それらの１片はＳＢ01掘立柱建物跡西部のＭＢ51グリッドから出土した破片と接合した。



第35図　ＳＥ649井戸跡、ＳＸ249･431性格不明遺構

２　ＳＸ431性格不明遺構（第35図）

《位置・確認》　ＭＪ50・ＭＫ50グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《形状・規模》　検出面・底面共に不整な楕円形である。長軸方向はＮ－35°－Ｅを向く。規模は検出面314×170㎝、底面231×130㎝、深さ39㎝を測る。底面は北東側から南西側にかけて緩やかに傾斜している。壁は北東側でやや急角度に、南西側で始めやや急角度に、途中で緩やかになる。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。

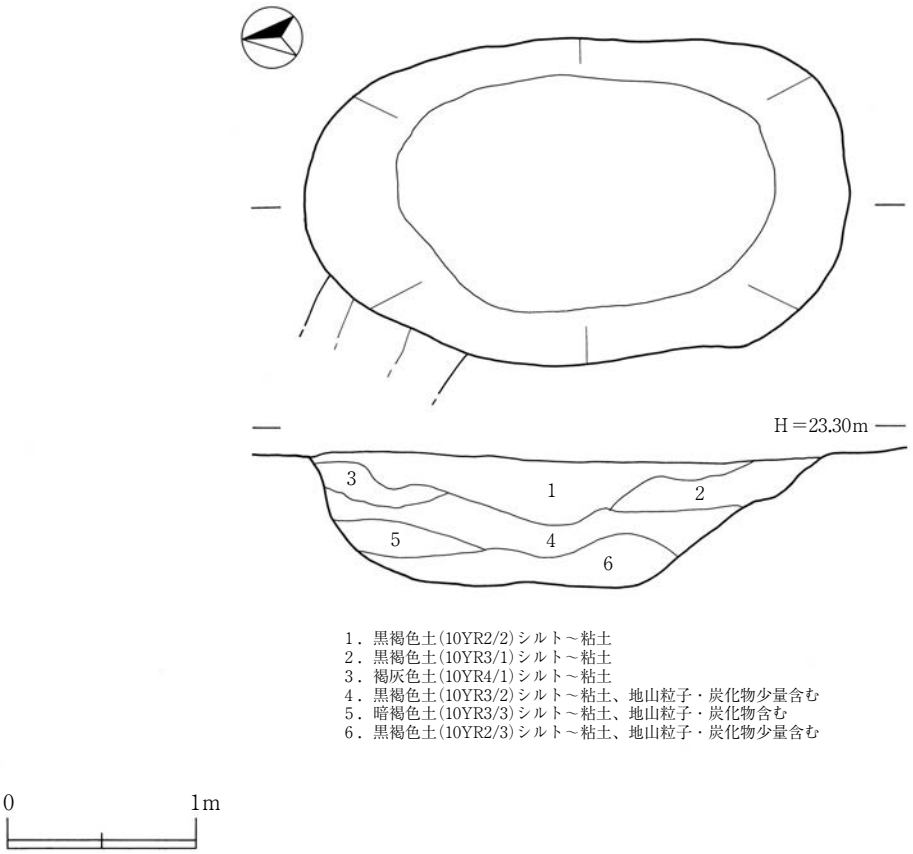
３　ＳＸ668性格不明遺構（第36図）

《位置・確認》　ＭＣ48・49グリッドにあり、基本層位Ⅱａ層で確認した。

《重複》　西側でＳＤ798と重複し、覆土観察から本遺構が新しい。

《形状・規模》　検出面・底面共に楕円形である。長軸方向はＷ－2°－Ｎ。規模は検出面288×172㎝、底面200×120㎝、深さ69㎝を測る。底面はやや凹凸があり、中心付近は堅く締まる。また、炭化した木材片が少数出土した。壁は北側で丸みを帯びながら急角度に、南側で始めやや緩やかに、途中で平坦になって、また緩やかに立ち上がる。ＳＢ01など周りに遺構が密集した地域に検出した。

《出土遺物》　遺物は出土しなかった。



第36図　ＳＸ668性格不明遺構

第37図　柱穴様ピット分布図

８　柱穴様ピット

掘立柱建物跡を構成する明確な柱穴や、カマド状遺構に伴うと推定される柱穴のほか、それらには伴わずに単独で存在する柱穴状のピットを柱穴様ピットとして記録した（第37図、第１～５表）。

第３節　遺構外出土遺物

１　縄文時代の遺物

（１）土器（第38～41図、図版16・17）

Ⅰ群：縄文時代後期の土器（１）

ごく少数であるが縄文時代後期の土器が出土した。外傾する胴部から口頸部が内湾する深鉢形土器で口縁部は大きな波状をなす。口縁部と体部に太く横位の平行沈線文を描き、沈線は短い弧線で上下に連結される。また、この部位のみに縄文が施される。

Ⅱ群：縄文時代晩期の土器

１類：わずかに膨らむ体部部から口頸部が緩やかに外反する深鉢形土器で、口縁部は波状をなす。体部の上半に３段にわたる入組文と、その上部に横長の列点が施される。口縁の波頂部から口縁形状に沿って弧線を描く（２）。

２類：口縁部に羊歯状文が施されるもので、体部に雲形文が描かれるものがある（３～６）。小形の深鉢形土器で、頸部が括れて口縁部がわずかに外反するもの（３）と、体部から括れずに内湾するもの（４～６）とがある。

３類：口縁部に平行沈線文、列点文が施されるもの（７～９）。７は頸部が内傾し、直立する口縁部から口唇部が強く外反する。８は体部が２類と同様に内湾する。９は内傾する体部から口頸部が直立する。いずれも深鉢形土器である。

４類：羊歯状文はなく、体部に雲形文が施されるもの（10～12）。10･11は同一個体で、注口土器の上部と思われる。12は浅鉢形土器である。

５類：大きく膨らむ体部をもち、口頸部が直立する壺形土器である（13）。体部は丁寧に磨かれ、口頸部には三角形や工字文風となる沈線文が施される。

Ⅲ群：縄文あるいは無文の土器（14～17、18～20）

14～16・19は深鉢形土器、17は体部が丸く膨らむ壺形土器と思われる。

Ⅳ群：弥生時代の土器

鉢形土器で、少し張り出す体部から、頸部が内傾し、口縁部が外反する。口頸部と体部の上部に平行沈線文と鋸歯文が描かれる（21）。

（２）**石器**（第42～44図、図版17～19）

石鏃　形態から４類に分類される。１類：凹基無茎形（22）、２類：凸基有茎形（23～27）、３類：柳葉形（28・29）

石匙　つまみ部を有し、縦型の石匙である（30～32）。

第１表　柱穴様ピット観察表（１）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)	ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)
1	ＬＲ54	円形	13	12	16	23.072	195	ＬＬ49	楕円形	47	36	34	22.865
3	ＬＲ54	楕円形	28	22	21	23.001	210	ＬＬ49	円形	22	21	21	23.066
10	ＬＳ53	円形	22	20	20	22.930	211	ＬＬ49	不整な楕円形	28	22	20	23.065
14	ＬＳ52	円形	24	22	17	22.956	212	ＬＬ49	円形	27	26	24	23.024
16	ＬＳ52	楕円形	30	26	20	22.936	213	ＬＱ48	楕円形	20	17	23	22.910
17	ＬＳ52	方形	34	32	26	22.838	214	ＬＱ48	円形	22	21	21	22.936
18	ＬＳ52	円形	29	26	13	22.956	216	ＬＲ48	楕円形	21	16	15	23.035
20	ＬＳ51	楕円形	28	26	17	22.991	217	ＬＲ48	円形	22	20	18	23.025
26	ＬＴ51	不整な楕円形	25	24	26	22.817	218	ＬＲ48	楕円形	28	18	10	23.098
28	LS50･LT51	楕円形	74	66	40	23.900	234	ＭＢ48	円形	30	28	14	23.022
31	ＬＳ50	円形	24	23	36	22.812	235	ＭＢ48	楕円形	56	51	11	23.103
45	ＬＱ51	不整な楕円形	49	38	14	22.958	244	ＬＴ52	方形	35	34	24	23.020
54	ＬＲ49	楕円形	27	20	19	22.956	245	ＬＴ52	楕円形	30	27	26	23.025
55	ＬＲ50	楕円形	29	22	36	22.804	246	ＬＴ52	不整な楕円形	36	30	33	22.964
64	ＬＳ49	楕円形	34	26	39	22.778	248	ＬＳ53	円形	24	22	29	22.937
70	ＬＲ50	楕円形	27	18	14	22.964	257	ＬＭ54	楕円形	44	37	21	23.118
72A	ＬＳ48	楕円形	25	26	16	23.062	259	ＭＡ49	楕円形	28	26	34	23.869
72B	ＬＳ49	楕円形	34	26	24	22.894	263	ＭＢ46	楕円形	34	29	25	22.912
73	ＬＳ50	円形	40	37	14	23.032	267	ＬＳ53	楕円形	26	24	25	22.982
76	ＬＳ48	楕円形	38	32	13	23.090	268	ＬＳ53	円形	24	22	29	22.946
80A	ＬＴ49	楕円形	27	26	23	22.978	269	ＬＳ53	楕円形	28	24	27	22.947
80B	ＬＴ49	不整な楕円形	33	30	28	22.962	270	ＬＴ52	方形	30	27	32	22.950
82	ＬＴ49	楕円形	30	22	29	22.952	272	ＬＴ52	楕円形	28	24	21	23.031
91	ＬＲ48	円形	24	19	19	23.028	276	ＭＨ52	不整な楕円形	50	38	16	22.800
92	ＬＳ48	楕円形	26	22	20	23.026	278	ＭＮ48	楕円形	53	34	46	22.566
93	ＬＳ48	円形	22	21	21	22.996	280	ＭＧ49	不整な楕円形	26	28	16	22.911
94A	ＬＳ48	（楕円形）	(20)	18	33	22.894	281	ＭＧ49	円形	36	32	24	22.847
94B	ＬＳ48	（楕円形）	(24)	22	31	22.892	287	ＭＮ48	楕円形	27	22	18	22.728
111	ＭＡ49	楕円形	31	28	54	23.668	299	ＭＮ48	円形	25	22	23	22.778
113	ＬＴ48	楕円形	23	18	20	23.020	334A	ＭＢ48	円形	23	22	8	23.120
116	ＬＲ47	不整な楕円形	28	20	26	22.928	334B	ＭＢ48	楕円形	24	20	6	13.160
117	ＬＳ48	楕円形	28	23	15	23.100	337	ＬＦ53	楕円形	41	36	45	22.814
122	ＬＲ48	円形	22	21	47	22.756	341	ＭＢ47	楕円形	48	45	36	22.862
127	ＬＲ49	楕円形	24	20	13	23.002	342	ＭＢ47	円形	43	42	12	23.096
128	ＬＲ49	円形	38	37	51	22.625	343	ＭＡ47	円形	36	34	15	23.070
133	ＬＴ49	楕円形	26	16	34	22.904	345	ＭＢ47	楕円形	42	36	23	22.970
134	ＬＳ49	楕円形	53	40	40	23.800	346	ＭＡ47	楕円形	34	25	11	23.095
137	ＬＲ48	楕円形	37	24	14	23.038	347	ＭＡ46	不整な楕円形	39	31	14	23.086
140	ＬＴ48	楕円形	23	20	14	23.090	348	ＭＡ47	楕円形	37	34	24	22.954
142	ＬＴ48	不整な楕円形	30	22	22	23.036	351	ＬＴ47	楕円形	41	38	19	23.032
145	ＬＳ49	楕円形	30	24	34	22.866	356	ＭＣ46	方形	43	39	9	23.064
155	ＬＴ51	円形	22	20	17	22.942	357	ＭＣ46	不整な楕円形	32	27	29	22.860
160	ＭＡ50	楕円形	54	40	48	23.781	358	ＭＣ47	楕円形	20	17	11	23.072
163	ＬＴ46	円形	18	17	12	23.147	360	ＭＣ46	楕円形	28	24	28	23.005
164	ＬＴ46	楕円形	42	36	11	23.122	363	ＭＣ46	円形	24	22	21	22.918
165	ＭＡ46	円形	35	34	40	22.872	365	ＬＪ53	円形	40	35	16	22.918
166	ＭＡ46	楕円形	28	26	34	23.036	366	ＬＥ53	楕円形	32	27	40	22.837
176	ＬＴ51	不整な楕円形	26	19	24	23.070	368	ＬＴ48	楕円形	37	27	21	22.998
184	ＬＰ46	楕円形	30	26	21	22.994	369	ＭＡ48	楕円形	34	26	28	22.912
194	ＬＬ49	円形	51	50	25	23.025	370	ＬＴ48	楕円形	29	27	24	23.002

第２表　柱穴様ピット観察表（２）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)	ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)
380	ＬＥ53	楕円形	48	38	23	23.102	527	ＭＬ48	楕円形	19	18	35	22.636
383	ＬＦ53	楕円形	46	41	41	22.725	535	ＭＬ50	楕円形	18	17	25	22.789
386	ＭＣ48	楕円形	36	35	19	23.030	536	ＭＫ50	円形	19	14	19	22.890
388	ＬＴ50	楕円形	47	32	31	22.858	537	ＭＬ50	楕円形	25	22	27	22.755
391	ＭＢ48	楕円形	55	46	25	22.980	538A	ＭＬ50	(楕円形)	(18)	17	19	22.848
393	ＬＥ53	楕円形	28	20	23	23.110	538B	ＭＬ50	(楕円形)	(20)	15	18	22.840
394	ＬＳ53	円形	28	27	30	22.920	542	ＭＮ47	不整な楕円形	46	37	5	22.945
400	ＬＴ53	楕円形	28	27	30	22.906	549	ＭＫ51	楕円形	21	19	21	22.905
401	ＬＴ53	円形	30	29	30	22.900	550	ＭＫ51	楕円形	20	18	21	22.863
402	ＬＴ53	方形	34	26	27	23.028	551	ＭＭ47	楕円形	31	24	11	22.904
404	ＭＢ47	方形	32	31	9	23.088	575	ＭＭ47	不整な楕円形	46	36	11	22.875
406	ＭＡ48	楕円形	30	28	12	23.118	558	ＭＫ50	楕円形	42	28	4	23.005
407	ＬＴ48	楕円形	28	25	5	23.172	560	ＭＩ49	円形	26	20	19	22.816
416	ＭＪ47	楕円形	54	18	13	22.953	567	ＭＬ47	楕円形	54	36	9	22.928
421	ＭＯ48	不整な楕円形	28	20	8	22.938	568	ＭＭ47	楕円形	52	40	22	22.807
422	ＭＯ48	円形	20	18	13	22.896	570	ＭＭ47	楕円形	30	24	20	22.802
438	ＭＩ49	楕円形	49	37	26	22.840	571	ＭＭ47	楕円形	42	30	12	22.897
439	ＭＩ50	楕円形	49	39	18	22.918	574	ＭＭ47	楕円形	32	28	23	22.785
440	ＭＪ50	不整な楕円形	46	34	10	22.993	583	ＭＰ48	楕円形	29	28	23	22.791
441	ＭＫ50	楕円形	49	30	46	22.632	584	ＭＭ49	円形	20	19	24	22.750
443	ＭＩ50	円形	40	40	6	22.024	586A	ＭＯ48	楕円形	18	12	19	22.899
449	ＭＫ50	楕円形	29	18	5	23.020	586B	ＭＯ48	円形	22	20	16	22.860
467	ＭＬ50	円形	34	33	38	22.637	587	ＭＮ47	楕円形	30	25	23	22.760
468	ＭＬ50	円形	30	29	40	22.623	588	ＭＮ47	楕円形	24	22	21	22.754
471	ＭＮ48	円形	21	20	13	22.807	589A	ＭＲ48	楕円形	26	23	25	22.625
472	ＭＯ48	楕円形	35	34	11	22.844	589B	ＭＲ48	(楕円形)	29	25	9	22.773
477	ＭＯ48	楕円形	30	26	44	22.628	590	ＭＱ48	楕円形	42	39	14	22.760
478	ＭＯ48	楕円形	31	28	36	22.646	591	ＭＱ48	不整な楕円形	37	34	11	22.768
479	ＭＧ50	楕円形	22	20	22	22.784	592	ＭＲ48	楕円形	24	23	11	22.712
480	ＭＫ49	円形	43	42	21	22.838	593	ＭＲ48	方形	37	32	9	22.728
481	ＭＫ49	円形	40	39	24	22.833	594	ＭＬ48	円形	22	20	20	22.763
484	ＭＭ50	楕円形	24	23	7	22.915	599	ＭＬ48	円形	24	23	16	22.807
485	ＭＭ50	楕円形	26	22	18	22.814	601	ＭＭ48	楕円形	33	29	8	22.900
487	ＭＬ50	楕円形	42	29	38	22.691	602	ＭＭ48	楕円形	26	25	22	22.781
488A	ＭＭ50	楕円形	24	23	30	22.677	603	ＭＮ48	楕円形	20	19	12	22.808
488B	ＭＭ50	楕円形	20	16	28	22.700	604A	ＭＭ47	楕円形	19	16	20	22.825
496	ＭＬ50	楕円形	26	24	23	22.851	604B	ＭＭ47	楕円形	19	15	22	22.797
497	ＭＬ50	楕円形	25	20	17	22.894	605	ＭＫ47	楕円形	33	28	9	22.955
498	ＭＬ50	楕円形	26	24	17	22.866	606A	ＭＬ47	(楕円形)	(33)	26	8	22.967
501	ＭＫ49	楕円形	33	32	19	22.907	606B	ＭＬ47	(楕円形)	(30)	26	5	23.000
505	ＭＮ49	方形	24	21	12	22.777	607	ＭＬ47	方形	43	34	9	22.931
507A	ＭＭ49	不整な楕円形	22	21	16	22.746	608	ＭＬ47	楕円形	47	34	11	22.931
507B	ＭＭ49	不整な楕円形	26	22	13	22.768	610	ＭＬ47	楕円形	26	22	22	22.820
508	ＭＬ50	楕円形	21	17	37	22.643	611	ＭＮ47	方形	31	28	23	22.768
511	ＭＫ50	楕円形	48	44	14	22.920	615	ＭＫ47	楕円形	26	24	8	22.967
518	ＭＯ48	楕円形	34	30	32	22.708	617	ＭＯ48	楕円形	34	33	8	22.937
522	ＭＭ49	円形	21	20	24	22.750	619	ＭＫ47	不整な楕円形	34	33	9	22.956
524	ＭＮ47	楕円形	40	36	11	22.850	622	ＭＬ47	楕円形	40	29	8	22.951
525	ＭＭ47	楕円形	37	27	6	22.972	623	ＭＫ47	円形	42	38	8	22.974
526	ＭＬ48	楕円形	22	20	25	22.731	625	ＭＲ48	方形	55	35	12	22.736

第３表　柱穴様ピット観察表（３）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)	ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)
629	ＭＮ48	楕円形	28	20	19	22.792	741	ＭＫ51	楕円形	24	23	11	22.915
630	ＭＮ48	円形	36	29	34	22.652	744	ＭＭ48	楕円形	20	15	10	22.892
633	ＭＯ50	楕円形	18	17	6	22.810	748	ＭＮ48	円形	20	18	13	22.842
634	ＭＮ48	楕円形	22	20	10	22.840	749	ＭＮ48	円形	20	19	10	22.902
637	ＭＯ47	楕円形	27	23	6	22.840	752	ＭＩ49	円形	22	21	18	22.792
638	ＭＯ47	円形	20	19	28	22.611	757	ＭＢ51	円形	24	22	28	22.952
639	ＭＰ47	楕円形	22	21	19	22.764	758	ＭＢ51	円形	22	20	27	22.965
640	ＭＰ47	楕円形	20	16	19	22.749	762	ＭＪ45	楕円形	32	31	12	22.912
641	ＭＯ50	円形	19	18	5	22.826	763	ＭＪ45	楕円形	28	23	29	22.822
642	ＭＯ49	楕円形	46	41	10	22.835	780	ＭＡ52	楕円形	58	49	21	23.006
643	ＭＫ51	楕円形	20	19	21	22.822	784	ＭＢ50	楕円形	51	43	16	24.108
644	ＭＫ51	不整な楕円形	31	26	13	22.898	795	ＭＢ50	不整な楕円形	68	48	25	23.968
648	ＭＡ52	楕円形	46	43	45	23.790	800	ＭＤ48	楕円形	38	28	32	22.893
656	ＭＢ52	円形	26	25	29	22.948	804	ＭＣ48	楕円形	43	36	26	22.903
658	ＭＢ52	方形	26	24	29	22.965	809	ＭＡ51	楕円形	48	46	15	23.084
659	ＭＡ52	楕円形	29	22	17	22.925	813	ＭＩ45	楕円形	42	34	30	22.770
665	ＭＣ49	(楕円形)	(33)	32	24	22.936	814	ＭＤ48	円形	26	24	25	22.879
666	ＭＣ49	(楕円形)	(34)	26	24	22.941	816A	ＭＪ44	円形	17	15	15	22.902
667	ＭＣ49	楕円形	36	21	22	22.976	816B	ＭＪ44	不整な楕円形	22	21	15	22.897
671	ＭＣ48	円形	37	27	28	22.890	818	ＭＪ45	楕円形	28	16	21	22.856
675	ＭＣ48	不整な楕円形	32	22	25	22.898	821	ＭＫ46	楕円形	47	26	7	22.933
677	ＭＦ45	楕円形	38	28	26	22.880	822	ＭＫ46	楕円形	37	30	10	22.914
678	ＭＦ45	楕円形	44	34	41	22.810	825	ＭＮ47	楕円形	39	28	27	22.588
680	ＭＦ45	楕円形	44	38	17	22.925	828	ＭＬ46	円形	20	18	14	22.835
682	ＭＥ46	楕円形	48	22	23	22.823	837	ＭＧ45	楕円形	26	25	17	22.890
689	ＭＮ47	円形	24	23	19	22.770	838	ＭＧ45	円形	36	35	20	22.885
691	ＭＭ47	楕円形	30	26	11	22.912	840	ＭＫ46	円形	20	19	12	22.892
692	ＭＮ46	楕円形	23	20	6	22.845	842	ＭＭ46	楕円形	26	21	18	22.704
695	ＭＣ44	楕円形	31	26	30	22.799	843	ＭＪ45	方形	36	34	14	22.920
696	ＭＢ51	円形	27	26	28	22.964	845	ＭＪ45	楕円形	60	42	25	22.821
698	ＭＣ44	円形	24	20	27	22.787	846A	ＭＪ45	(楕円形)	(43)	26	25	22.808
700	ＭＭ50	楕円形	20	19	27	22.706	846B	ＭＪ45	(楕円形)	(22)	18	10	22.913
701	ＭＭ50	楕円形	19	15	18	22.782	850	ＭＩ45	楕円形	40	39	11	22.962
703	ＭＯ49	円形	29	26	30	22.577	858	ＭＡ52	円形	47	42	43	22.790
704	ＭＯ49	円形	22	21	22	22.675	861	ＭＩ45	楕円形	29	22	21	22.852
705	ＭＯ49	楕円形	23	22	19	22.725	862	ＭＨ45	楕円形	45	38	8	22.980
707	ＭＮ48	円形	20	19	12	22.810	865	ＭＫ46	楕円形	23	21	23	22.810
712	ＭＭ49	円形	20	19	11	22.815	867	ＭＱ46	円形	21	20	20	22.748
718	ＭＭ48	円形	20	19	10	22.834	870	ＭＪ46	不整な楕円形	24	22	14	22.915
719	ＭＭ48	楕円形	22	21	10	22.861	871	ＭＪ46	不整な楕円形	19	18	18	22.882
721	ＭＫ51	円形	26	25	8	22.954	873	ＭＬ46	楕円形	25	21	11	22.882
728	ＭＫ51	楕円形	25	22	25	23.038	874	ＭＫ46	円形	21	20	40	22.614
729	ＭＬ51	楕円形	30	25	16	22.876	875	ＭＪ46	楕円形	40	32	43	22.635
731	ＭＮ48	円形	20	19	9	22.850	879	ＭＮ46	円形	36	35	41	22.460
736	ＭＭ50	円形	23	20	18	22.807	880	ＭＧ45	円形	34	32	22	22.858
737	ＭＭ50	円形	21	20	18	22.700	882	ＭＧ45	円形	45	38	8	22.882
738	ＭＪ48	楕円形	19	16	9	22.912	884	ＭＧ45	楕円形	40	34	23	22.846
739A	ＭＩ49	円形	22	21	19	22.828	887	ＭＪ46	円形	24	23	24	22.838
739B	ＭＩ49	楕円形	21	18	15	22.943	891	ＭＱ46	楕円形	19	18	24	22.742
740	ＭＩ49	楕円形	26	22	19	22.841	894	ＭＩ45	楕円形	20	19	19	22.858

第４表　柱穴様ピット観察表（４）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)	ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ 長軸(cm)	大きさ 短軸(cm)	大きさ 深さ(cm)	底面の標高(m)
901	ＭＡ52	円形	23	22	25	22.973	1015	ＭＤ44	円形	26	24	31	22.829
902	ＭＡ52	楕円形	31	27	23	22.988	1017	ＭＤ44	不整な楕円形	32	30	27	22.877
908	ＭＡ52	円形	22	21	31	22.934	1018A	ＭＤ44	楕円形	35	22	25	22.879
913	ＭＤ48	円形	18	16	27	23.216	1018B	ＭＤ44	楕円形	39	34	26	22.866
922	ＬＴ52	円形	23	22	25	22.944	1021	ＭＣ44	楕円形	22	18	15	22.973
923	ＬＴ52	楕円形	30	22	27	22.946	1022	ＭＣ44	円形	26	24	27	22.857
924	ＬＴ52	楕円形	27	20	27	22.914	1024	ＭＤ45	円形	37	36	43	22.680
925	ＬＴ52	円形	25	24	24	22.924	1025	ＭＣ45	楕円形	44	38	22	22.895
926	ＬＳ53	楕円形	38	32	33	22.768	1027	ＭＢ44	楕円形	54	40	23	22.816
927	ＬＳ53	楕円形	26	24	36	22.680	1028	ＭＦ44	円形	28	27	24	22.865
928	ＬＳ53	円形	26	25	24	22.816	1034	ＭＤ45	楕円形	28	26	43	22.680
929	ＬＳ52	円形	27	22	27	22.835	1036	ＭＣ45	楕円形	23	20	23	22.901
930	ＬＳ52	楕円形	35	28	24	22.835	1037	ＭＣ45	円形	24	22	16	22.978
945	ＭＡ52	円形	26	24	19	22.916	1038	ＭＤ45	円形	28	26	26	23.160
949	ＭＡ52	円形	25	24	26	22.987	1039	ＭＣ45	円形	32	28	27	22.844
950	ＭＡ52	楕円形	24	20	24	22.986	1041	ＭＮ46	円形	21	20	17	22.708
951	ＭＡ52	円形	25	24	37	23.872	1042	ＭＤ45	円形	43	36	38	22.735
952	ＬＴ52	円形	24	23	27	22.938	1044	ＭＣ44	楕円形	22	20	27	22.848
953	ＬＴ52	円形	24	22	27	22.938	1045	ＭＣ45	円形	27	26	27	22.864
954	ＬＳ53	楕円形	27	25	22	22.915	1046	ＭＣ45	円形	22	20	26	23.120
958	ＬＳ52	楕円形	33	27	25	22.842	1052	ＭＩ45	円形	28	27	27	22.800
959	ＭＣ48	円形	54	52	28	22.901	1053	ＭＦ44	円形	34	32	18	22.962
960	ＭＣ47	不整な楕円形	50	47	20	22.901	1054	ＭＣ48	楕円形	42	34	28	22.873
961	ＭＣ48	不整な楕円形	68	56	29	22.887	1057	ＭＥ44	円形	24	22	17	22.962
963	ＭＪ51	不整な楕円形	23	20	22	22.831	1059	ＭＥ45	楕円形	22	22	12	23.000
964	ＭＪ51	楕円形	20	17	21	22.823	1061	ＭＣ45	円形	32	31	27	22.879
969	ＭＧ44	円形	28	26	25	22.850	1062	ＭＥ44	円形	26	25	30	22.810
975	ＭＩ50	楕円形	19	14	18	22.770	1066	ＭＦ44	楕円形	32	32	18	22.940
976	ＭＫ46	円形	24	20	31	22.692	1067	ＭＦ44	楕円形	32	30	17	22.965
978	ＭＧ49	楕円形	26	14	30	22.647	1069	ＭＥ45	楕円形	40	32	9	23.061
981	ＭＧ48	楕円形	31	26	20	22.812	1070	ＭＥ45	楕円形	36	28	15	23.017
984	ＭＨ49	円形	25	23	30	22.681	1072	ＭＦ45	円形	22	18	11	23.023
985A	ＭＨ49	(円形)	(34)	34	22	22.681	1074	ＭＢ44	楕円形	24	20	24	22.845
985B	ＭＨ49	(円形)	(24)	22	22	22.905	1078	ＭＨ45	楕円形	52	38	6	23.015
991	ＭＨ49	楕円形	28	24	30	22.695	1079	ＭＨ45	楕円形	42	36	7	23.024
992	ＭＨ49	円形	22	21	29	22.714	1083	ＭＢ51	楕円形	26	24	25	22.972
994	ＭＩ49	不整な楕円形	23	18	24	22.783	1086	ＭＦ45	楕円形	32	27	8	23.013
995	ＭＨ49	円形	22	22	29	22.692	1088	ＭＩ52	円形	26	24	22	22.750
996	ＭＨ49	円形	20	20	24	22.740	1103	ＭＤ44	楕円形	28	27	13	23.006
997	ＭＧ48	楕円形	24	16	23	22.761	1104	ＭＤ44	楕円形	42	38	22	22.920
998	ＭＧ49	楕円形	19	16	20	22.817	1120	ＭＩ45	楕円形	28	22	20	22.865
999	ＭＧ49	円形	18	18	17	22.850	1121	ＭＪ45	楕円形	26	25	21	22.830
1000	ＭＧ49	楕円形	30	24	24	22.764	1123	ＭＪ45	楕円形	28	24	14	22.928
1004	ＭＧ49	円形	24	24	25	22.783	1124	ＭＪ46	楕円形	28	20	24	22.825
1005	ＭＩ49	円形	27	26	21	22.814	1125	ＭＪ45	楕円形	32	31	22	22.840
1006	ＭＩ49	楕円形	29	27	21	22.828	1126	ＭＫ46	楕円形	28	26	20	22.808
1007	ＭＨ49	楕円形	30	24	22	22.706	1127	ＭＬ46	楕円形	32	24	17	22.831
1010	ＭＧ49	楕円形	26	24	29	22.825	1130	ＭＨ52	楕円形	30	26	21	22.702
1013	ＭＨ49	円形	26	25	26	22.710	1131	ＭＩ45	楕円形	36	30	15	22.870
1014	ＭＤ44	円形	36	33	23	22.904	1133	ＭＪ45	楕円形	27	21	23	22.818

第５表　柱穴様ピット観察表（５）

ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ			底面の標高（m）	ＳＫＰ番号	検出グリッド	平面形	大きさ			底面の標高（m）
			長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)					長軸(cm)	短軸(cm)	深さ(cm)	
1135	ＭＬ46	楕円形	26	25	25	22.728	1232	ＭＤ47	円形	18	17	13	23.108
1139	ＭＤ44	不整な楕円形	36	32	26	22.875	1233	ＭＤ47	楕円形	26	16	20	22.923
1154	ＭＪ46	不整な楕円形	27	26	15	22.876	1234	ＭＤ47	円形	28	27	16	22.957
1157	ＭＭ46	円形	22	20	19	22.701	1235	ＭＤ47	楕円形	38	24	14	23.000
1160A	ＭＱ46	（楕円形）	24	23	19	22.750	1239	ＭＥ47	不整な楕円形	24	20	20	22.941
1161	ＭＲ46	楕円形	20	19	19	22.750	1314	ＭＦ45	楕円形	28	22	15	22.889
1168	ＭＲ47	楕円形	20	14	10	22.801	1315	ＭＧ45	楕円形	32	22	19	22.884
1169	ＭＲ47	楕円形	23	22	18	22.718	1316	ＭＧ45	楕円形	30	28	16	22.880
1170	ＭＲ47	楕円形	26	16	17	22.737	1317	ＭＧ44	円形	27	26	26	23.183
1171	ＭＳ46	楕円形	24	22	16	22.694	1318	ＭＧ44	楕円形	28	26	24	23.015
1172	ＭＳ46	楕円形	26	19	17	22.691	1319	ＭＨ45	楕円形	48	42	6	23.015
1173	ＭＳ46	楕円形	17	15	16	22.704	1320	ＭＭ48	楕円形	42	23	9	22.878
1174	ＭＲ47	楕円形	23	21	26	22.637	1321	ＭＯ48	円形	34	30	10	22.912
1178	ＭＱ46	楕円形	22	18	20	22.742	1322	ＭＯ48	楕円形	16	15	12	22.919
1194A	ＭＭ46	円形	18	17	20	22.678	1323	ＭＮ47	楕円形	28	23	11	22.934
1194B	ＭＭ46	楕円形	20	18	21	22.666	1324	ＭＯ47	楕円形	24	22	14	22.757
1195	ＭＭ46	円形	26	24	16	22.717	1325	ＭＯ47	楕円形	26	24	15	22.760
1196	ＭＭ46	楕円形	21	19	18	22.793	1326	ＭＯ47	楕円形	30	22	26	22.638
1197	ＭＬ46	楕円形	22	21	17	22.838	1503	ＭＩ45	楕円形	36	24	10	22.955
1198	ＭＫ46	楕円形	27	24	16	22.838	1504	ＭＬ46	楕円形	25	23	18	22.792
1200	ＭＫ45	楕円形	26	24	4	23.028	1506	ＭＬ46	楕円形	20	17	16	22.797
1201	ＭＪ45	楕円形	25	22	17	22.885	1513	ＭＲ47	楕円形	34	28	29	22.617
1204	ＭＤ47	不整な楕円形	34	28	23	23.112	1514A	ＭＲ47	（楕円形）	(30)	24	20	22.697
1209	ＭＣ47	楕円形	46	33	23	22.877	1514B	ＭＲ47	（楕円形）	(22)	15	19	22.701
1210	ＭＣ48	楕円形	27	24	19	22.935	1515	ＭＲ47	楕円形	35	22	20	22.677
1212	ＭＤ48	円形	28	27	25	22.894	1516	ＭＲ47	円形	20	18	20	22.696
1214	ＭＤ47	楕円形	23	20	15	22.964	1517	ＭＲ47	楕円形	25	23	22	22.675
1224	ＭＤ47	楕円形	36	24	28	22.960	1518	ＭＳ46	楕円形	26	21	15	22.696
1225	ＭＤ47	楕円形	37	30	18	22.929	1520	ＭＰ46	楕円形	28	23	18	22.766
1227	ＭＤ48	方形	50	47	16	23.020	1521	ＭＳ46	楕円形	22	21	20	22.660
1228	ＭＤ48	方形	43	34	19	22.921	1523	ＭＲ47	楕円形	19	13	17	22.722
1230	ＭＤ47	方形	28	26	15	22.990	1528	ＭＱ47	方形	26	24	19	22.766
1231	ＭＤ47	円形	32	31	17	22.951	1529	ＭＮ46	楕円形	27	18	30	22.605

磨製石斧　礫を研磨したもので、基部、両端、あるいは刃部を欠損している（33～36）。

打製石斧　大型の礫を荒く剥離して刃部を作出したものである（37～41）。

凹石　縦長あるいは円形の扁平な礫に敲打による凹みを有するものである。凹みは両面にあるものと片面のみのものとがある（42～47）。

磨石　扁平な礫の両面と側面が磨られているものである（48）。

（３）土製品（第44図）

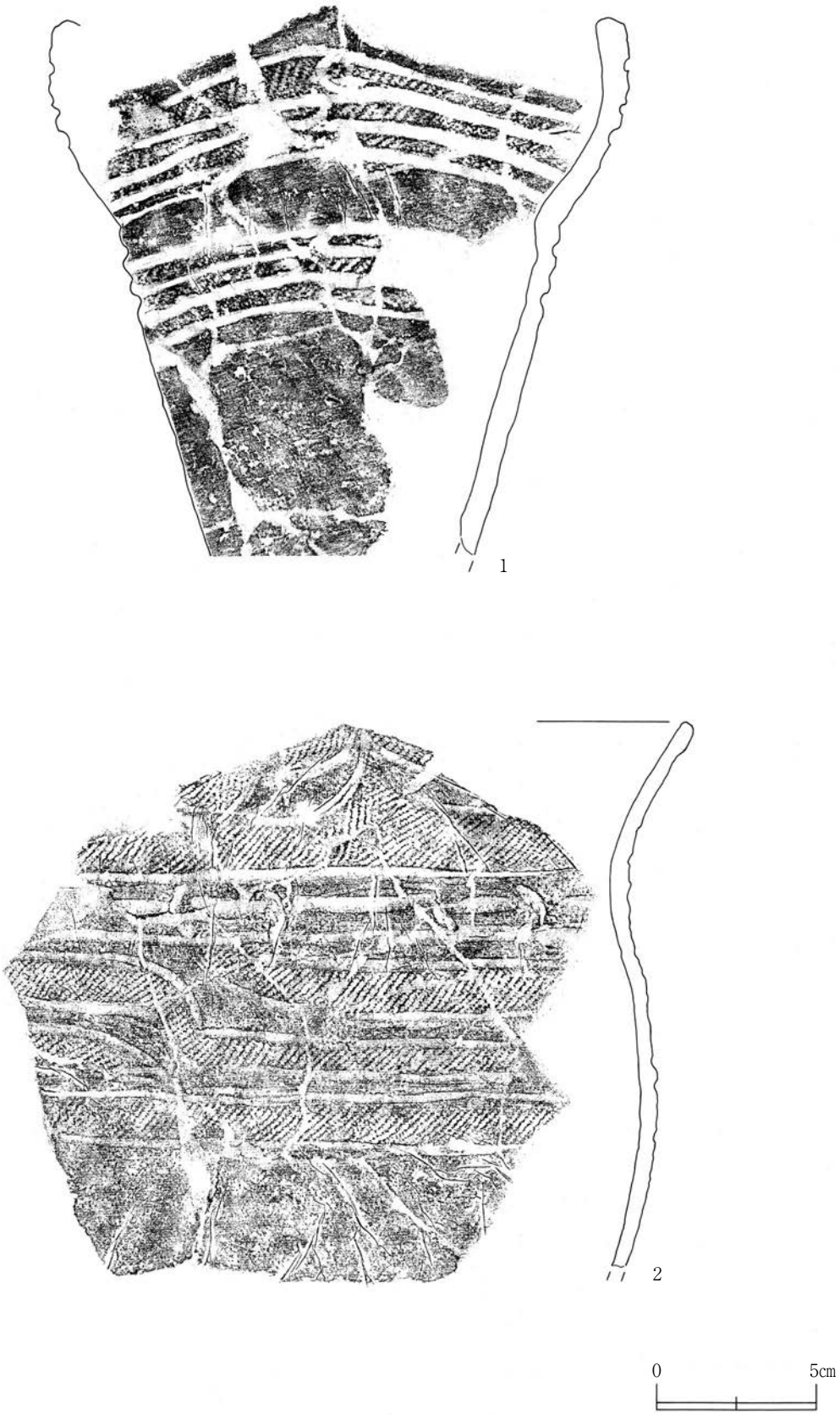
細い粘土紐を環状にした土製品である（49）。

２　古代の遺物（第44図）

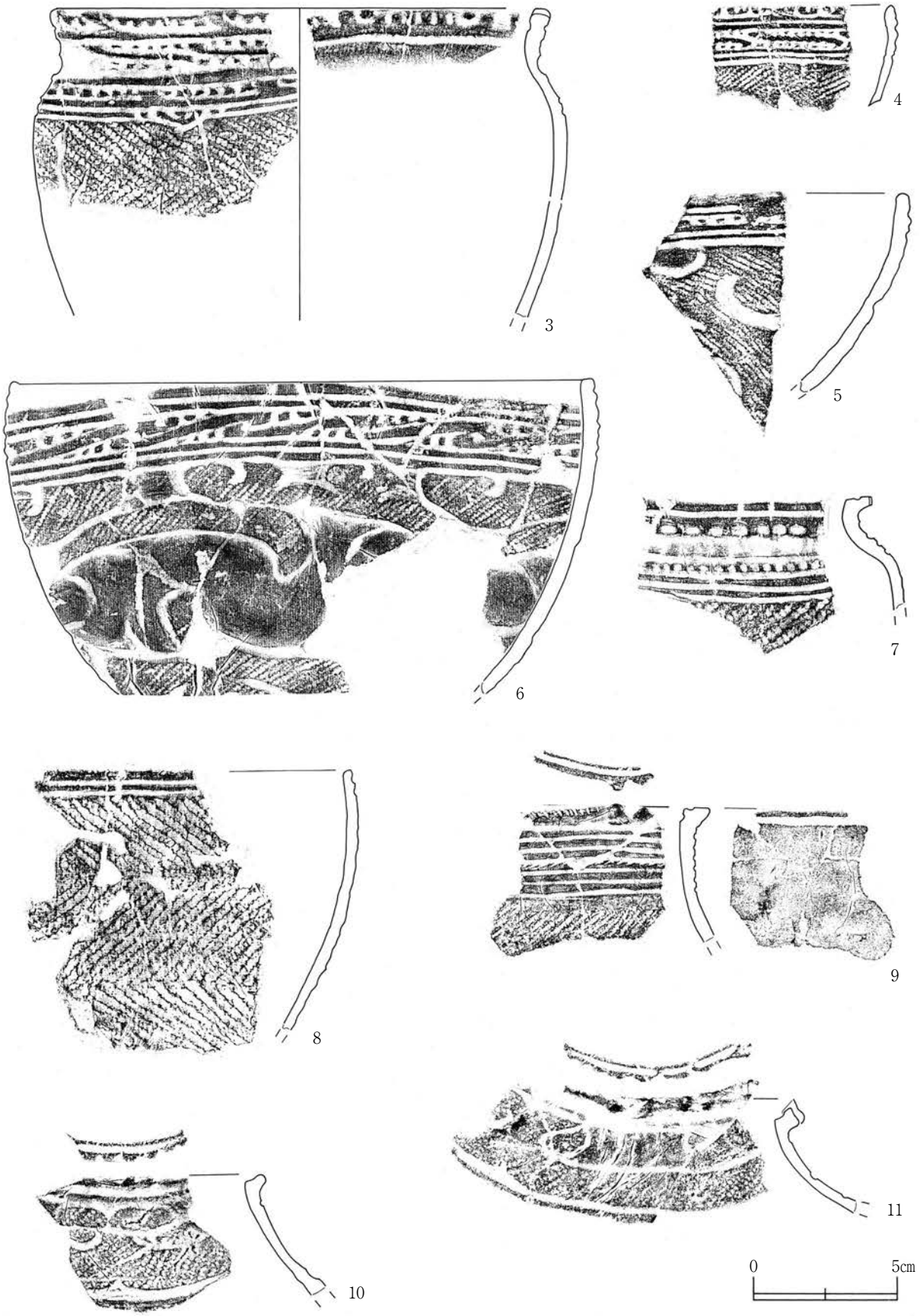
須恵器甕（50）、高台部分、土師器坏・甕の小破片がごく少数出土した。

３　中世の遺物　（第44図）

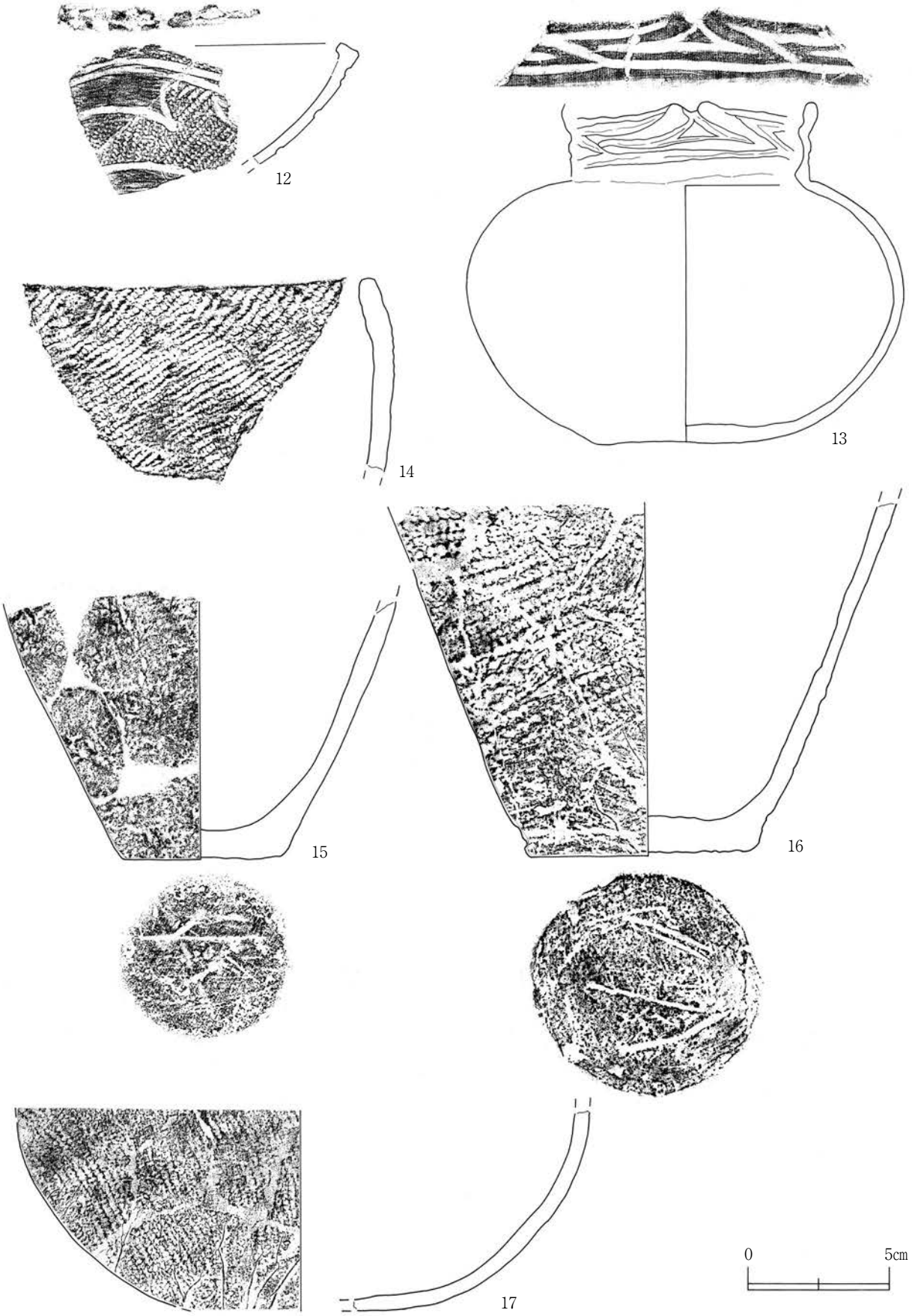
いずれも小破片であるが、須恵器系陶器（51）、かわらけ（52・53）、14世紀前半の青磁盤、16世紀後半の瀬戸美濃菊皿が出土した。



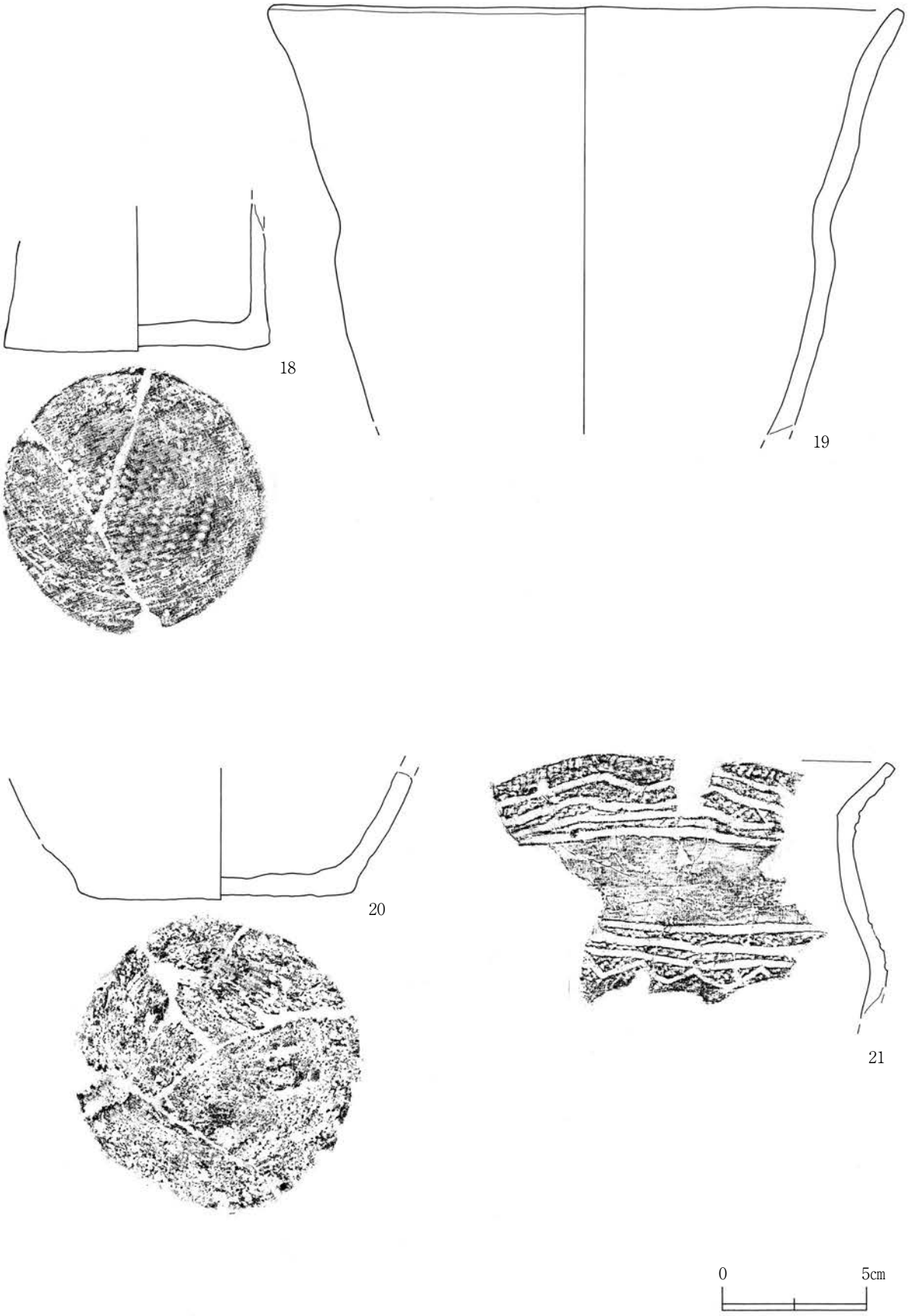
第38図　遺構外出土遺物（1）



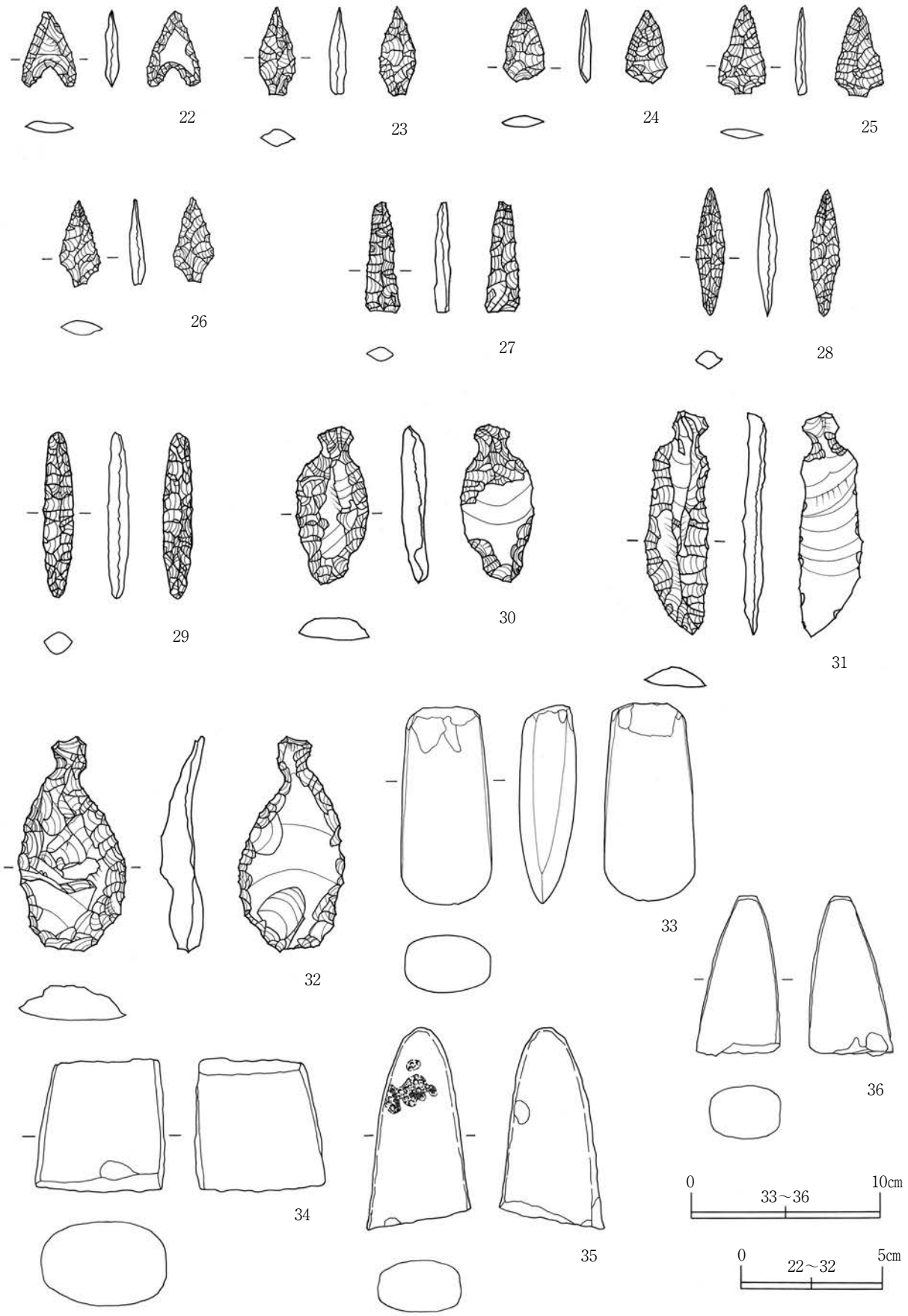
第39図　遺構外出土遺物（２）



第40図　遺構外出土遺物（３）

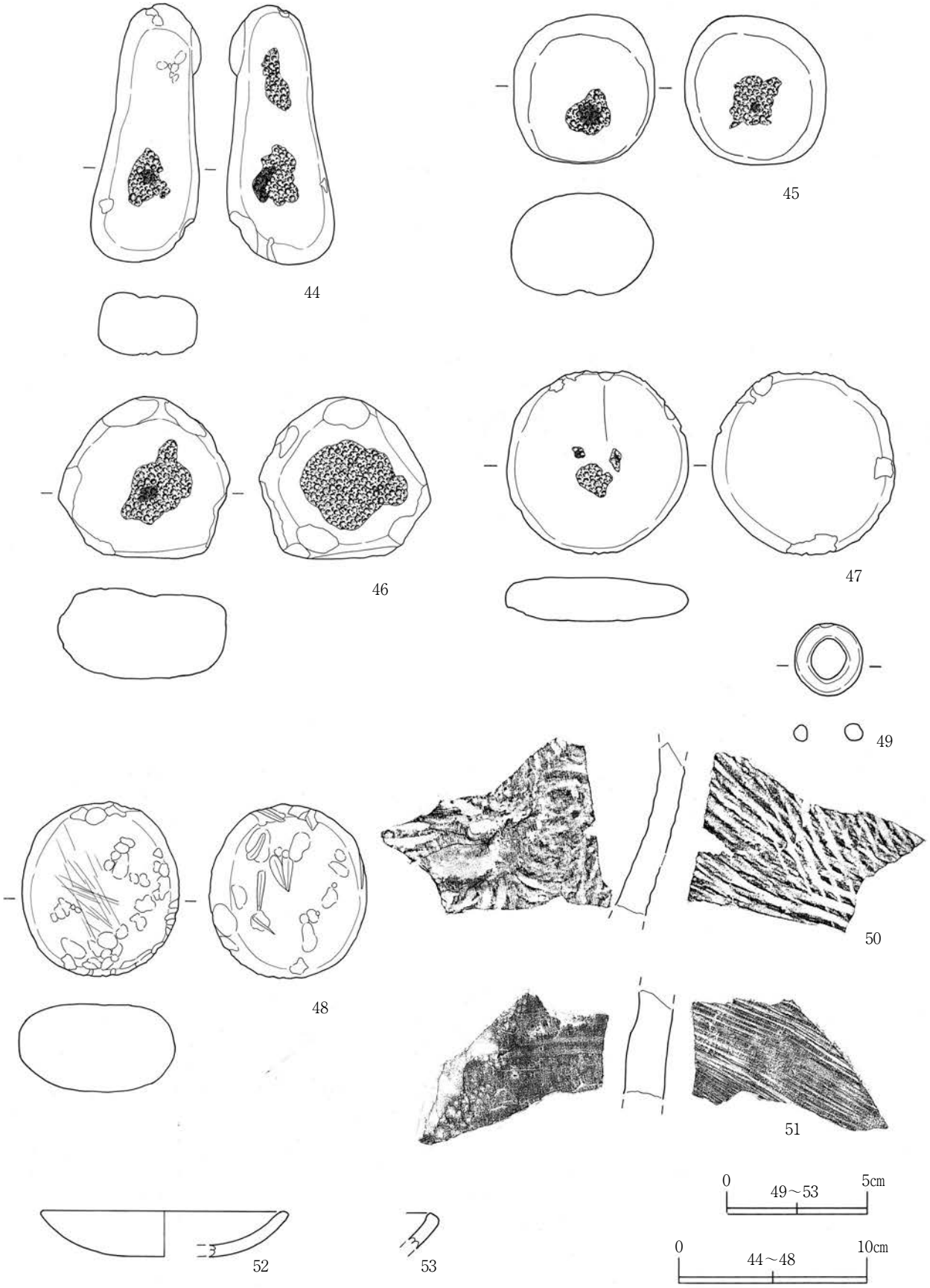


第41図　遺構外出土遺物（４）



第42図　遺構外出土遺物（５）

第43図　遺構外出土遺物（６）



第44図　遺構外出土遺物（７）

第５章　薬師遺跡の掘立柱建物跡

八戸工業大学　高　島　成　侑

はじめに

2003年秋に視察を許された遺跡のなかで、道路の付け替え跡が２～３ヵ所あり、また、掘立柱建物跡もあった。この遺跡について話しているうちに、報告書への執筆を依頼されることになり、ここに取り上げることとした。

現在、秋田県内では中世遺跡が目白押しで、数多くの遺跡が調査されているが、そのうちでも掘立柱建物跡の検出されるような遺跡では、建築史を研究している者にとって貴重な資料を提供してくれるものであり、遺跡の状況を見せていただき、その掘立柱建物跡について纏めることは大切なことである。

この遺跡は、出土遺物の調査からすると、13～14世紀にわたるようで、身舎の梁間を３間に取る掘立柱建物跡は無い。また、掘立柱建物跡の構造を時期的に見ると、３時期に分かれるようでもあり、それぞれに興味ある知見を得ることができた。

ここでは、検出された掘立柱建物跡の配置やその年代などについて述べ、掘立柱建物跡について詳述し、さらに間取りの特徴についても論述した。

この小稿を書き上げるにあたって、秋田県埋蔵文化財センター・南調査課の方々には、資料その他について一方ならぬお世話をいただいた。また、八戸市教育委員会の佐々木浩一氏からは、掘立柱建物跡の線引きについて、貴重なご指示をいただいた。ここに記して謝意を表するものである。

１、掘立柱建物跡の配置と年代

この遺跡で検出された掘立柱建物跡は全部で13棟を数える。それらを棟方向の違いと柱間寸法とによって分類してみると、ＳＢ01とほぼ同じようなものが、ＳＢ02、ＳＢ03、ＳＢ07、ＳＢ08、ＳＢ10の一群となる。また別の一群は、ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ15となる。さらに別なものにＳＢ06があり、柱間寸法が6.0尺以下のものとしてＳＢ09、ＳＢ11、ＳＢ14が上げられよう。

ＳＢ06については、その棟方向が独特である。しかし内部の間取りはＳＢ01とまったく同様なものを示してはいるが、その構造技術から見ると、柱間寸法は同じ数値を用いているが、身舎梁間を２間とすることや、妻側に下屋が廻らないことなど、一時期前に置いた方がよさそうである。これだけが、溝跡に囲まれていることも合せて、考える必要があるだろう。

ＳＢ09、ＳＢ11、ＳＢ14の一群は、竈跡に関連する何らかの施設としていいのではなかろうか。その検出された位置からして、遺跡の南西隅に寄っており、この辺りには竈跡（何の竈跡かは不明である）が７基ほど検出されており、そのような点も考慮しなければならない。

ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ15の一群は、一つの興味ある事柄を示しているようである。特にＳＢ05は桁行の各間が6.5尺と寸法を揃えておるのに、梁間では7.5尺＋5.5尺＋5.5尺としている。その間取りをみると、２室による「食違い」形式を示し、この遺跡が造られたとされる12世紀後半～14世紀ころ、秋田県内の他の遺跡においてもみることができる間取りであることからも注目されるが、その中では小

規模なものである。

ＳＢ04は、小規模な総柱の掘立柱建物跡であり、「倉庫」などを推定させる。またＳＢ15は、たまたま見付けたものではあるが、この方向でここにあってもいいのではなかろうか。

ＳＢ01を中核とする一連の掘立柱建物跡は、この遺跡のもっとも活動的な時期に造られたものとしていいようである。ＳＢ01はこの遺跡での首長のような人の住まいとみられ、他の掘立柱建物跡は、その下男とか下人にあたる人々のものであったようであろう。この附近から12世紀第４四半期とされる遺物が出土しているが、これは伝世品ともみられ、建物跡としては13世紀初頭ころと考えられる。

とくにＳＢ07は身舎梁間１間に２面庇という、特異な構造をしており、あるいは集団で生活するようなものかもしれない。これは、13世紀半ばとされる遺物があり、そのまま従った。

これら３つに分類することはできたが、それぞれの時期を考えると、最も古い時期のものとしてＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ15の群れを上げることができよう。それは、これら３棟の掘立柱建物跡には、庇が廻っていないことが上げられる。12世紀後半ころの建築であろうか。ＳＢ04にしても古い形式を想定させるものがある。

次に来るものとして、ＳＢ06が上げられよう。12世紀末ころであろう。間取りは「食違い」から「続き間」へと変化し、寸法も整ってきており、規模が大きなものとなっている。

そして最後にＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ03、ＳＢ07、ＳＢ08、ＳＢ10などの群が、13世紀初頭ころになるのではなかろうか。ＳＢ07のような掘立柱建物跡も造られていたのである。

これらの掘立柱建物跡は、ほとんどが東西方向の棟を持っており、ＳＢ04とＳＢ15のみが南北棟を示している。

２、掘立柱建物跡の各説

ＳＢ01掘立柱建物跡：もっとも大きい掘立柱建物跡である。桁行７間に梁間４間で、４面に庇（下屋）が廻り、東西棟であり、南東隅に１間四方の突出部をもっている。間取りは２間に２間の部屋を続き間で２室もち、さらに１間に２間の部屋が続いており、それらを４面の庇（下屋）が巡っている。

庇（下屋）の出は5.0尺を取るが、他の柱間は全て7.0尺と揃っている。5.0尺と7.0尺との比率は0.71という数値を示し、庇というよりは、民家などでみられる下屋柱と上屋柱との違いのようなもの、あるいは下屋そのものであろう。また、この遺跡で検出された掘立柱建物跡のなかでは、ＳＢ06にも同様の間取りがみられる。

ＳＢ02掘立柱建物跡：ＳＢ01の南側で検出されたもので、桁行３間に梁間２間の小規模な東西棟を示し、庇が無い。柱間寸法は桁行では西側から5.5尺＋7.0尺＋5.5尺となり、梁間では北側から8.0尺＋7.5尺となる。当初は総柱の掘立柱建物跡としていたが後述するSB15の検出にあたって柱穴を使用したために、２部屋の掘立柱建物跡とした。２間に２間の部屋と１間に１間の続き間である。

ＳＢ01とはわずかしか離れておらず、その南側にあることからも、同時には建たないものと考えられる。

ＳＢ03掘立柱建物跡：ＳＢ01の北側で検出されたもので、桁行４間に梁間２間で、東西棟であり、総柱の掘立柱建物跡である。柱間寸法にはばらつきがあり、桁行では西側から4.0尺＋6.5尺＋8.0尺＋4.0尺となり、梁間では北側から8.0尺＋7.5尺となっている。

間取りをみると、中の２間四方の中央にも柱穴があることから総柱の掘立柱建物跡とみられ、これの両側に庇状のものが、その出を4.0尺として付くが下屋となり、「倉庫」とその「下屋」などが想定されるところである。

ＳＢ04掘立柱建物跡：遺跡の西側に寄ったところで検出されたもので、桁行４間に梁間２間の東西棟を示している。庇は無い。柱穴が欠落している箇所があって定かではないが、一応の掘立柱建物跡としておきたい。寸法は、桁行では西側から4.0尺＋4.0尺＋4.0尺＋4.0尺となり、梁間でも北側から4.0尺＋4.0尺となっている。これも「倉庫」かと見られる。

ＳＢ05掘立柱建物跡：桁行４間に梁間３間で、東西棟を示すが、これまでのものに比して極端に左下がりである。周りには試掘段階でのトレンチがあって柱穴が欠落しているが、柱間寸法は桁行が6.5尺と４間が揃っており、梁間は北側から7.5尺＋5.5尺＋5.5尺となっている。

間取りをみると、２間に２間の部屋が柱間１間の食違いである。この２部屋による「食違い間取り」は、今回の秋田県内の遺跡で注目される間取りである。

ＳＢ06掘立柱建物跡：桁行８間に梁間３間とみたが、調査区外に延びる可能性が大きくて、確かなことはいえない。東西棟であり、掘立柱建物跡の半分ほどには、外側に溝跡が巡る。柱間寸法をみると、桁行では西側から7.0尺が５間続き、その後に5.0尺＋8.5尺＋5.0尺ときており、梁間では北側から5.0尺＋7.0尺＋7.0尺となっている。この寸法からすると、構造的には、１間7.0尺の身舎梁間２間で、その北側に5.0尺幅の庇（下屋）が付いており、１面庇のような構造を想定できる。

間取りは、ＳＢ01とよく似ており、西側から２間に２間の部屋が２間続き、さらに１間に２間の部屋が取られている。そしてさらに東側には土間か何かを想わせる広い部分が続いている。

ＳＢ07掘立柱建物跡：先のＳＢ05の北側で検出されたもので、桁行５間で梁間３間の東西棟である。ここにも試掘時のトレンチがあって柱穴が明確ではないが、8.0尺の身舎梁間１間で、その両側に4.0尺幅の２面庇（下屋）が付いている形である。身舎の間仕切りについては明確ではない。寸法は、桁行では西側から4.0尺＋6.5尺＋6.5尺＋7.0尺＋4.0尺となり、梁間では北側から4.0尺＋8.0尺＋4.0尺となっている。

ＳＢ08掘立柱建物跡：ＳＢ01とＳＢ06との間で検出されたもので、桁行２間に梁間２間で総柱の形式を示している。寸法は、桁行で西から6.0尺＋6.5尺となり、梁間では北側から6.5尺＋6.0尺となっいてる。棟方向は、平面が正方形のため不明であるが、あるいは宝形造の屋根かもしれない。

ＳＢ09掘立柱建物跡：小さなものであるが、桁行２間に梁間１間で東西棟である。寸法は桁行が西側から5.5尺＋4.5尺で、梁間が6.0尺を数える。

ＳＢ10掘立柱建物跡：遺跡の西側で検出されたもので、桁行３間に梁間２間の東西棟である。柱間寸法は6.5尺を基本としているようで、桁行が西から6.5尺＋6.5尺＋5.5尺となり、梁間では6.5尺＋6.5尺となっている。

ＳＢ11掘立柱建物跡：遺跡のもっとも西端で検出されたものであるが、梁間１間が4.5尺と小さなものである。桁行３間に梁間１間というもので、寸法も桁行で西から4.0尺＋4.5尺＋4.0尺となり、梁間は4.5尺である。

ＳＢ14掘立柱建物跡：桁行２間に梁間１間のものである。先のＳＢ10と重複する形で検出されている。寸法は桁行で西側から6.5尺＋5.5尺となり、梁間は7.5尺である。なににでも使われそうな掘立柱

建物跡である。

ＳＢ15掘立柱建物跡：先のＳＢ02と重複した形で検出されたのであるが、その向きが特殊で、ＳＢ05と似た傾きを示して左が極端に下がっているのは、これだけのようである。一応南北棟としておきたい。桁行３間に梁間１間で、寸法は桁行では北側から5.5尺＋5.0尺＋7.0尺となり、梁間は6.5尺である。

３、間取りの特徴

この遺跡で検出された掘立柱建物跡の間取りについて、その特徴的な点を上げてみたい。ＳＢ03、ＳＢ04、およびＳＢ08のみが、総柱の建物跡である。秋田県内には総柱の掘立柱建物跡が多いと聞いていたが、それほどではなかった。

これらは２間に２間で、その中央にも柱穴があるという形であり、もう一つは４間に２間のもので、ともに、古代遺跡でも見られるもののように、「倉庫」などが想定される。

次に目に付くのは、ＳＢ01およびＳＢ06にみられる２間に２間の部屋が、２室の「続き間」となることである。

ＳＢ01でみると、２間に２間の部屋が２室続けて取られ、さらに１間に２間の部屋が続いている。そしてこれの四周を出が5.0尺という狭い庇（下屋）が取り囲んである。また、この掘立柱建物跡だけに、この遺跡で唯一の井戸跡（ＳＥ649）が北西隅に取り付いている。この点を重視すると、井戸跡の近くは土間床であり、入り口や作業場が考えられ、そこから入って２間続きの部分が居室空間として捉えられるだろう。

ＳＢ06でみると、先にも述べたように、構造的には身舎梁間２間となるが、間取りはＳＢ01と同様のものとみることができる。ここでは東側から２間に２間の部屋が２室の「続き間」で取られ、さらに続いて１間に２間の部屋が続いている。また、先のＳＢ01には井戸跡が検出されているが、ＳＢ06ではそれはなくて、建築の周り半分ほどを取り囲むように溝跡が巡っている。この溝跡がどこまで続くのかは不明であるが、興味ある対比をみせている。

いま一つ興味あるのは、ＳＢ07である。これも身舎梁間１間で8.0尺を示し、それに２面の庇（下屋）が付くという形を示している。そしてその庇の出が4.0尺であるのに対して、桁行の各間が6.5尺という寸法を示していることである。このような特殊とも言える間取りを持つ建築はどのように使われたのであろう。

さらにＳＢ05は、小規模ではあるが、「食違い」の間取りを示している。桁行寸法は４間ともに6.5尺を取り、梁間は7.5尺と5.5尺を２間分取っている。柱穴に少しの欠落が見られるが、いまのところ「食違い」の間取りと見ている。

秋田県内には、この他にも多くの「食違い」間取りを見るが、このＳＢ05は、それらの先駆的な存在として貴重なものである。

むすび

すべての掘立柱建物跡を見て、数種類の間取りがあり、その年代も12世紀後半ごろから13世紀半ばごろまでとすることができた。すなわち、

12世紀後半ごろ　－　ＳＢ04、ＳＢ05、ＳＢ15、
極端な左下がりの棟方向を示し、庇があるいは下屋に相当するものが無い。

ＳＢ05は、「食違い」間取りを示しているが、12世紀後半に４間取りが造られていたのであろうか。

12世紀末ごろ　－　ＳＢ06、

一つだけ右下がりの棟方向であり、１面庇（下屋）で、「続き間」の間取りを示すが、４間取りではない。溝跡に囲まれていることや調査区境界際での検出であり、はっきりとしない点も多かった。

13世紀初頭ごろ　－　ＳＢ01、ＳＢ02、ＳＢ03、

ＳＢ01は桁行７間という大規模なものであり、「続き間」の間取りで、４面庇（下屋）である。

ＳＢ02およびＳＢ03は、ＳＢ01に付属した「倉庫」かとみられる。

13世紀半ばごろ　－　ＳＢ07、ＳＢ08、ＳＢ10、

ＳＢ07は、これも一つだけ棟方向が違っているが、２面（下屋）を持つものであることから、ここに入れた。内部は５間に１間の１室である。

以上のほかに、ＳＢ09、ＳＢ11、ＳＢ14という竈跡に関連する掘立柱建物と見られる群があるが、これらの時期を推定する根拠は何も無いようである。各柱間は4.0尺から5.5尺、6.0尺から6.5尺が用いられており、これらの柱間から見ると、15世紀末ころから16世紀に入るところであろうが、これらの時期は不明なものとした。

第６章　自然科学的分析

第１節　放射性炭素年代測定

山形　秀樹（パレオ・ラボ）

１．はじめに

薬師遺跡より検出された炭化物の加速器質量分析法（AMS法）による放射性炭素年代測定を実施した。

２．試料と方法

試料は、SO582覆土中より採取した草本炭化物（草本性単子葉類）1点、SD529覆土中より採取した炭化材（ケヤキ）１点の併せて２点である。なお、SO290の2点とSO519, SO552, SO807の試料は、ほとんど灰になっていたため測定可能な量の炭化材を採取できず、測定を行なわなかった。

これら試料は、酸・アルカリ・酸洗浄を施して不純物を除去し、石墨（グラファイト）に調整した後、加速器質量分析計（AMS）にて測定した。測定した^{14}C濃度について同位体分別効果の補正を行なった後、補正した^{14}C濃度を用いて^{14}C年代を算出した。

３．結果

第６表に、各試料の同位体分別効果の補正値（基準値-25.0‰）、同位体分別効果による測定誤差を補正した^{14}C年代、^{14}C年代を暦年代に較正した年代を示す。

^{14}C年代値（yrBP）の算出は、^{14}Cの半減期としてLibbyの半減期5,568年を使用した。また、付記した^{14}C年代誤差（±1σ）は、計数値の標準偏差σに基づいて算出し、標準偏差（One sigma）に相当する年代である。これは、試料の^{14}C年代が、その^{14}C年代誤差範囲内に入る確率が68%であることを意味する。

なお、暦年代較正の詳細は、以下の通りである。

暦年代較正

暦年代較正とは、大気中の^{14}C濃度が一定で半減期が5,568年として算出された^{14}C年代に対し、過去の宇宙線強度や地球磁場の変動による大気中の^{14}C濃度の変動、および半減期の違い（^{14}Cの半減期5,730±40年）を較正し、より正確な年代を求めるために、^{14}C年代を暦年代に変換することである。具体的には、年代既知の樹木年輪の詳細な測定値を用い、さらに珊瑚のU-Th年代と^{14}C年代の比較、および海成堆積物中の縞状の堆積構造を用いて^{14}C年代と暦年代の関係を調べたデータにより、較正曲線を作成し、これを用いて^{14}C年代を暦年代に較正した年代を算出する。

^{14}C年代を暦年代に較正した年代の算出にCALIB 4.3（CALIB 3.0のバージョンアップ版）を使用した。なお、暦年代較正値は^{14}C年代値に対応する較正曲線上の暦年代値であり、１σ暦年代範囲はプログラム中の確率法を使用して算出された^{14}C年代誤差に相当する暦年代範囲である。カッコ内の百分率の値はその１σ暦年代範囲の確からしさを示す確率であり、10%未満についてはその表示を省略

した。１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲については、表中に下線で示した。

４．考察

各試料は、同位体分別効果の補正および暦年代較正を行なった。暦年代較正した１σ暦年代範囲のうち、その確からしさの確率が最も高い年代範囲に注目すると、それぞれより確かな年代値の範囲として示された。

引用文献

中村俊夫（2000）放射性炭素年代測定法の基礎.日本先史時代の^{14}C年代、p.3-20.

Stuiver, M. and Reimer, P. J. (1993) Extended ^{14}C Database and Revised CALIB3.0 ^{14}C Age Calibration Program, Radiocarbon, 35, p.215-230.

Stuiver,M., Reimer,P.J., Bard,E., Beck,J.W., Burr,G.S., Hughen,K.A., Kromer,B., McCormac,F.G., v.d. Plicht,J., and Spurk,M. (1998) INTCAL98 Radiocarbon Age Calibration, 24,000-0 cal BP, Radiocarbon, 40, p.1041-1083.

第６表　放射性炭素年代測定および暦年代較正の結果

測定番号（測定法）	試料データ	δ^{13}C（‰）	^{14}C年代（yrBP±1σ）	^{14}C年代を暦年代に較正した年代	
				暦年代較正値	１σ暦年代範囲
PLD-2565（AMS）	草本炭化物（草本性単子葉類） SO582 覆土中	-18.6	380±30	cal AD 1,480	cal AD 1,455 - 1,510 (76.7%) cal AD 1,600 - 1,615 (23.3%)
PLD-2566（AMS）	炭化材（ケヤキ） SD529 覆土中 No.7	-26.2	370±30	cal AD 1,485	cal AD 1,465 - 1,520 (56.9%) cal AD 1,590 - 1,625 (43.1%)

第２節　薬師遺跡出土炭化材の樹種同定

植田弥生（パレオ・ラボ）

１．はじめに

ここでは中世のカマド状遺構SO582と溝SD529から出土した炭化材樹種同定結果を、報告する。

２．試料と方法

取上げられていた黒色の土試料を自然乾燥し、その後に炭化材の選別を行なったが、各試料に含まれる炭化材は非常に少なかった。検出された少量の炭化材について､組織を走査電子顕微鏡で拡大し、同定した。

同定は、炭化材の横断面（木口）を手で割り実体顕微鏡で予察し、次に材の３方向（横断面・接線断面・放射断面）の断面を作成し、走査電子顕微鏡で拡大された材組織を観察した。走査電子顕微鏡用の試料は、3断面を5㎜角以下の大きさに整え、直径１㎝の真鍮製試料台に両面テープで固定し、試料を充分乾燥させた後、金蒸着を施し、走査電子顕微鏡（日本電子㈱製　JSM-T100型）で観察と写真撮影を行った。

同定した炭化材の残り破片は、秋田県埋蔵文化財センターに保管されている。

３．結果

同定結果の一覧を、第７表に示した。

SO582のカマド内部から僅かながら検出された炭化物は、維管束の特徴から草本性単子葉類の茎部であった。異なる部位から保存のよい炭化片３点を採取し観察した結果、いずれも同様な組織であったことから、同じ種類の茎部の集まりと推定される。炭化した塊状のものは多くあり、実体顕微鏡下の観察では細い茎状のものが交差して幾層もあるようであった。しかし､炭化材は検出されなかった。このほかにSO290・519・552・807の試料も観察したが、微小な炭化物片が含まれているだけであった。これらの遺構に焼土が見られる事から、被熱しているのは確かであるが、どの遺構からも炭化物がほとんど検出されない。灰化するまで充分に燃焼したのか、または炭化物は意図的に取り除かれた可能性もあるのではないだろうか。

SD529の溝覆土内からは、ケヤキと不明の広葉樹材が検出された。いずれも小破片である。不明広葉樹は、材組織から樹高が低い潅木類のようであった。

材組織記載

ケヤキ　Zelkova serrata (Thunb.) Makino　ニレ科　図版20　1-3(SD529)

年輪の始めに大型の管孔が１～２層配列し、その後は中～小型の管孔が集合して接線状・斜状に配列する環孔材である。道管の壁孔は交互状、穿孔は単一、小道管にはらせん肥厚がある。放射組織は異性、主に６細胞幅の紡錘形、上下端や縁に大型の結晶細胞がある。

ケヤキは暖帯下部から温帯の山中や川岸に生育する落葉高木である。

広葉樹　broad-leaved tree 図版20　4-6(SD529)

保存が悪いのか、道管の径が非常に小さいのか、道管の分布密度が低いのか、横断面において道管の分布は不明であった。放射組織は８細胞幅前後で25細胞高前後の太い紡錘形であり、多く分布している。中間部や縁に大型の結晶が多く見られた。放射組織が太く目立つことから、樹高が低く横に広がる樹形を成す潅木類の材と思われるが、樹種を特定できる材組織の特徴は不明であった。

草本性単子葉類 herbaceous Monocotyledoneae　図版20 7・8(SO582)

維管束は不整中心柱で多数が同心円状に均質に配置している。ススキ属の稈に類似するが、ススキ属の稈の外周は、厚壁の細胞層に囲まれた非常に小さな維管束が１～２層配列している。しかし、当遺跡の試料では、稈の表皮または表皮に近い外周の細胞層は壊れているのかもしれないが、薄く１層前後のようであった。

第７表　薬師遺跡出土炭化材の樹種同定結果一覧

試料番号	遺構名	試料内容	樹　　種	備　　考
5	SO582	カマド内部採取	草本性単子葉類	細い茎状のものが集積していた
7	SD529	溝覆土内炭化材	ケヤキ	小破片2
			不明広葉樹	小破片1 潅木類の材か?

第７章　まとめ

調査の結果、中世の掘立柱建物跡13棟、カマド状遺構11基、道路跡３条、溝跡19条、土坑61基、井戸跡１基、性格不明遺構４基、柱穴様ピット466基が検出された。中世の遺物のほかには縄文時代、古代の遺物が出土したが、縄文時代あるいは古代に確実に属する遺構は検出されないので、この遺跡の主たる時代は中世で、遺物を出土しない遺構の時代も中世に帰属すると考えていいであろう。

東西に細長い調査区の中で、掘立柱建物跡やカマド状遺構はその西部から、道路跡は東部から検出された。

１　掘立柱建物跡

掘立柱建物跡は道路遺構の西側にその分布が限られ、道路とはまったく重複していない。集落の広がりは地形的に雄物川の氾濫平野のある南側低地には広がらず、丘陵のある北側および西側へ想定できる。したがってムラの東端部にあたる地域を調査したことになる。

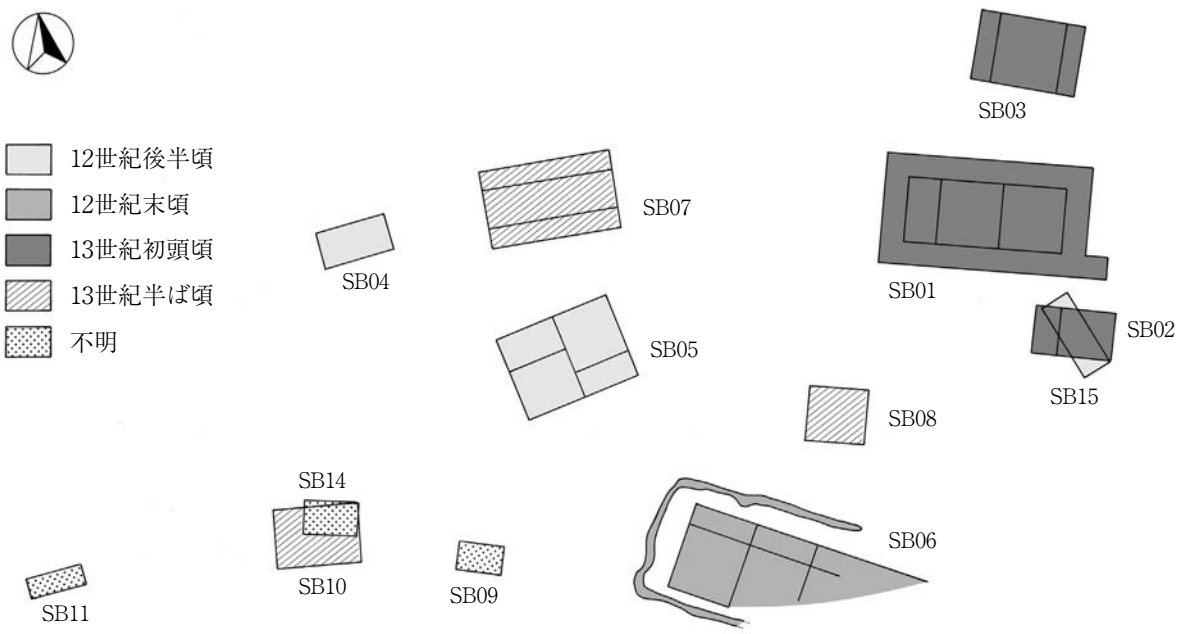
高島氏によれば、調査区内に検出されたこれらの建物は、棟方向の違いと柱間寸法とによって次のように３分類される。それは、1．ＳＢ04・05・15の３棟で、12世紀後半頃。このうちＳＢ05は２部屋による「食違い」間取りで、県内の同種建物の先駆的存在である。ＳＢ04は総柱の倉庫と見られる。
2．ＳＢ06１棟であるが12世紀末頃。この建物には２室あり、建物の周囲半分ほどを溝が巡っている。
3．ＳＢ01・02・03の３棟で、13世紀初頭頃。これらはこのムラのもっとも活動的な時期に造られた。ＳＢ01はムラの首長層の住まいと見られ、ＳＢ02・03は倉庫を想定している。
4．ＳＢ07・08・10の３棟で、13世紀半ば頃。ＳＢ07は集団で生活するためのものかとも想定される。これらのほか、ＳＢ09・11・14は年代は不明確ながら、カマド状遺構に関連する建物と推定される。

建物の範囲あるいは柱穴から出土した陶器の年代は八重樫忠郎氏によれば、ＳＢ01の場合12世紀第４四半期、ＳＢ03が13世紀初頭、ＳＢ06が12世紀末あるいは13世紀中頃、ＳＢ07が13世紀中頃である。これらは建物の年代を推定するにあたり遺物から遡ることができる上限を示していると考えられる。

２　カマド状遺構

カマド状遺構は、調査区の西端部において11基検出された。それらには次のような特徴がある。①調査区の西端部に集中して分布し、掘立柱建物とは重複しない。遺構相互には重複があり、限られた場所で営まれている。②付近に小規模な掘立柱建物跡がある。③長軸方向は南北に統一性がある。④幅１ｍを越し、深さ30㎝ほどの溝２条と重複する。カマド状遺構と溝との新旧関係を見ると、カマド状遺構が溝に切られる場合と、溝が埋まった後にカマド状遺構を構築する場合があり、これらの溝自体も重複している。⑤カマド内からは土器は出土しない。⑥燃焼部から焚き口部にかけて灰が堆積する。特に焚き口部に多い。

また、構造上は次のような特徴を持つ。①強い火熱を受けた燃焼部と、焚き口部からなる。②燃焼部の天井が崩落せずに残っているものがある。③燃焼部の壁は内湾して立ち上がり、円形を呈する開口部がある。④煙道は不明確である。⑤平安時代の竪穴住居跡内のカマドに見られるようなソデはな



第45図　掘立柱建物跡変遷図

い。⑥焚き口部は長く、幅は燃焼部に比べ末端ほど狭くなる傾向がある。全体が緩傾斜し、壁の立ち上がりも緩やかである。⑦屋外の施設であるが、ＳＯ530・565・807には柱穴が伴う可能性があり、簡単な上屋がかかる場合があるようである。

これらのカマド状遺構内に残る炭化物を４点採取し、遺構の年代測定と炭化物の樹種鑑定を依頼したが、現地で黒色の炭化物に見えたものは多くが灰で、炭化物はほとんど検出されなかった。僅かにＳＯ582内から検出した炭化物は草本性単子葉類の茎部であった。燃料の材が灰化するまで充分に燃焼したか、意図的に炭化物を取り除いた可能性が考えられている。

薬師遺跡から1.7㎞南の小沢（岳下）遺跡(註1)では、中世の遺構と推定される窯跡６基が調査されているが、それらを見ると、トンネル式に掘り込んだ煙道があり、燃焼部を中心にして煙道と焚き口部は直線にならず100度以上の角度をなすこと、燃焼部と焚き口部の境を扁平な礫で補強するものがあること、埋土に炭の砕片が多く混入することなどの相違点がある。

薬師遺跡のカマド状遺構により近い形態のカマド状遺構を検出した青森県では、カマド状遺構を繊維生産或いは染色に関わる遺構と性格づけている。薬師遺跡の遺構の特徴からは、円形の開口部では鉄鍋を置いて煮沸を行い、長く緩やかに傾斜する焚き口部では生成された灰や炭化物を掻き出したなど宮田館遺跡、米山（２）遺跡(註2)と同様の行為も想定でき、それらの例と同じ性格の遺構である可能性があろう。カマド状遺構には小規模な掘立柱建物が伴い、溝も付近に同時に造られて機能していたと推定される。

放射性炭素年代測定では、カマド状遺構とそれに重複する溝の年代がいずれも15世紀第３四半期の極めて近い年代を示していて、ＳＢ01～08・10・15などの12世紀後半から13世紀初頭の掘立柱建物跡とは隔たりがあることになる。その場合、カマド状遺構を営んだ人々が居住する建物は調査区外に求められることになるが、しかし、掘立柱建物跡とは別個の屋外施設であるカマド状遺構、およびそれに重複する溝が、12世紀後半から13世紀半ばまでの掘立柱建物跡とは全く重複することなく分布する

ことを考えるならば、むしろそれらの建物に伴うものである可能性もあるであろう。

3　道路

南北方向のＳM322･323道路は幅約4.5～5.7mの道路で、相互の新旧関係は不明ながら位置をずらして作り替えて維持されている。これらを切る形で東から直角に交わるＳM330がその後に作られる。この道路は調査区内において先行する２時期の道路と同一の南北方向に曲折している。従来からの南北方向の道路が何らかの理由で北方への通行が不要となり、東西に迂回する道路が新たに造成されたものであろうか。だが、南への道路は３時期にわたってもなお維持され続けているのであるから、その存続にはそれなりに強い必然性があったのであろう。南方には雄物川によって形成された広い氾濫原と雄物川本流、そして古代からの信仰の山、神宮寺嶽がある。

３時期にわたる道路は掘立柱建物とは重なることなく、ムラの東端を区切る位置に維持され続けている。その時期は遺物の上からは不明であるが掘立柱建物との位置関係から、それらの存続期間、すなわち13世紀から14世紀にわたっての使用が推定される。

註１　小林　克「岳下遺跡検出の窯跡について」『秋田県埋蔵文化財センター研究紀要』 第10号　1995（平成７）年３月

註２　青森県教育委員会『宮田館遺跡Ⅲ・米山（２）遺跡Ⅱ』 青森県埋蔵文化財調査報告書　第344集
2003（平成15）年３月

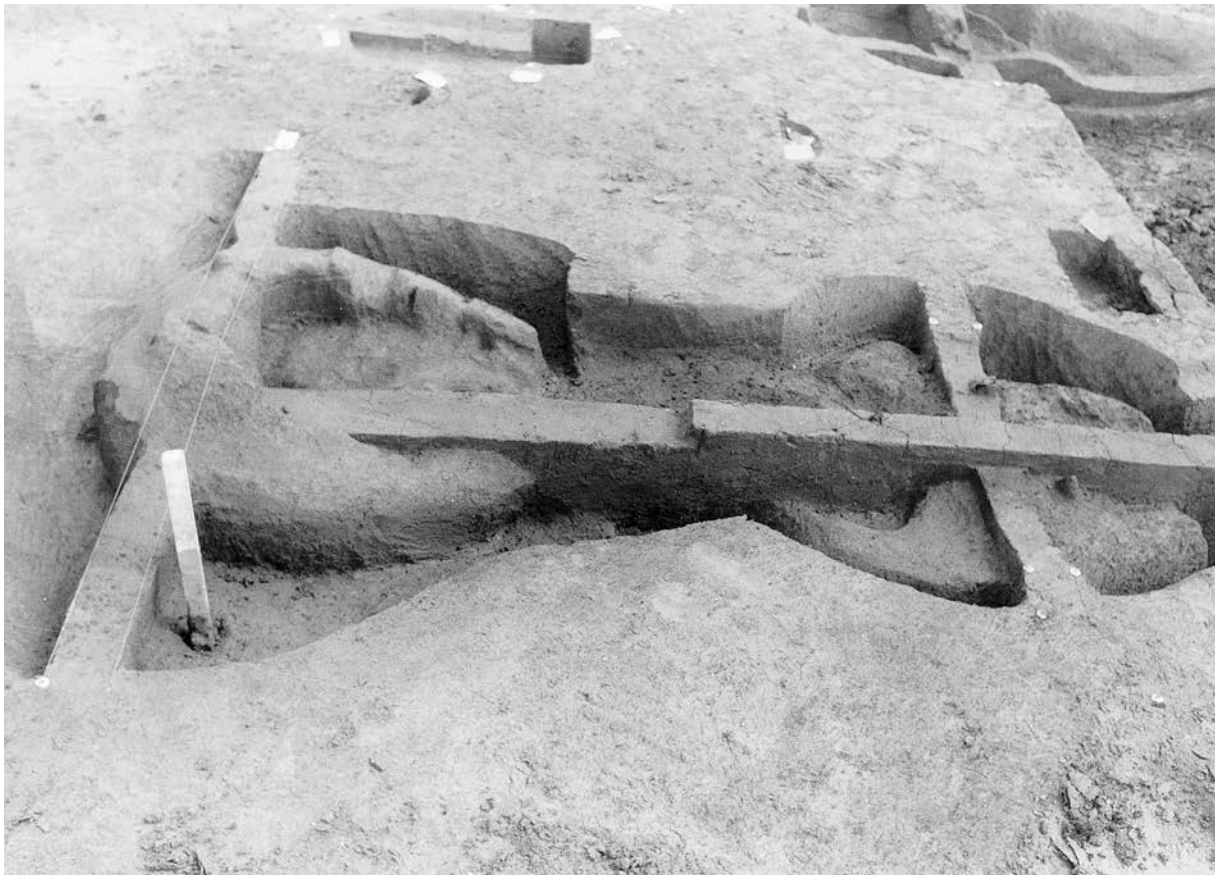
1　ＳＢ01堀立柱建物跡（北から）

2　ＳＢ01・02堀立柱建物跡（西から）

図版2

1　ＳＢ05・07掘立建物跡（東から）

2　ＳＢ05掘立建物跡（東から）



1　ＳＯ290Ａ・Ｂカマド状遺構（西から）

2　ＳＯ293カマド状遺構（東から）

図版4

1　ＳＯ552カマド状遺構（北から）

2　ＳＯ552カマド状遺構（東から）

1　ＳＯ565カマド状遺構（東から）

2　ＳＯ565カマド状遺構（北から）

1　ＳＯ582カマド状遺構（西から）

2　ＳＯ600カマド状遺構（北から）

1　ＳＯ600カマド状遺構（東から）

2　ＳＯ600カマド状遺構（南から）

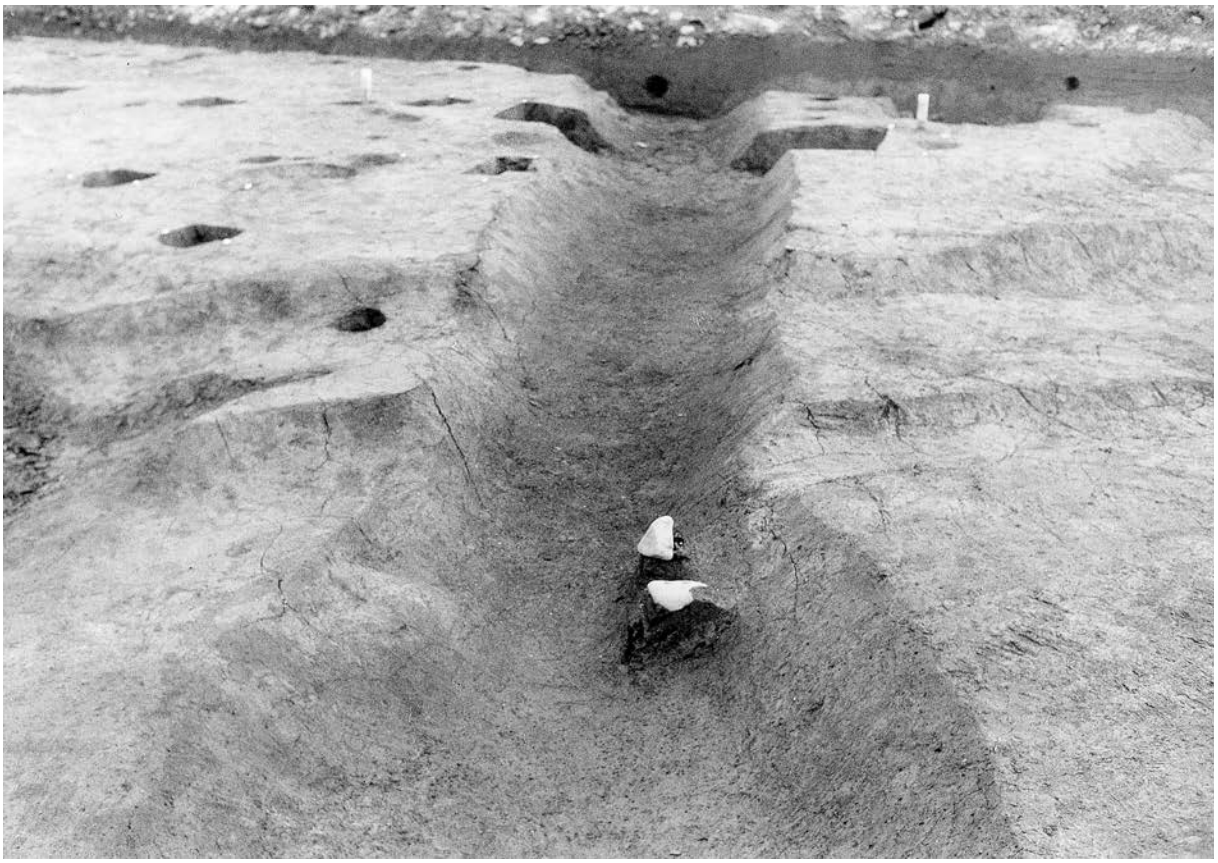
1　ＳＯ807カマド状遺構（東から）

2　ＳＯ807カマド状遺構（北から）

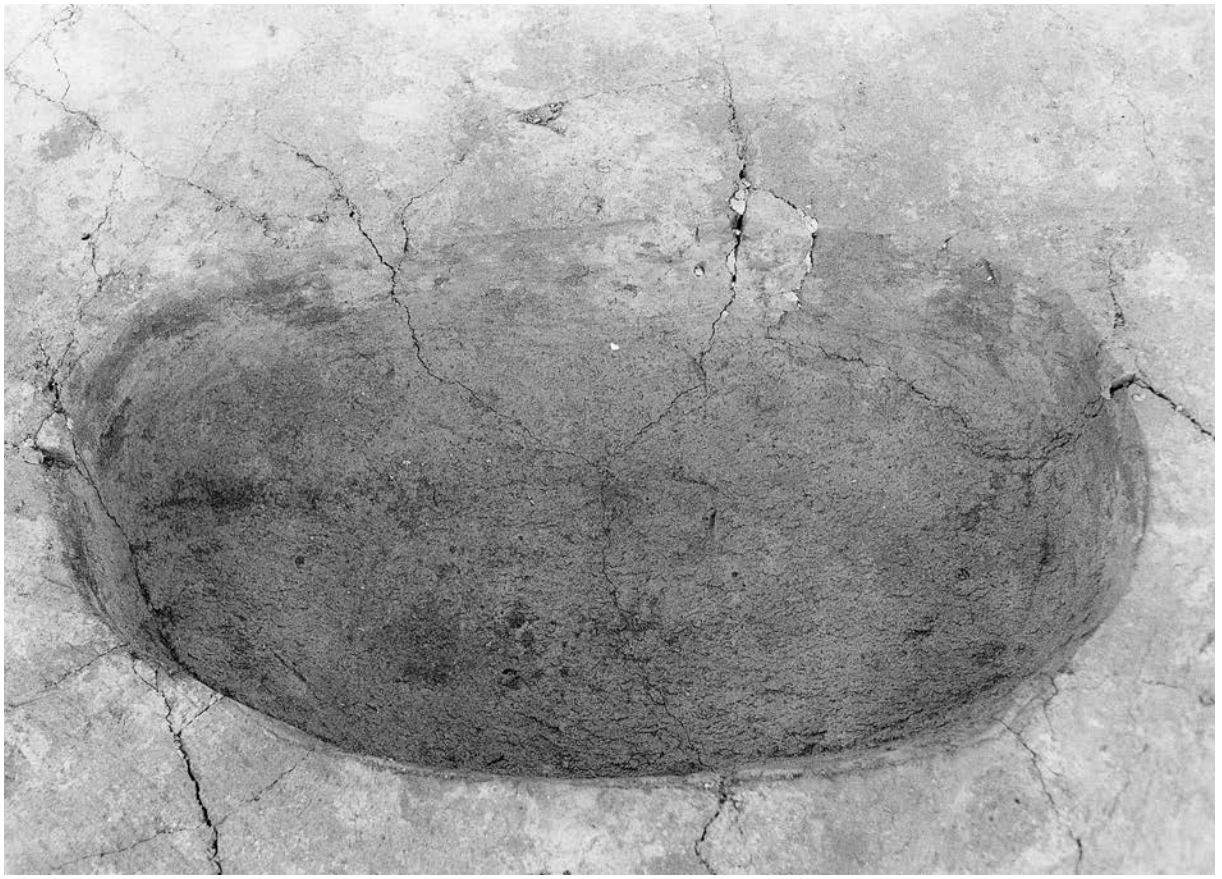
1　ＳＭ322・323道路跡（南から）

2　ＳＭ322・323道路跡（北から）

1　ＳＭ330道路跡



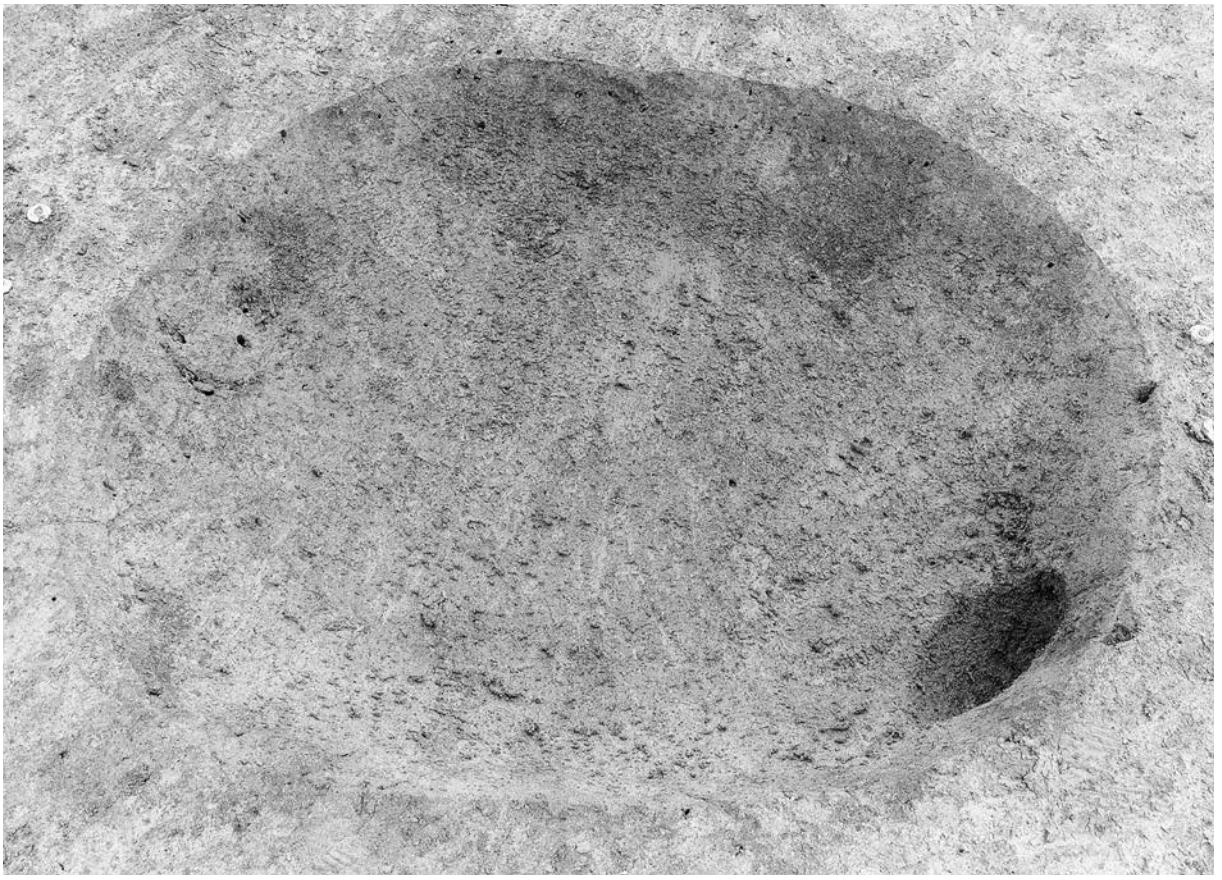
2　ＳＤ529溝跡（北から）



1　ＳＫ89土坑（東から）

2　ＳＫ107土坑（東から）

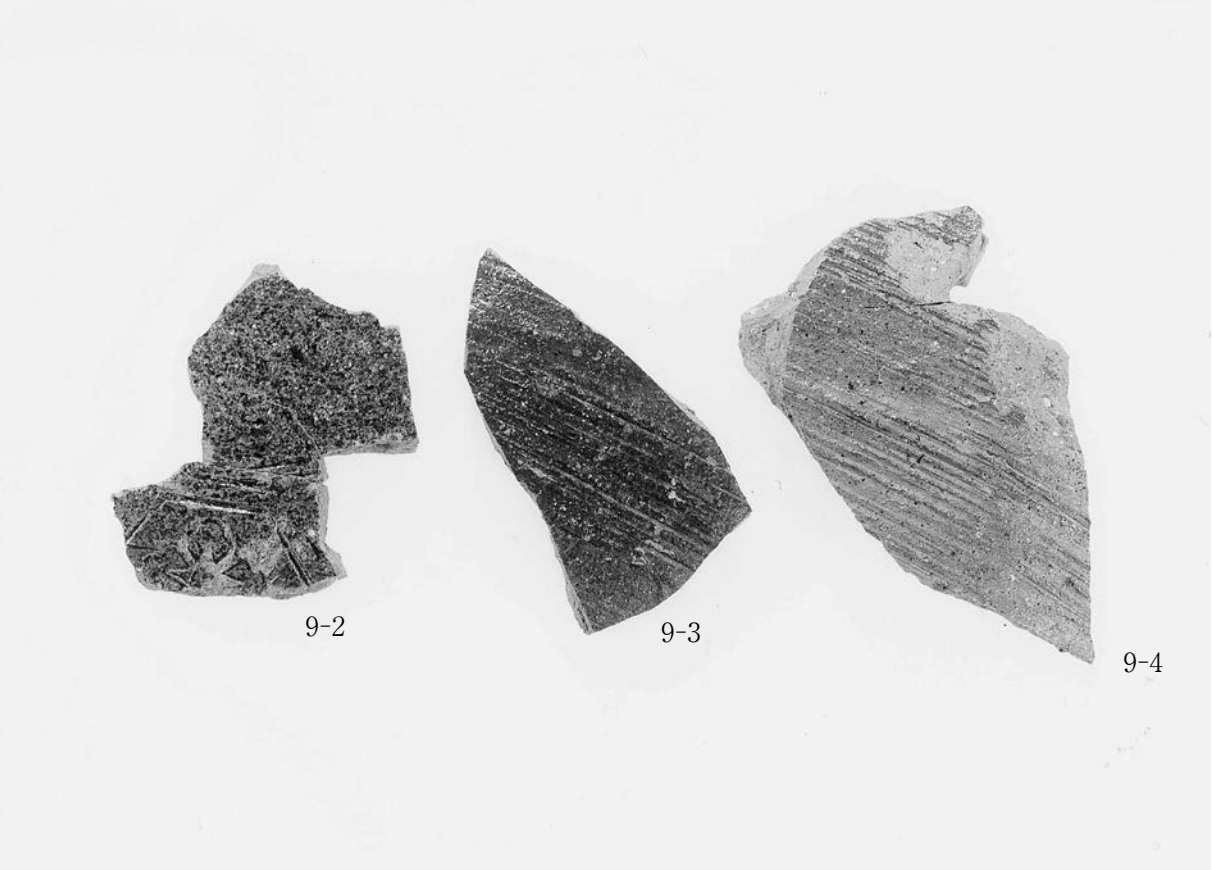
1　ＳＫ152土坑（南から）



2　ＳＫ661土坑（西から）

1　ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器

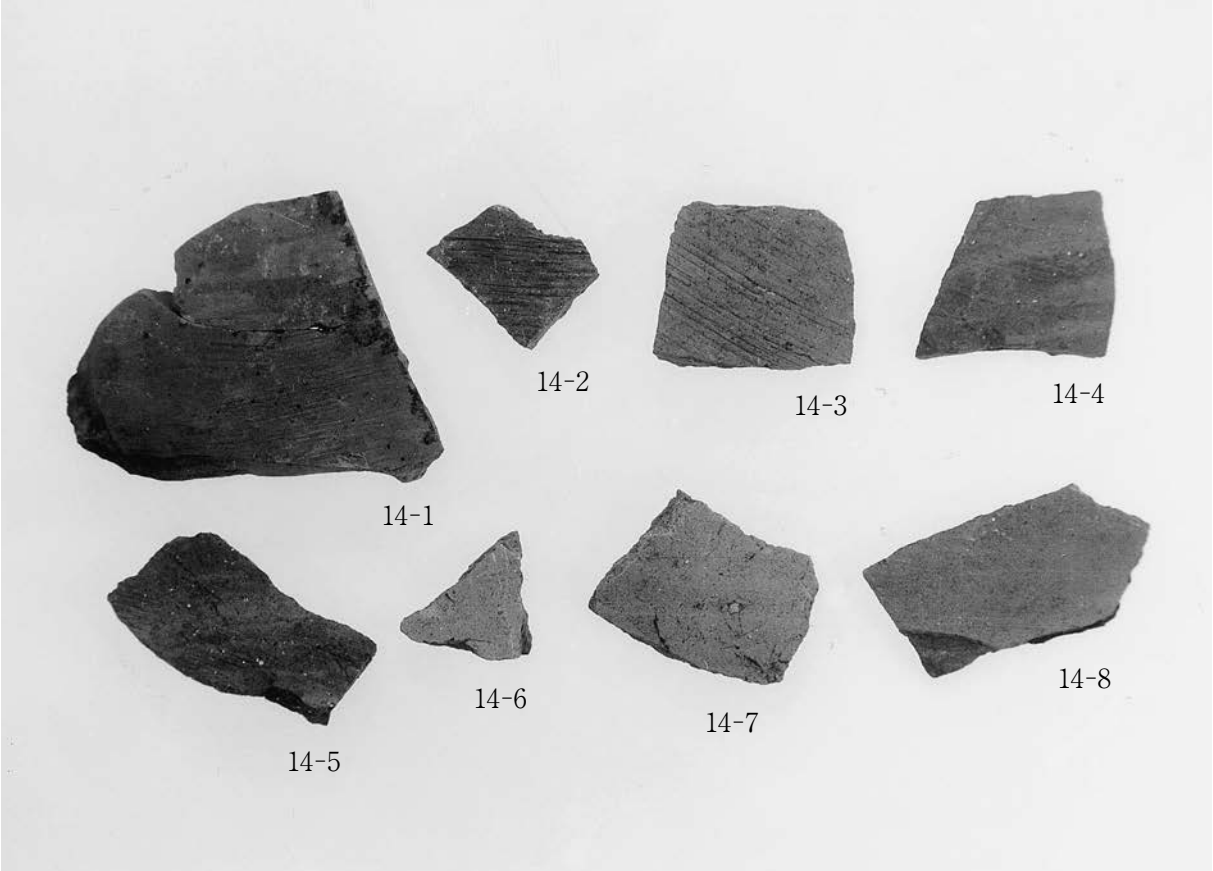
2　ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器



1　ＳＢ01掘立柱建物跡出土中世陶器

2　ＳＢ01掘立柱建物跡出土砥石

1　ＳＢ03掘立柱建物跡出土中世陶器



2　ＳＢ06掘立柱建物跡出土中世陶器

38-1

38-2

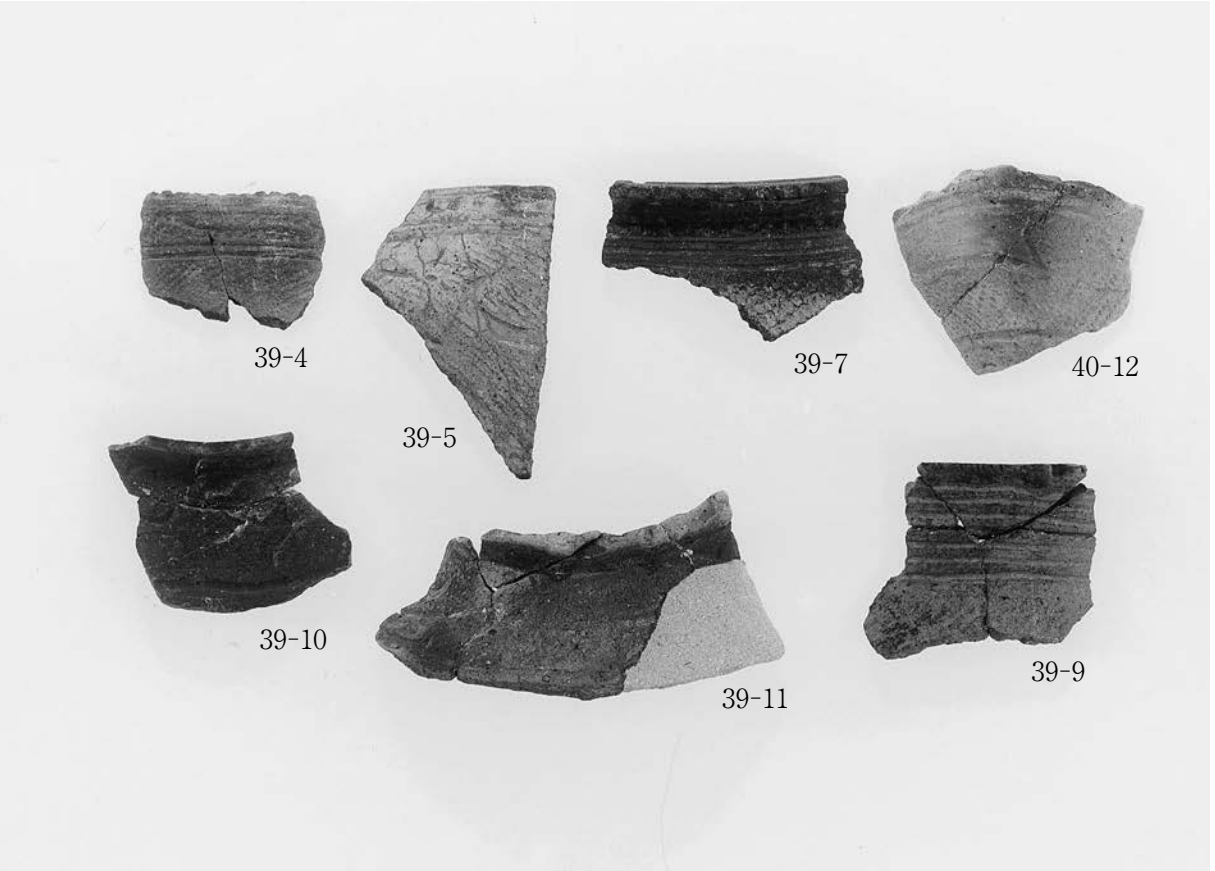
39-6

40-13

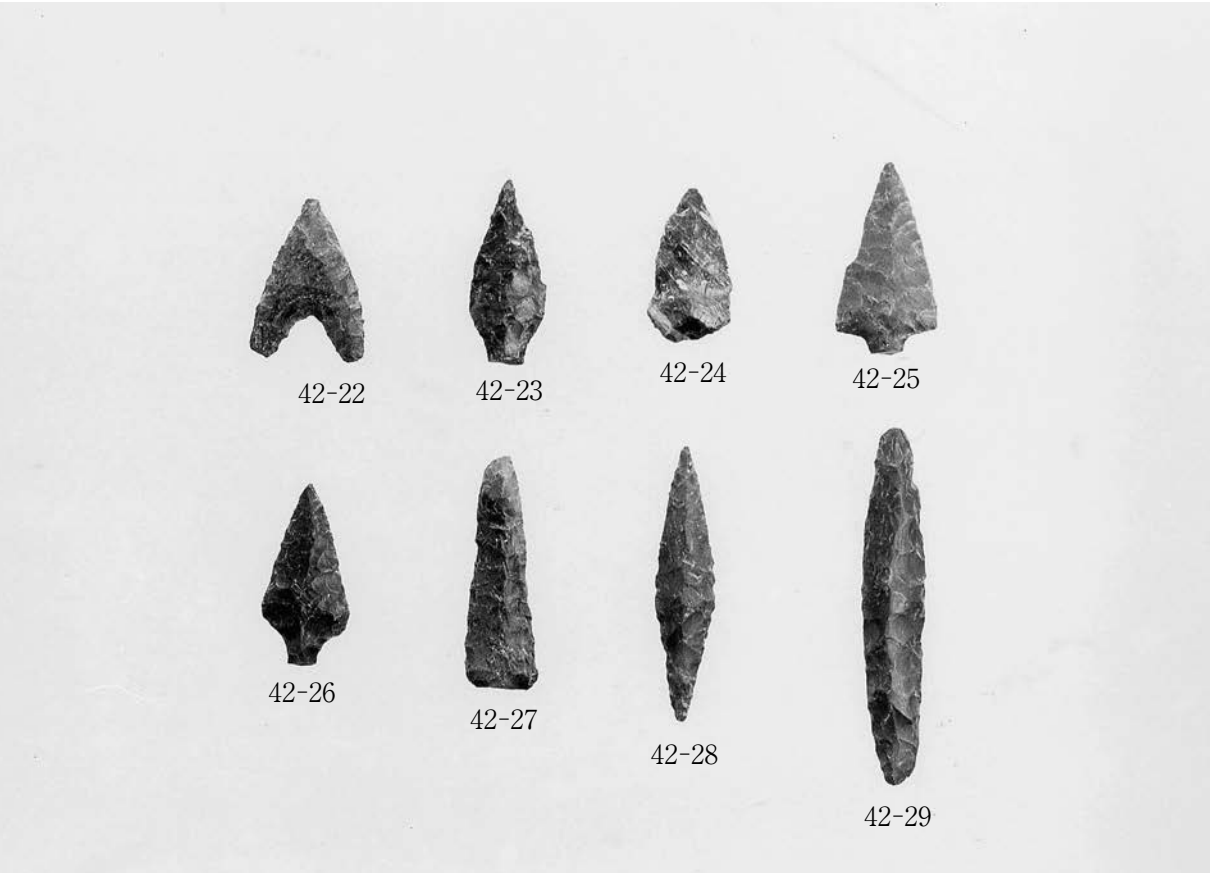
40-16

40-17

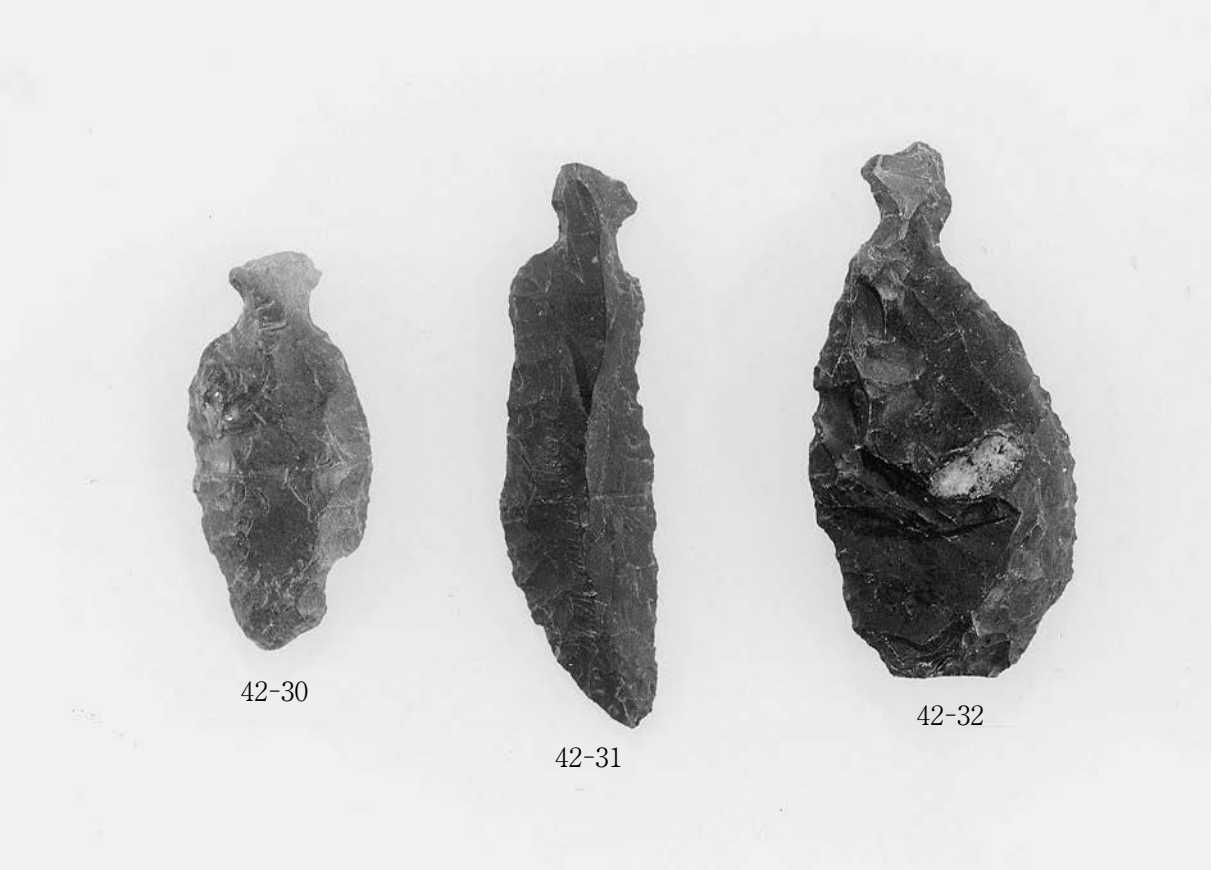
遺構外出土縄文土器



1　遺構外出土縄文土器

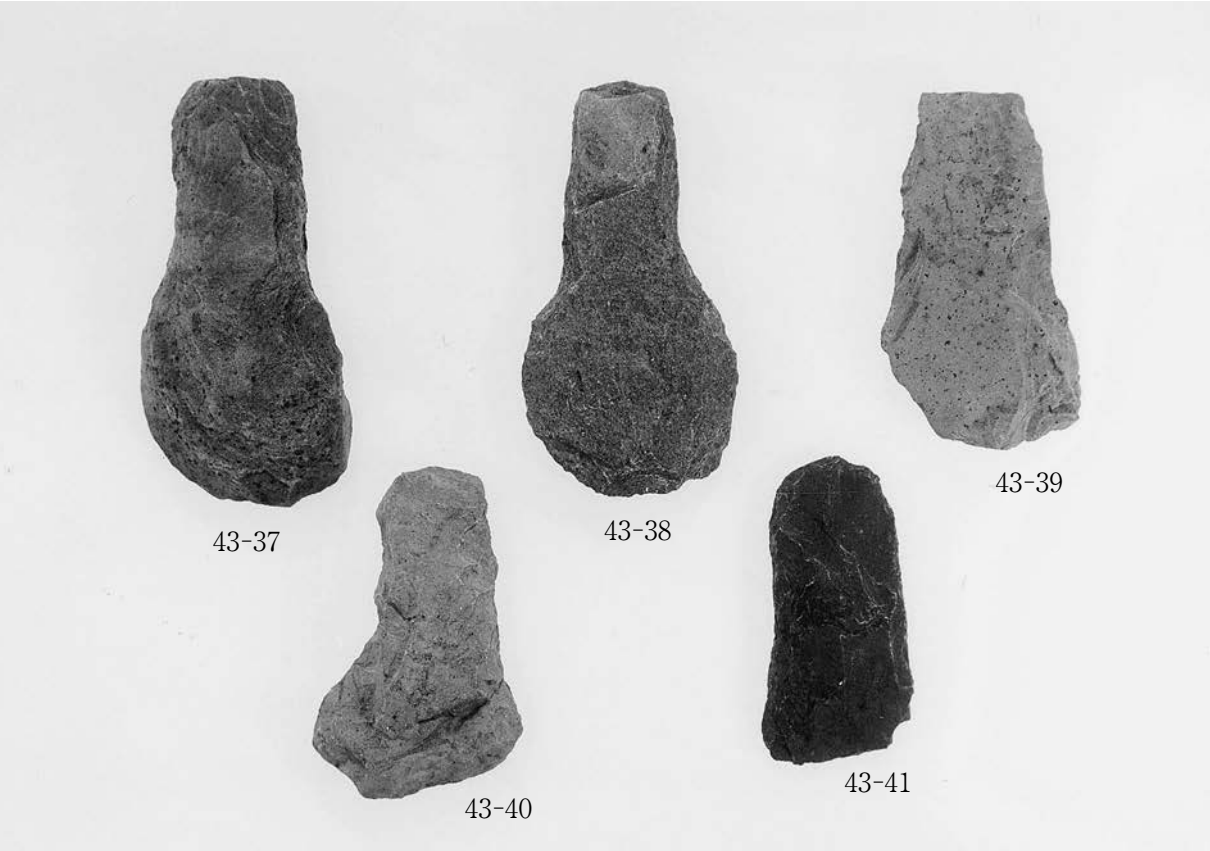


2　遺構外出土石器



1　遺構外出土石器

2　遺構外出土石器



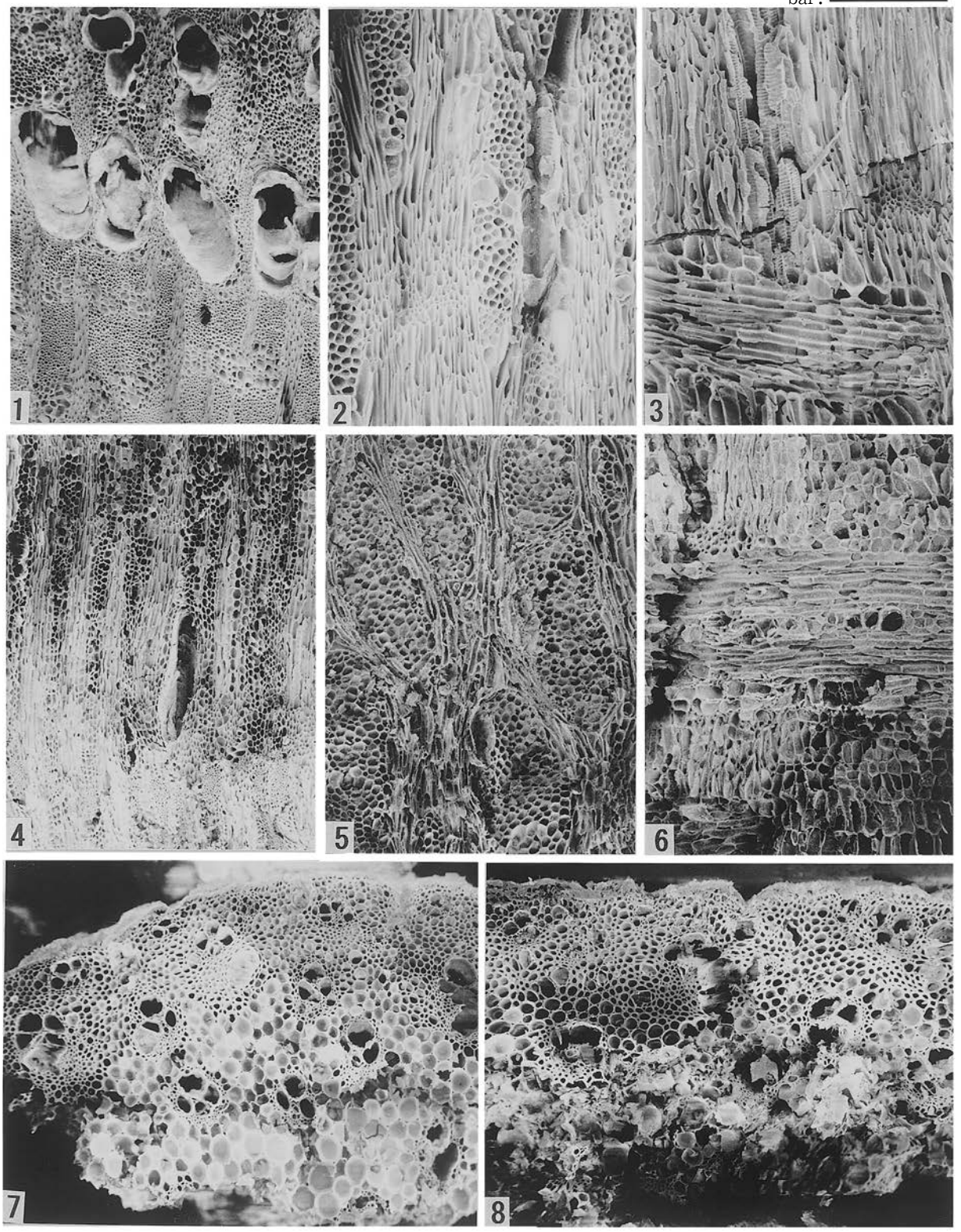
1　遺構外出土石器

2　遺構外出土石器

図版20

炭化材の走査電子顕微鏡写真

bar:



1-3:ケヤキ(SD529)　4-6:不明広葉樹(SD529)　7-8:草木性単子葉類(SO582)
1-4:横断面　bar:約0.35㎜、2:接線断面　bar:約0.18㎜、5:接線断面　bar:約0.26㎜
3:放射断面　bar:約0.18㎜、6:接線断面　bar:約0.26㎜
7:横断面　bar:約0.35㎜、8:横断面　bar:約0.26㎜

報　告　書　抄　録

ふりがな	やくしいせき
書　　名	薬師遺跡
副　書　名	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書
巻　　次	
シリーズ名	秋田県文化財調査報告書
シリーズ番号	第３８８集
編著者名	赤上秀人　児玉　準
編集機関	秋田県埋蔵文化財センター
所　在　地	〒014－0802　秋田県仙北郡仙北町払田字牛嶋20　　TEL　0187-69-3331
発行年月日	西暦2005年３月

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 °′ ″	調査期間	調査面積	調査原因
やくしいせき 薬師遺跡	あきたけんせんぼくぐん 秋田県仙北郡 かみおかまちじんぐうじ 神岡町神宮寺 あざやくし 字薬師26番地外	05421	－	39° 29′ 44″	140° 26′ 11″	20030520 ～ 20030922	7,500㎡	一般国道13号神宮寺バイパス建設事業

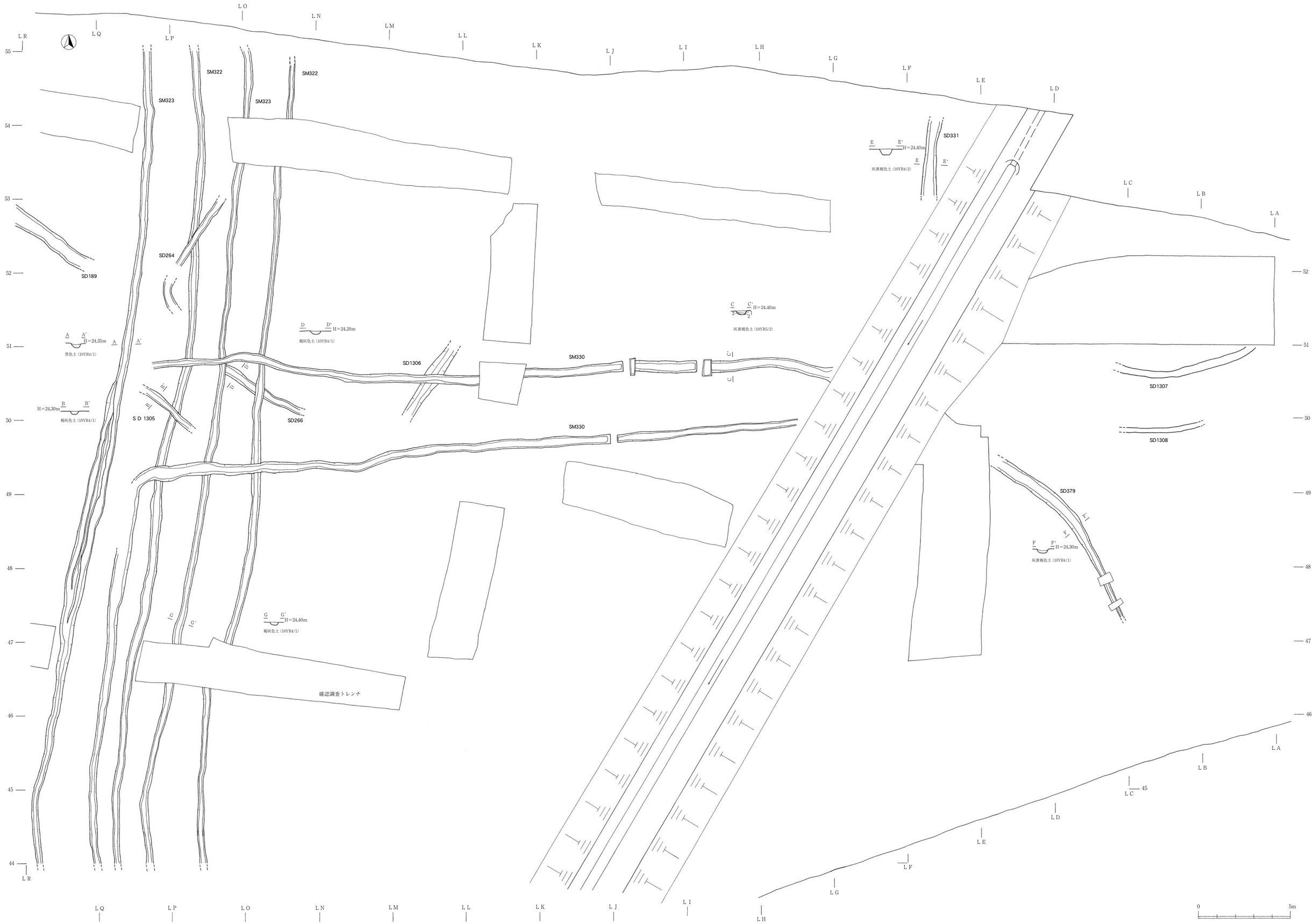
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
薬師遺跡	集落跡	中　世	掘立柱建物跡　13棟 カマド状遺構　11基 井戸跡　１基 道路跡　３条 溝跡　19条 土坑　61基 性格不明遺構　３基 計111遺構	須恵器系中世陶器 瓷器系中世陶器	12世紀後半から13世紀半ばにわたる掘立柱建物跡、道路跡などからなる集落跡が検出された。

秋田県文化財調査報告書第388集

薬　師　遺　跡

－一般国道13号神宮寺バイパス建設事業に係る
埋蔵文化財発掘調査報告書－

印刷・発行　平成17年３月
編　　集　秋田県埋蔵文化財センター
〒014-0802　仙北郡仙北町払田字牛嶋20番地
電話（0187）69-3331　FAX（0187）69-3330
発　　行　秋田県教育委員会
〒010-8580　秋田市山王三丁目１番１号
電話（018）860-5193
印　　刷　有限会社　雄物川印刷


LR
LQ
LP
LO
LN
LM
LL
LK
LJ
LI
LH
LG
LF
LE
LD
LC
LB
LA
55
54
53
52
51
50
49
48
47
46
45
44
SM322
SM323
SD264
SD189
SD331
E E' H=24.40m
灰黄褐色土（10YR4/2）
A A' H=24.35m
黒色土（10YR4/1）
D D' H=24.20m
褐灰色土（10YR4/1）
C C' H=24.40m
灰黄褐色土（10YR5/2）
SD1306
SM330
SD1307
SD1308
H=24.30m B B'
褐灰色土（10YR4/1）
SD 1305
SD266
SD379
F F' H=24.30m
灰黄褐色土（10YR4/1）
G G' H=24.40m
褐灰色土（10YR4/1）
確認調査トレンチ
0
5m